

第435図 竪穴状遺構 (SK-270・398・409・474) 実測図

第270号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 4 黒褐色 炭化物・ローム大ブロック・ローム粒子少量

第398号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化物少量

第409号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、炭化物少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

第470号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック極少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

② 粘土張り遺構

第360号土坑 (第444図)

位置 調査区の中央部やや東側, C18f5区。

重複関係 第86号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-16°-W

規模と平面形 長径1.12m, 短径0.95mの楕円形で、深さ52cmである。

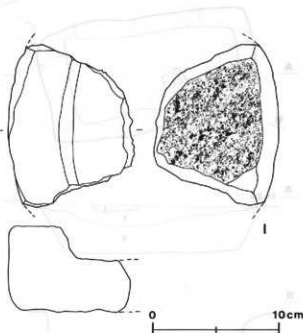
壁 外傾して立ち上がる。

底面 厚さ10cmほどの粘土張りで、平坦である。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含み、人為堆積と思われる。

遺物 覆土中から第436図1の石臼が出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが、遺構の形態から近世の「流し溜」と思われる。



第436図 第360号土坑出土遺物実測・拓影図

第360号土坑出土石製品観察表

図版番号	器一機	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第436図1	石 臼	(12.8)	(10.0)	6.9	(1204.7)	花崗岩	Q38 副溝 欠損品 覆土

第362号土坑（第444図）

位置 調査区の中央部やや東側，C18f4区。

重複関係 第82号住居跡と第363号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-81°-E

規模と平面形 長径1.17m，短径1.04mの楕円形で，深さ30cmである。

壁 垂直に立ち上がり，粘土張りである。

底面 平坦である。粘土ブロックを含んでいる。

覆土 いずれの層にも粘土が含まれている。

遺物 なし。

所見 本跡の東側で第363号土坑，北東側で第364号土坑が確認されている。いずれも粘土張り遺構で，第363号土坑は本跡の後に作られたものと思われる。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の墓塚と思われる。

第363号土坑（第444図）

位置 調査区の中央部やや東側，C18f4区。

重複関係 北側部分が第364号土坑に，西側部分が第362号土坑に掘り込まれている。

長径方向 N-67°-E

規模と平面形 長径1.55m，短径1.44mの円形で，深さ47cmである。

壁 垂直に立ち上がり，粘土張りである。

底面 平坦である。粘土は張られていない。

覆土 1層からなり，一挙に埋め戻されたと思われる。

遺物 なし。

所見 本跡の北側で第364号土坑，西側で第362号土坑が確認されており，いずれも粘土張り遺構である。どちらも本跡の後に作られたものと思われる。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の墓塚と思われる。

第364号土坑（第444図）

位置 調査区の中央部やや東側，C18f4区。

重複関係 第82号住居跡と，南側部分で第363号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-41°-E

規模と平面形 長径0.80m，短径0.70mの楕円形をしている。

底面 厚さ10cmの粘土張り，平坦である。

遺物 なし。

所見 本跡の南側で第363号土坑，南西側で第362号土坑が確認されている。いずれも粘土張り遺構で，第363号土坑は本跡の後に作られたものと思われる。本跡の覆土は残存しておらず，底面の粘土が確認できただけで，壁の立ち上がりは不明である。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態及び粘土張りの第362，363号土坑が近接していることから，本跡は近世の墓塚と思われる。

第367号土坑 (第444図)

位置 調査区の東部, C18c9区。

長径方向 N-0°

規模と平面形 径0.80mの円形をしている。

底面 厚さ10cmの粘土張りで、平坦である。

覆土 覆土は削平されて残存していない。土層1は底面に粘土を張った後埋め戻されたものである。

遺物 なし。

所見 本跡の覆土は残存しておらず、底面の粘土が確認できただけで、壁の立ち上がりは不明である。遺構に伴う遺物は出土していないが、遺構の形態から近世の「流し溜」と思われる。

第369号土坑 (第444図)

位置 調査区の中央部やや東側, C18d5区。

重複関係 第93号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-37°-W

規模と平面形 長径1.10m, 短径0.94mの楕円形で、深さ29cmである。

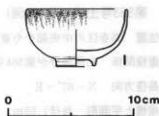
壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 粘土張りで、中央部が最も厚く5cmほどで、平坦である。

覆土 3層からなる。土層2は粘土粒子を多量含んでブロック状に堆積して

おり、人為堆積と思われる。

遺物 第437図1の碗が覆土下層から出土している。



第437図 第369号土坑出土遺物実測図

第369号土坑出土遺物観察表

図号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第437図	碗	A(8.0)	染付の碗。高台は直立し、体部は	ロケ口成形。胴り出し高台。	粘土: 灰白色	P130 50%
1	組	B 4.0	内彎しながら立ち上がる。		釉: 透明	覆土下層
		D 3.0			良好	(肥前系) 18c
		E 0.6				

所見 遺構の形態及び出土遺物から近世の墓塚と思われる。

第574号土坑 (第444図)

位置 調査区の東部, C19e1区。

重複関係 第573号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

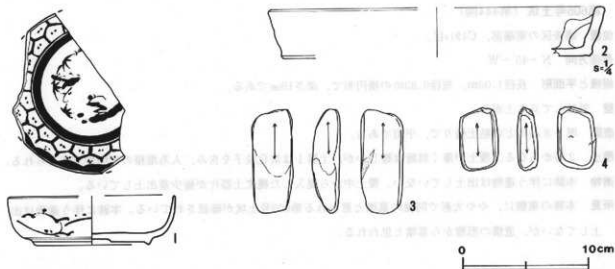
規模と平面形 径1.07mの円形で、深さ46cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 厚さ5cmほどの粘土張りで、平坦である。

覆土 10層からなる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

遺物 底面近くから第438図1の皿と2のほうろく及び3, 4の砥石が出土している。



第438図 第574号土坑出土遺物実測図

第574号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第438図 1	染付皿 磁器	A 13.4 B 3.9 D 9.0 E 0.4	染付の皿。絶の目高台。体部は内彎しながら立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	粘土：灰白色 釉：透明 良好	F187 40% 底面 内面張付き (肥前系) 18c
2	ほうろく 土師質土器	A 35.2 B 5.2 C 32.0	平底で、体部はやや外傾して立ち上がった後直立する。体部内面上半から底部に内耳貼り付け。	内・外面ナデ。	巻粒・スコリア 灰質 外周張付き 普通	F188 10% 底面 外周張付き 近世後半

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第438図 3	磁石	8.3	3.3	2.3	85.7	凝灰岩 Q48 底面	
4	磁石	(5.1)	3.1	1.6	38.3	凝灰岩 Q49 一部欠損 底面	

所見 出土遺物から近世の墓塚と思われる。

第603号土坑 (第444図)

位置 調査区の東端部, C19is区。

長径方向 N-45°-W

規模と平面形 長径1.30m, 短径1.15mの楕円形で、深さ32cmである。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。南部に幅12~15cm, 最大厚6cmほどの粘土が弦状に張られている。

覆土 8層からなる。堆積状況から、人為的に埋め戻したと思われる。

遺物 覆土中から縄文土器片が極少量出土しているが、混入したもので本跡に伴うものではない。

所見 本跡の西側に、規模は異なるが同軸の粘土張り遺構の第605号土坑が確認されている。遺構に伴う遺物は出土していないが、遺構の形態から近世の墓塚と思われる。

第605号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，C19is区。

長径方向 N-45°-W

規模と平面形 長径1.00m，短径0.83mの楕円形で，深さ19cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 厚さ8cmほどの粘土張りで，平坦である。

覆土 2層からなる。覆土が薄く判断は難しいが，土層1は炭化粒子を含み，人為堆積の可能性が考えられる。

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。覆土中から混入した縄文土器片が極少量出土している。

所見 本跡の東側に，やや大形で同軸の墓壇と思われる第603号土坑が確認されている。本跡に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から墓壇と思われる。

第639号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19bs区。

重複関係 第165号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

規模と平面形 径0.68mの円形である。

底面 厚さ5cmの粘土張りで，平坦である。

覆土 覆土は削平され，堆積状況は不明である。土層1，2は掘り方部分の層で，土層1，2の上に灰白色の粘土が張られている。

遺物 なし。

所見 本跡の北西側に近接して粘土張りの第666号土坑が確認されている。また，1.6mほど西側でも粘土張りの第675号，685号土坑が確認されている。本跡は，底面の粘土張りが確認できただけで，壁の立ち上がりや覆土の堆積状況等是不明である。遺構に伴う遺物が出土しておらず，規模的にもやや小形であるが，周囲の粘土張り遺構との関係から，近世の墓壇と考えられる。

第653号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19c7区。

長径方向 N-26°-E

規模と平面形 長径1.30m，短径1.18mの楕円形で，深さ40cmである。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 厚さ7cmほどの粘土張りで，平坦である。

遺物 なし。

所見 本跡の1mほど北側に，墓壇と思われる第657号土坑が確認されている。本跡に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の墓壇と思われる。

第654号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19c7区。

長径方向 N-66°-W

規模と平面形 長径1.30m, 短径1.09mの

楕円形で、深さ74cmである。

壁 やや外傾して立ち上がる。

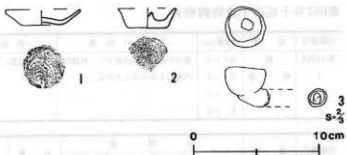
底面 僅かに皿状である。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含

み、人為堆積と思われる。

遺物 底面近くから第439図1の小皿, 2

の乗場及び3の煙管が出土している。



第439図 第654号土坑出土遺物実測・拓影図

第654号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	小皿 土師質土器	A〔6.0〕	底部から口縁部にかけての破片。 上げ底で、体部は外傾して立ち上がる。 C〔3.4〕	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	F201 底面 45%
		B 1.2				
		C〔3.4〕				
2	乗場 土師質土器	A〔4.6〕	底部から口縁部にかけての破片。 たんこころ形。平底で、体部は外傾して立ち上がる。底部内面中央に円筒状の芯立てを有し、一面が縦に溝状に切り込まれている。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい褐色 普通	F202 底面 内・外面横ナデ 40%
		B 1.6				
		C〔3.2〕				

図版番号	器種	計測値(cm)			重量	現存率	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第439図 3	煙管	(1.8)	(1.6)	(3.0)	10	底面	耳 覆着	

所見 本跡は、粘土張り部分は見られなかったが、遺構の規模は他の近世の墓塚と類似しており、出土遺物からも近世の墓塚と思われる。

第657号土坑 (第444図)

位置 調査区の東端部, D19b区。

重複関係 第656号, 658号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-19°-E

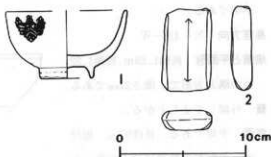
規模と平面形 長径1.18m, 短径1.05mの楕円形で、深さ55cmである。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 僅かに皿状である。底面の中央部を囲むように、底面の端部から壁面の下部にかけてドーナツ状に粘土が張られている。厚さは最大で10cmほどである。底面中央部に粘土は見られない。

覆土 15層からなる。ブロック状に堆積しており、人為的に埋め戻されている。土層2には骨粉が極少量含まれている。

遺物 北部覆土下層から第440図1の碗と2の磁石が出土している。他に内耳鍋の破片が極少量出土している。



第440図 第657号土坑出土遺物実測図

第657号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	前測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第440図 1	甕 紐 器	A(9.4) B 5.4 D 4.0 E 0.8	染付の甕。高台は直立し、体部は内傾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	粘土：灰白色 釉：透明 良好	P203 60% 覆土下層 (肥前系) 18c

図版番号	器種	計測値			石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
第440図2	紙石	(6.6)	(3.9)	1.8	(67.3)	凝灰岩 Q58 欠損品 覆土下層

所見 本跡は、遺構の形態及び出土遺物から近世の墓塚と思われる。また、本跡の東西で楕円形状の第656号、658号土坑が確認されている。規模的には本跡とほぼ同規模であるが、粘土張りではなく、遺物も出土していないため性格は不明である。

第666号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19ae区。

重複関係 第165号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

規模と平面形 径0.60mの円形である。

底面 厚さ5cmの粘土張りで、平坦である。

覆土 覆土は剛平され、堆積状況は不明である。土層1は掘り方部分の層で、土層1の上に灰白色の粘土が張られている。

遺物 なし。

所見 本跡の南東側に近接して粘土張りの第639号土坑が確認されている。また、1.6mほど南西側でも粘土張りの第675号、685号土坑が確認されている。本跡は、底面に張られた粘土が確認できただけで、壁の立ち上がりや覆土の堆積状況等は不明である。「規模と平面形」も確認できた粘土張り部分についての形状及び数値である。遺構に伴う遺物がなく、規模的にも粘土張りの径が小さく、「流し溜」という見方ができるが、周囲の粘土張り遺構とのセット関係から近世の墓塚と考えられる。

第675号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19b7区。

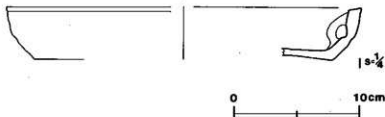
重複関係 第165号住居跡の南西壁を掘り込んでいる。北西側部分で第685号土坑と接しているが、新旧関係は不明である。

長径方向 N-42°-W

規模と平面形 長軸1.28m、短軸1.22mの隅丸方形で、深さ21cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。長径97cm、短径90cmの卵形の範囲で粘土が張られている。厚さは10cmほどで、褐色



第441図 第675号土坑出土遺物実測図

土と灰白色の粘土を混ぜ固めている。

覆土 土層は部分的な確認であったが、一挙に埋め戻した人為堆積である。

遺物 中央部底面から第441図1のほうろくが出土している。

第675号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第441図 1	ほうろく 土師質土器	A(37.0)	底端から口縁にかけての破片。上	内・外型ナデ。	砂粒・長石・雲母 にふい歯褐色 普通	P208 底面 外側縁付着 近世後半
		B 5.5	げ底で、体部は内彎しながら立ち			
		C(31.0)	上がる。体部上段からF位に内耳 貼り付け。			

所見 本跡は北西側で粘土張りの第685号土坑と接しており、また1.6m程北西側で粘土張りの第639号、666号土坑が確認されている。これらのセット関係と出土遺物及び遺構の形態から近世の墓塚と思われる。

第685号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，D19b7区。

重複関係 第165号住居跡の南西壁を掘り込んでいる。南東側部分で第675号土坑と接しているが、新旧関係は不明である。

長径方向 N-42°-W

規模と平面形 長径1.35m，短径1.20mの円形で、深さ34cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。長径86cm，短径62cmの楕円形の範囲で粘土が張られている。褐色土に灰白色の粘土ブロックを少量混ぜて固めている。

覆土 西側を部分的に確認しただけのため土層断面図は割愛したが、ロームブロックを含み、各層がブロック状に堆積しており、一挙に埋め戻した人為堆積である。

遺物 なし。

所見 本跡は南東側で粘土張りの第675号土坑と接しており、また2mほど北西側で粘土張りの第639号、666号土坑が確認されている。本跡に伴う遺物は出土していないが、これらのセット関係と遺構の形態から近世の墓塚と思われる。

第688号土坑（第444図）

位置 調査区の東端部，C19ha区。

重複関係 第166号住居跡の南側部分の床面を掘り込んでいる。

長径方向 N-0°

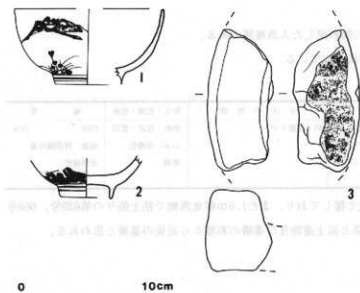
規模と平面形 径0.50mの円形である。

壁 上部削平のため残存していない。

底面 平坦である。褐色土に灰白色の粘土を混ぜ固めた粘土張りで、厚さは7cmほどである。

覆土 覆土は削平され、堆積状況は不明である。

遺物 底面から第442図1，2の碗が、本跡の東側から3の石臼が出土している。



第442図 第688号土坑出土遺物実測・拓影図

第688号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第442図 1	碗 組器	A [1.8]	底面から口縁部にかけた破片。	ロタロ成形。削り出し高台。	粘土：灰白色 釉：透明 良好	P210 30% 底面 (肥前系) 18c
		B 6.1	傘付の碗。高台は直立し、体部は内彎しながら立ち上がる。			
		D [5.3]				
		E 1.0				
2	碗 組器	B [3.4]	破片。傘付の碗。高台は直立し、体部は内彎しながら立ち上がる。	ロタロ成形。削り出し高台。	粘土：灰白色 釉：透明 良好	P211 20% 底面 (肥前系) 18c
		D 4.2				
		E 1.0				

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第442図3	石 臼	(11.3)	(5.3)	6.5	(585.7)	花崗岩	051 砥溝 底面

第689号土坑 (第444図)

位置 調査区の東端部、C19ha区。

重複関係 第166号住居跡の南側の床面を掘り込んでいる。

長径方向 長径1.02m、短径0.68mの楕円形である。

壁 上部削平のため残存していない。

底面 平坦である。褐色土に灰白色の粘土を皿状に張っており、最大厚は10cmほどである。

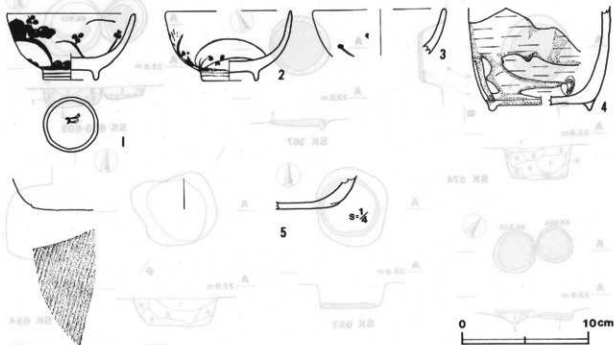
覆土 覆土は削平され、堆積状況は不明である。土層1は掘り方部分の層で、1の上に粘土を張っている。

遺物 底面から第443図1～3の碗と4の壺及び5のほうろくが出土している。

第689号土坑出土遺物観察表

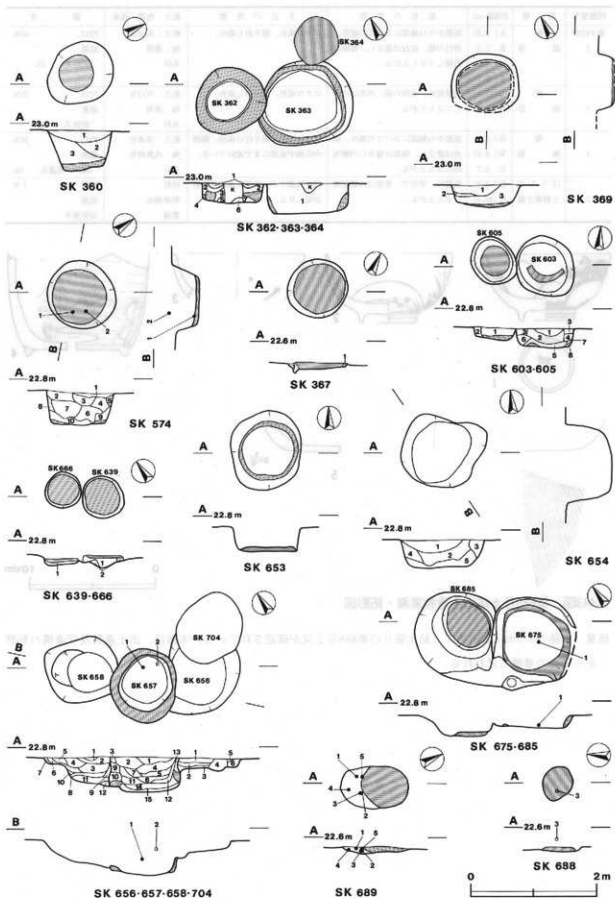
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第443図 1	碗 組器	A 10.2	一部欠損。傘付の碗。高台は直立し、体部は内彎して立ち上がる。	ロタロ成形。削り出し高台。	粘土：灰白色 釉：透明 良好	P212 20% 底面 (肥前系) 18c
		B 5.3				
		D 4.4				
		E 0.7				

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第443図 2	碗	A(9.8)	底部から口縁部にかけての破片。 染付の碗。高台は直立し、体部は 内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	粘土：灰白色 釉：透明 良好	P213 底面 (肥前系) 18c 40%
		B(5.5)				
		D(4.3)				
		E(0.7)				
3	碗	A(10.4)	口縁部片。染付の碗。体部は内彎 して立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。	粘土：灰白色 釉：透明 良好	P214 底面 (肥前系) 18c 25%
		B(3.7)				
4	碗	B(8.2)	底部から胴部にかけての破片。高 台は直立し、体部は僅かに内彎気 味に立ち上がる。	ロクロ成形。張り付け高台。胴部 の灰釉が底面にまで流れている。	粘土：淡黄色 釉：淡黄褐色 良好	P215 底面 (瀬戸・美濃系) 18c 30%
		D(8.2)				
		E(0.7)				
5	ほうみく 土師質土器	B(3.4)	底部片。平底で、体部は内彎気味 に立ち上がる。	内・外曲ナデ。底部に掌瓣状圧痕 が見られる。	砂粒 明赤褐色 普通	P216 底面 近世後半 5%
		C(32.4)				



第443図 第689号土坑出土遺物実測・拓影図

所見 本跡の1.5mほど西側で、粘土張りの第688号土坑が確認されている。本跡は、出土遺物及び遺構の形態から近世の墓塚と思われる。



第444図 粘土張り遺構実測図

第360号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、粘土粒子中量

第362号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 粘土小ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土大ブロック・粘土中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量

第363号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量

第367号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・粘土粒子中量、ローム小ブロック少量

第369号土坑 土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 2 褐色 粘土粒子多量、粘土中ブロック少量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック極少量

第574号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 9 極暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量
- 10 黒褐色 ローム粒子中量、粘土粒子極少量

第803号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 粘土小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第605号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量

第654号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中量

第639号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化物極少量

第656号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量

第657号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・骨粉極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、粘土中ブロック極少量
- 9 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 11 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 12 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 13 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量
- 14 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第658号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 12 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

第666号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子多量

第689号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

③ 埋設遺構

埋設遺構は、調査区の西部で1基検出されている。

第553号土坑 (第445図)

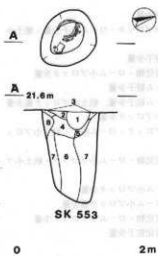
位置 調査区の西部、B16g区。

重複関係 本跡は、第158号住居跡と第545号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-4°-E

規模と形状 掘り方は長径0.98m、短径0.83mの楕円形で、最深部は166cmほどであるが、本跡の深さは42cmまでで、それ以下は本跡より古い掘り込みと思われる。

覆土 土層6と7は本跡より古い掘り込みの堆積土で、本跡の層は土層1~5と8である。土層2~5を人為的に埋め戻した後土層1で土器を固定していると思われる。



第445図 第553号土坑実測図



第446図 第553号土坑出土遺物実測・拓影図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子極少量

遺物 胴部中位以下欠損の第446図1の深鉢形土器が、掘り方のやや北寄りから正位の状態で出土している。

第553号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第446図	深鉢形土器	B (19.7)	縦筋片、胴部は僅かに曲線を描いて立ち上がる。外面に無筋Lが縦位	砂粘	P184
1	縄文土器		周縁で縄文されている。	にぶい褐色	埋設土器
				普通	(中期後半)

所見 本跡の覆土に焼土が少量含まれており、土器埋設炉的な用途を果たしていた可能性がうかがえる。時期は、出土遺物から縄文時代中期後半と思われる。

④ 形状及び出土遺物に特徴のある土坑

ここでは、平面形や断面形等形状に特徴の見られる土坑と完形に近い土器や貝等出土遺物に特徴のある土坑64基について、遺構実測図、遺物がある場合には遺物の実測図、拓影図を載せ、さらに解説を必要とするものについては文章で記述する。

第207号土坑 (第447図)

深さ98cmの円筒状の土坑で、中央部覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。第463図1の深鉢形土器は横位の状態で、2の深鉢形土器は逆位の状態で中央部覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期と思われる。

第215号土坑 (第447図)

深さ102cmの円筒状の土坑で、中央部覆土下層から遺物が出土している。第463図2の胴部片は底面、1の底部片、4の土製円板、5の敲石は覆土下層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ～Ⅳ式期である。

第463図2、3は縄文土器片の拓影図である。いずれも胴部片で、地文の単節縄文R Lが2は微隆起線区画の磨消帯に、3は磨り消しを沿わせた曲線的な隆起線に切られている。2は中期加曾利EⅣ式、3は加曾利EⅢ式の範疇と思われる。

第232号土坑 (第447図)

楕円形で、深さ122cmの土坑である。覆土は一挙に埋め戻されたと思われる、覆土中層から下層にかけて投棄と思われる遺物が一括して出土している。第463図1の深鉢形土器は中層と下層から、2の底部片は上層と中層からいずれもばらばらの破片で出土している。第464図7の土製品は攪乱層に伴う混入と思われる。8の石鏃は覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期前後と思われる。

第464図3～6は縄文土器口縁部片の拓影図である。3は単節縄文を切る磨り消しを伴う隆起線が見られる。4、5は地文の単節縄文を切る微隆起線区画の磨消帯が見られ、6は縄文を切る細い沈線区画の磨消帯が施されている。3は中期加曾利EⅢ式、4～6は中期加曾利EⅣ式に比定される土器と思われる。

第242号土坑 (第447図)

深さ95cmの円筒状の土坑で、南東側寄りの底面に長径55cm、短径48cmの楕円形で、深さ75cmの小ピットを有する。中央部を主として覆土中から遺物が出土しており、第464図3の口縁部片は覆土上層、4の口縁部片は覆土中層、1の把手と2の口縁部片、6の把手は覆土下層から出土している。他に5の口縁部片は北西部壁際の覆土下層、7の有孔円板は覆土中から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉である。

第464図2～6は縄文土器口縁部片の拓影図である。2は波状口縁で、隆帯に沿って角押文、角押文から派生する細沈線と区画を構成する沈線が施され、その内部に鋸歯状沈線が見られる。3も波状口縁で、隆帯に沿う角押文が見られる。4は平縁で、隆帯に沿って爪形文や波状沈線が施されている。5は口縁部無文帯の下に

刻みを加えた隆線が横走し、以下円形、波状及び直線のモチーフが沈線と描かれている。これらは中期阿玉台Ⅲ式に比定される土器である。6は外面に楕円形、内面に2単位の円形の孔を有する立体的把手で、孔の周囲及び外面の隆帯上には刻みが連続的に施されており、中期勝坂Ⅱ式の手法が見られる。

第402号土坑（第449図）

袋状土坑で、縄文土器が出土している。第465図1の底部片と2は覆土中から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

第465図2は縄文土器片の拓影図である。無文の口縁部下に連続爪形文が横走されており、中期勝坂Ⅱ式に比定される土器である。

第408号土坑（第449図）

北側部分が調査区域外に伸びているが、区域内の形状から袋状土坑と思われ、遺物が出土している。第465図1の深鉢形土器は底面から、2の深鉢形土器と4はほぼ同位置で覆土下層から、3は覆土中層からいずれもばらばらの状態で出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

第465図5～8は縄文土器片の拓影図で、5～7は口縁部片、8は胴部片である。5、6には交互刺突文が見られ、7は縄文を加飾した隆線による区画内に角押文が充填されている。これらは中期中幹式に比定される土器である。8は地文の燃糸文を半截竹管による平行沈線及び弧状沈線が切断しており、大木8a式に比定されると思われる。

第410号土坑（第449図）

袋状土坑で、中央部やや北側の底面に小ピットを2か所有する。覆土中から縄文土器片が出土しており、第466図1も北西壁際覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中幹式期と思われる。

第466図4は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、横位の隆帯上に円形文が連続している。手法は大木8a式の影響が見られる。

第414号土坑（第448図）

袋状土坑で、覆土中層から下層にかけて縄文土器片が出土している。第466図1の深鉢形土器はばらばらの状態で南西壁際及び北壁際覆土中層から、2の把手片は南西壁際覆土中層から、4は中央部東側の覆土下層から出土している。出土遺物は縄文時代中期中幹式期のものが主体で、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第466図3～5は縄文土器口縁部片の拓影図である。3、4は口縁部文様体に交互刺突の「コ」字状文が施され、3は粘土貼り合わせにより先端が鋭利に突出する有孔の環状把手が口縁部文様帯に付され、胴部には縄文が施文されている。4は渦状の小突起と短沈線が口縁部に、胴部には鋸歯状施文具による流水状の沈線がやや斜行して施文されている。5は隆帯で区画を施し、隆帯上に縄文施文、区画内には連続爪形文が充填されている。いずれも中期中幹式に比定される土器である。

第417号土坑 (第449図)

僅かに壁面が内傾するが、明確な袋状は呈していない。覆土中から第467図1の縄文土器片や2の磨石のほか極少量の遺物が出土している。遺物の時期は縄文時中期中葉が主体で、出土遺物が極少量のため特定は困難であるが、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第467図1は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、沈線で曲線的なモチーフが描かれ、隙間には刻みあるいは刻み状の短沈線が充填されている。中期中時式前後の土器である。

第418号土坑 (第450図)

楕円形の袋状土坑で、覆土中から第467図1の口縁部片や2の底部片等縄文時代中期中葉の遺物が出土しており、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第467図2は縄文土器片の拓影図である。底部片で、地文に単節縄文R Lが縦位回転で施され、半截竹管による4列の平行沈線が胴上部から斜位に垂下している。底部から5cmほどは無文である。

第421号土坑 (第450図)

袋状土坑で、中期中時式期前後の縄文土器片が極少量出土し、第467図1の磨製石斧も覆土中から出土している。時期は、出土遺物が極少量のため遺物からの特定は難しいが、遺構の形態からも縄文時代中期中葉と思われる。

第422号土坑 (第450図)

袋状土坑で、東寄りの底面から径27cmの円形で、深さ25cmの小ピットが確認されている。覆土中から遺物が出土しており、第467図1の把手片は北西部覆土中層から出土している。3の敲石も覆土中からの出土である。中期阿玉台式期の遺物も極少量出土しているが、出土遺物の大半が縄文時代中期中時式期前後で、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第467図2は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、波頂部に刻みが施され、波頂部下には隆線が左右から垂下することによる三角形文が見られる。隆線下には連続爪形文と波状沈線が施され、以下単節縄文R Lが縦位回転で施文されている。中期阿玉台Ⅲ式に比定される土器と思われる。

第425号土坑 (第450図)

袋状土坑で、底面の東西に小ピットを2か所有する。いずれも径43cmほどの円形で、深さは東側が12cm、西側が24cmである。中央部から南側にかけての覆土中から遺物がばらばらの状態で出土しており、第468・469図3の深鉢形土器は覆土上層と中層から、6、9の深鉢形土器と10の把手は覆土中層から、4の深鉢形土器は覆土中層と南壁のオーバーハング部分の下から、同じく南壁のオーバーハングの下から5の深鉢形土器と8の深鉢形土器の口縁部が出土している。7の深鉢形土器も同位置と西部覆土中層から出土している。2の磨製石斧は覆土上層から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中時式期前後の範疇と思われる。

第467図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口縁部上端に小突起を有し、その下に沈線で渦巻文が施され、両脇は横走沈線で口縁部文様帯が上下2段に区切られ、縦位の短沈線が充填されている。中期加曾利E I 式期の古い段階の時期と思われる。

第428号土坑 (第451図)

袋状土坑で、底面の北東部に径36cmの円形で、深さ11cmの小ピットと、南東部に径27cmの円形で、深さ17cmの小ピットを有する。東部覆土中層から遺物が出土しており、第469図1の深鉢形土器も覆土中層からの出土である。遺構の形態と遺物が縄文時代中期阿玉台IV式期前後のものが出土していることから、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第429号土坑 (第451図)

袋状土坑で、南東部底面に長径41cm、短径28cmの楕円形で、深さ25cmの小ピットを有する。覆土中から遺物が極少量出土しているが、いずれも細片である。第469図1の把手片と2、3の磨石は覆土中から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中鉢式期と思われる。

第435号土坑 (第451図)

袋状土坑で、覆土中層から第469図1の深鉢形土器等の遺物が出土しているが、ほとんどが破片である。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期阿玉台IV式期前後と思われる。

第437号土坑 (第452図)

袋状土坑で、覆土中から遺物が少量出土している。第470図1の深鉢形土器口縁部片も覆土中から出土している。遺物の大半は縄文時代中期中葉で、遺構の形態からも本跡の時期と思われる。

第440号土坑 (第452図)

袋状土坑で、覆土中から遺物が出土している。第470図1の深鉢形土器はばらばらの状態で覆土中から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中鉢-加曾利E I式期前後と思われる。

第442号土坑 (第452図)

袋状土坑で、覆土中から遺物が出土している。第470図1の小形深鉢形土器は東部壁際覆土下層から横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期前後と思われる。

第443号土坑 (第452図)

袋状土坑で、底面中央部やや南側に長径42cm、短径38cmの卵形で、深さ58cmの小ピットを有する。第470図1の深鉢形土器はばらばらの破片で覆土中から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中鉢-加曾利E I式期である。

第470図3は縄文土器片の拓影図である。胴部から口縁部にかけての破片で、口縁部には沈線を沿わせた隆帯による渦巻文と三又文が彫刻されており、隆帯上には刻みが増えられている。胴部は単筋縄文R Lが縦位回転で施文されている。中期中鉢式に比定される土器である。

第444号土坑 (第453図)

袋状土坑で、底面中央部やや北側に径38cmの円形で、深さ25cmの小ピットを有する。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中鉢式期である。

第471図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は胴上部から口縁部にかけての破片で、口縁部文様帯に沈線と隆線による同心円文や交互刺突の連続「コ」字状文が見られ、胴部には沈線が縦位に施されている。2は口縁部片で、交互刺突の「コ」字状文、隆帯上の刻み目が見られる。いずれも中期中峠式に比定される土器である。

第446号土坑（第453図）

袋状土坑で、北西壁際に長径70cm、短径49cmの不定形で、深さ9cmの浅いピットと、中央部南東側に長径46cm、短径42cmの卵形で、深さ52cmの小ピットを有する。西から北にかけての壁際覆土中層から遺物が出土しており、第471図1の深鉢形土器は西壁際から、2の浅鉢形土器は北西壁際から、いずれも覆土中層から出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中峠～加曾利EⅠ式期の範疇と思われる。

第471図3は縄文土器片の拓影図である。波状を呈する口縁部片で、口縁部文様帯は沈線に沿わせた隆線で渦巻文やクランク文が描かれ、隙間には縦位の短沈線が充填されている。胴部文様帯は縦位回転の単節縄文RL地文で、直線的な水平沈線及び蛇行沈線が垂下されている。中期中峠EⅠ式に比定される土器である。

第449号・450号土坑（第454図）

2基とも袋状土坑で、第450号土坑は南東部と北西部の底面に径20～25cmの円形で、深さ20～26cmの小ピットを有する。新旧関係は不明であるが、2基とも覆土中から縄文時代中期中葉の遺物が極少量出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物からいずれも縄文時代中期中葉と思われる。

第452号土坑（第455図）

袋状土坑で、第471図1の浅鉢形土器口縁部片は東部壁のオーバーハング部分の下、覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

第471図3、4は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。3は口唇部上端の平坦部分を挟んでベン先状の連続刺突文を内側に沿わせた隆線が内外に巡らされている。胴部は同心円状の文様が沈線で施され、連続刻文が充填され、勝坂式の手法が見られる。4は波状口縁波頂部片で、隆帯に沿う連続爪形文と鋸歯状沈線が施されている。中期阿玉台Ⅲ式に比定される土器と思われる。

第453号土坑（第455図）

袋状土坑で、中央部に長径35cm、短径29cmの楕円形で、深さ49cmの小ピットを有する。また、北西部にも深さ53cmと50cmの楕円形小ピットを2か所有する。覆土中及び底面から遺物が出土しており、第472図1の深鉢形土器は東部底面から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～中峠式期の範疇と思われる。

第472図2～5は縄文土器口縁部片の拓影図である。2、3は口縁部に交互刺突の連続「コ」字状文が見られ、2は中央に沈線に沿わせた隆線で渦巻文と区画文を描き、区画内には縦位の短沈線が充填されている。3は口縁部隆線上に刻みが施され、胴部には縦位回転の単節縄文RLが施されている。これらは中期中峠式に比定される土器である。4は隆帯に沿う連続爪形文と半截竹管による半円状の刺突文が見られ、勝坂式の手法が見られる。5は波状口縁波頂部片で、隆帯に沿った沈線が施され、内部には曲線的な集合条線が描かれている。中期阿玉台Ⅳ式に比定される土器と思われる。

第454号土坑（第456図）

袋状土坑で、覆土中から縄文時代中期中葉の遺物が出土しており、遺構の形態からも本跡はこの時期と思われる。

第472図1は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、鋭角的に屈曲する2本の隆線で区画文が描かれ、隆線間には部分的に波状沈線が見られる。内側の隆線には2列あるいは1列の沈線が沿い、区画内及び隆線上には単節縄文が施されている。中期阿玉台Ⅳ式の範疇と思われる。

第467号土坑（第455図）

北壁際に径55cmほどの不整形形で、深さ55cmの小ピットを有する。覆土上層に最大厚10cmほどの混土貝層があり、主体はヤマトシジミであるがカワアイガイ3点と獣骨片1点を含んでいる。遺物は他に縄文時代中期中葉の土器片が極少量出土しているが、時期の特定は困難である。

第475号土坑（第456図）

袋状土坑で、覆土中から少量の遺物が出土している。第472図3の胴部片は北西部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式期と思われる。

第472図2、3は縄文土器片の拓影図である。2は波状口縁波頂部片で、連続刻文を加えた隆帯に沿い複列の結節沈線文が施されている。3は胴部片で、爪形文を連続させた隆線、鋸歯状沈線及び半截竹管による平行沈線をセットで斜位に施し、部分的に縄文が施されている。中期阿玉台Ⅲ式の時期と思われる。

第500号土坑（第457図）

深さ145cmの円筒状の土坑である。覆土中から遺物が極少量出土しており、第472図1の深鉢形土器は北西部覆土上層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代後期堀之内Ⅰ式期である。

第472図1は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、地文に縄文が粗く施文され、舌状の波頂部両端から垂下する平行沈線が、鋸歯状に描かれた複列の斜行沈線に接続されている。後期堀之内Ⅰ式に比定される土器である。

第512号土坑（第457図）

円形の土坑で、第473図1の深鉢形土器は覆土中層からばらばらの破片の状態で出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第534A号土坑（第458図）

袋状土坑で、北西部底面に径46cmほどの不整形形で、深さ28cmの小ピットを有する。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中叶式期前後と思われる。

第473図4、5は縄文土器口縁部片の拓影図で、いずれにも口縁部に交互刺突の連続「コ」字状文が見られる。4には沈線を加えた隆帯による渦巻文や胴部の縄文が、5には僅かに曲線を描く斜行沈線が見られる。中期中叶式に比定される土器である。

第538号土坑 (第458図)

東側から南側にかけての壁が袋状にオーバーハングするが、北壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物は縄文時代中期中峠～加曾利E I式期のものが主体で、本跡の時期と思われる。

第473図1、2は縄文土器片の拓影図である。いずれも口縁部片で、1は口縁部に上下の隆帯間に交互刺突の「コ」字状文、胴部は縦位回転の単節縄文RL地文が、4列構成の上向き弧状の沈線に切断されている。中期中峠式期に比定される土器である。2も口縁部片で、内面に1単位、外面に2単位の孔をもつ立体把手を有する。口縁部下に直線的に横走された平行沈線が施され、把手下で部分的に交互刺突による「コ」字状文を呈する。中期中峠式の範疇と思われる。

第541号土坑 (第458図)

袋状土坑で、底面に深さ23～44cmの小ピットを6か所有する。出土遺物は多量で、縄文時代中期阿玉Ⅲ式期から加曾利E I式期のものが混在しており、第474図1は南部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び主体となる遺物から縄文時代中期中峠式期～加曾利E I式期の範疇と思われる。

第474図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口縁部に交互刺突の連続「コ」字状文、胴部には縦位の沈線が施されている。中期中峠式に比定される土器である。

第545号土坑 (第458図)

袋状土坑で、西南部に長さ31cm、短径20cmの楕円形で、深さ92cmの小ピットを有する。覆土中から中期阿玉台式期から加曾利E I式期にかけての遺物が出土しており、第474図1の浅鉢形土器底部片はピットの東側覆土中層から出土している。時期は、遺構の形態及び主体となる遺物から縄文時代中期加曾利E I式期前後と思われる。

第563号土坑 (第459図)

楕円形の土坑で、深さ82cm。北部壁際に深さ31cmと30cmの小ピットを有する。覆土中から遺物が出土しており、第474図1の深鉢形土器は中央部や西側覆土上層からばらばらの破片で出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中峠式期前後と思われる。

第566号土坑 (第460図)

楕円形の土坑で、深さ62cm。覆土中から遺物が出土しており、第474図1の深鉢形土器は北西部覆土中層からばらばらの破片で、2の口縁部片も付近から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中峠～加曾利E I式期前後と思われる。

第474図2は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、渦巻文及び区画文が隆線で施され、内部には短沈線が充填されている。中期加曾利E I式の範疇と思われる。

第576号土坑 (第460図)

袋状土坑で、覆土中から遺物が出土している。第475図1の深鉢形土器は北部覆土下層からばらばらの破片で、2の把手は南部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期である。

第596号土坑（第459図）

径1.48mほどの円形で、深さ77cm。規模に反して多量の遺物が覆土中から出土しており、第474図1、2の深鉢形土器は覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期である。

第474図3は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、波頂部から派生する微隆起線区画の磨消帯が口縁部に巡らされている。胴部は縄文が施文されている。中期加曾利EⅣ式に比定される。

第600号土坑（第460図）

袋状土坑で、中央部覆土上層から第475図1の石柱が横位の状態で出土している。他に縄文土器が極少量出土しているが、いずれも細片で器形の判別できるものはない。遺物から時期を特定することは困難であるが、遺構の形態から縄文時代中期が本跡の時期と思われる。

第621号土坑（第460図）

本跡は第162号住居跡と第622号土坑に掘り込まれている。覆土中から遺物が出土しており、第475図1の凹石は中央部覆土下層から出土している。他は縄文時代中期加曾利EⅠ式期前後の土器片が出土しており、本跡の時期もその付近と思われる。

第622号土坑（第460図）

本跡は第621号土坑を掘り込んでいる円形の土坑である。覆土中から縄文土器片が出土しているが、遺物の時期は中期加曾利EⅠ式期～後期堀之内1式期までのものが混在している。主体となる遺物は後期堀之内1式期であり、本跡の時期もこの前後と思われる。

第476図1、2は縄文土器口縁部片の拓影図である。1は波状口縁で、口縁部は無文である。波頂部に中央に刺突を加えた円形文が貼り付けられ、上向き弧状の沈線が派生している。口縁部下に横走された沈線以下に胴部文様帯が展開され、地文の縄文を切る蕨手文と思われる沈線が描かれている。2も波状口縁で、波頂部の刺突文から口縁部を巡る沈線が派生し、胴部地文の縄文が蛇行沈線に切られている。いずれも後期堀之内1式に比定されるものである。

第629号土坑（第461図）

袋状土坑で、覆土中から縄文土器が出土している。第476図1の深鉢形土器は中央部覆土上層から、2の深鉢形土器は北東壁際覆土中層から、いずれも横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中群式期と思われる。

第636号土坑（第461図）

袋状土坑で、覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。第476図1の浅鉢形土器は中央部覆土中層からばらばらの破片で、2の口縁部片は東部覆土下層から出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中群式期である。

第476図3は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口唇部上端は平坦に作出され、口唇部下に爪形文、細い角棒状の工具を刺突気味に押し付けた縦位の短沈線の順に連続して巡らされ、短沈線は施文後上下に巡らされた沈線で区画されている。以下は横走する隆帯に曲線を描く隆帯が接続する文様が展開され、隆帯上にも

連続爪形文が加飾されている。中期中峙式の時期と思われる。

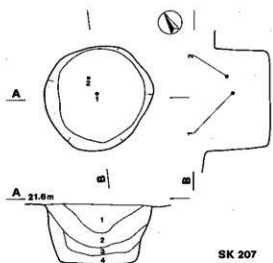
第668号土坑（第461図）

東側部分が調査区域外のため全体の形は不明だが、西側部分から袋状土坑と思われる。覆土中から遺物が出土しており、第477図1～3の深鉢形土器は、中央部覆土中層からばらばらの状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中峙期～加曾利EⅠ式期である。

第683号土坑（第462図）

径2.60m程の円形で、深さ90cmの土坑である。覆土中から縄文土器片が出土しており、第476図1の口縁部片は北東部覆土上層と中層から出土している。遺物の時期は中期加曾利EⅡ～Ⅳ式期のものが混在しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

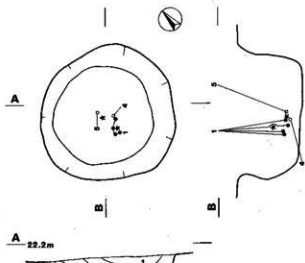
第476図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、口縁部及び胴部に施された微隆起線区画の磨消帯に地文の縄文が分断されている。中期加曾利EⅣ式の範疇と思われる。



SK 207

第207号土坑 土層解説

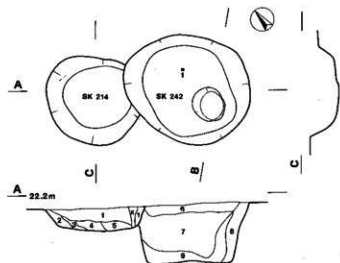
- 1 褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 4 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



SK 215

第215号土坑 土層解説

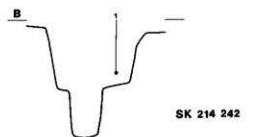
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量
- 7 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック少量



SK 214 242

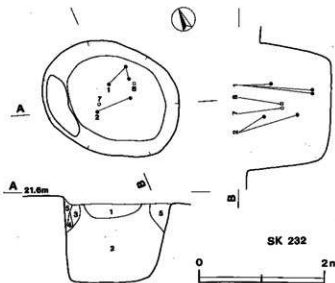
第214号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量, ローム中ブロック極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 4 褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子極少量
- 5 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第214号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量

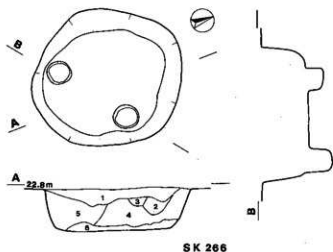


SK 232

第232号土坑 土層解説

- 6 褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 8 明褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 9 褐色 ローム粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック・ローム中ブロック極少量

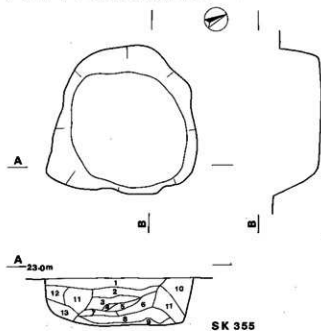
第447図 第207・214・215・232・242号土坑実測図



SK 266

第266号土坑 土層解説

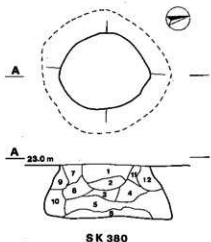
- 1 褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 に近い褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 に近い褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム中ブロック少量
- 5 に近い褐色 ローム中ブロック中量、炭化物・炭化粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量



SK 355

第355号土坑 土層解説

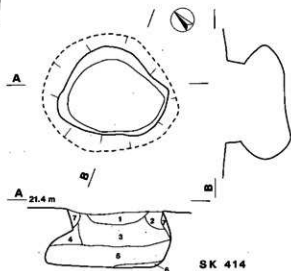
- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 5 に近い褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 に近い褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
- 9 に近い褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 に近い褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 13 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量



SK 380

第380号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム大ブロック極少量
- 6 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック多量、ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量



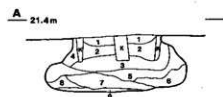
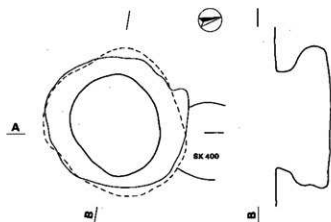
SK 414

第414号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化物中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 明褐色 ローム粒子多量

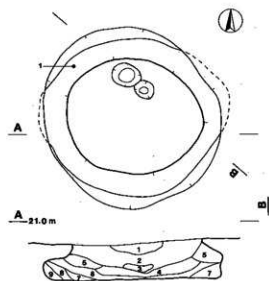


第448図 第266・355・380・414号土坑実測図

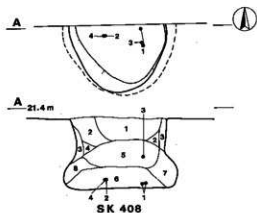


- 第408号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
 - 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
 - 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子極少量
- SK 402

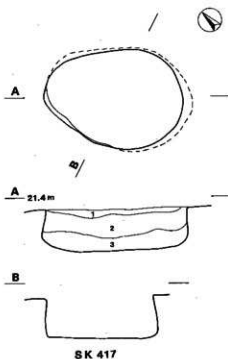
- 第402号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・ローム大ブロック・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物少量
 - 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土小ブロック極少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量
 - 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量
 - 9 暗褐色 ローム粒子少量



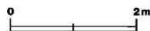
- 第410号土坑 土層解説
- 1 高褐色 炭化物・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
 - 2 高褐色 炭化物中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
 - 3 高褐色 焼土小ブロック・炭化物・焼土小ブロック少量
 - 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 5 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量

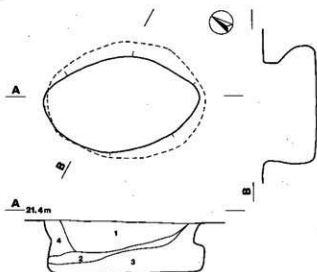


- 第408号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
 - 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
 - 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子極少量
- SK 408



- 第417号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
 - 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
 - 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック少量
- SK 417

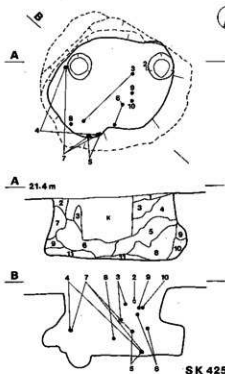




SK 418

第418号土坑 土層解説

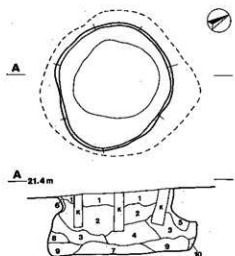
- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物・炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 3 に近い暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 4 に近い暗褐色 ローム大ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック極少量



SK 425

第425号土坑 土層解説

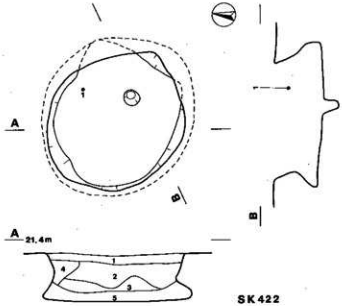
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗色 ローム粒子中量、炭化物少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 9 暗色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 10 暗色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 11 暗色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量



SK 421

第421号土坑 土層解説

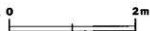
- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 2 暗色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 3 暗色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック極少量
- 4 暗色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 5 暗色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック極少量
- 6 暗色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 7 明褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 9 に近い暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 10 暗色 ローム小ブロック中量

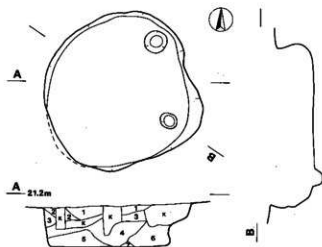


SK 422

第422号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 灰褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗色 ローム粒子多量、炭化物極少量
- 5 暗色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

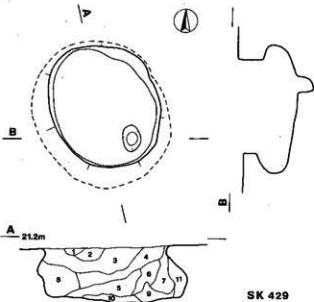




SK 428

第428号土坑 土層解説

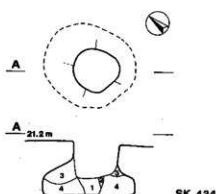
- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



SK 429

第429号土坑 土層解説

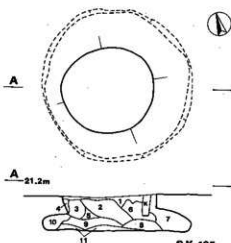
- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量



SK 434

第434号土坑 土層解説

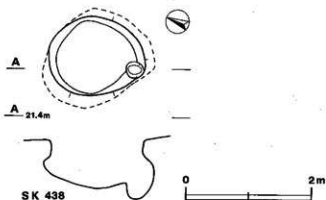
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量



SK 435

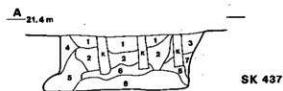
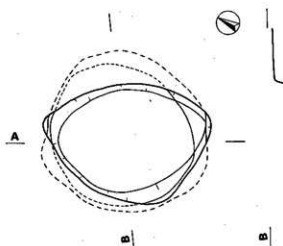
第435号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 炭化物中量, 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 焼土粒子, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量



SK 438

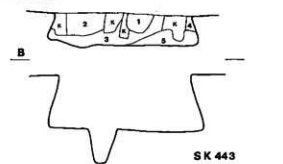
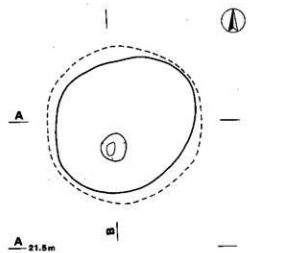
第451図 第428・429・434・435・438号土坑実測図



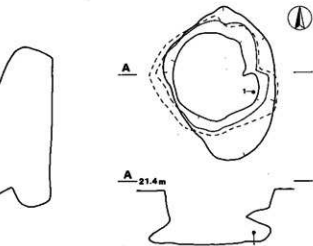
SK 437

第437号土坑 土層解説

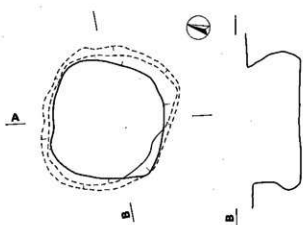
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量・炭化物少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量・炭化物少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量・炭化物少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量・炭化物少量



SK 440



SK 442



SK 440

第440号土坑 土層解説

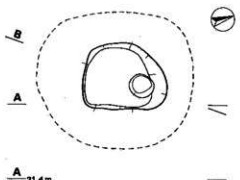
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物中量・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量・焼土粒子・炭化物少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック中量・炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

第443号土坑 土層解説

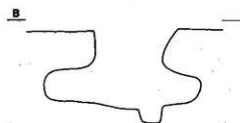
- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物中量・焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量



第452図 第437・440・442・443号土坑実測図



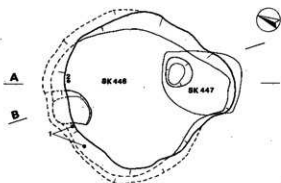
A 21.4m



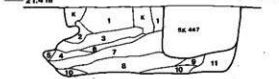
SK 444

第444号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量



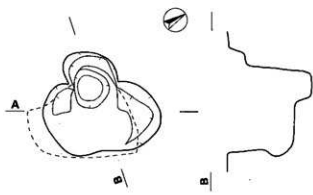
A 21.4m



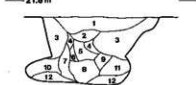
SK 446, 447

第446号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量



A 21.6m



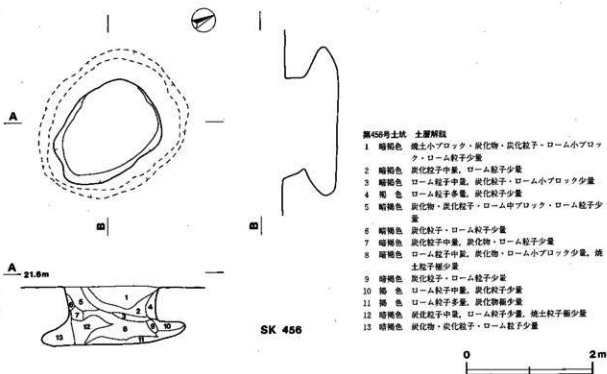
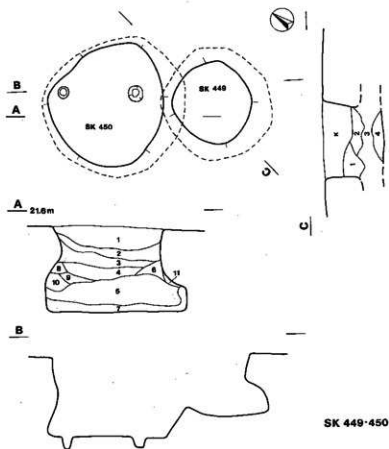
SK 451

第451号土坑 土層解説

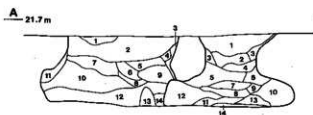
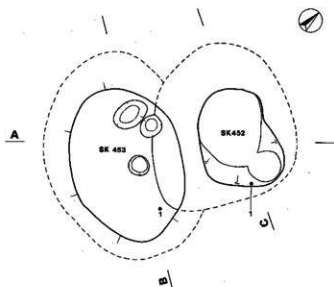
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子多量, 炭化物極少量



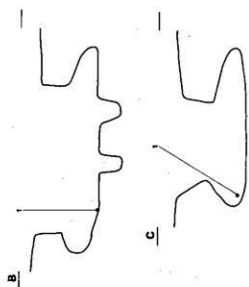
第453図 第444・446・447・451号土坑実測図



第454図 第449・450・456号土坑実測図

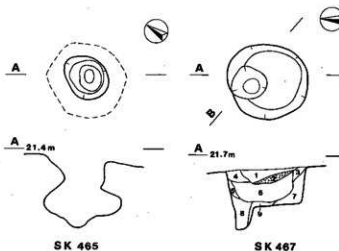


- 第452号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
 - 2 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
 - 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
 - 4 茶褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 5 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
 - 6 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
 - 8 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 9 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
 - 11 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 12 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 13 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 14 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量



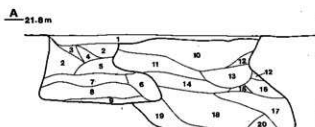
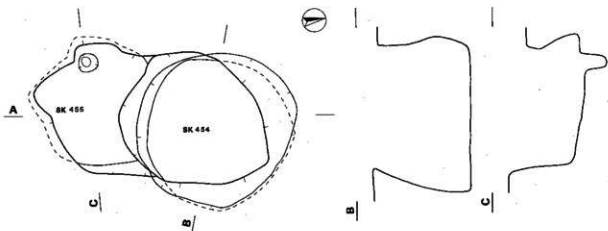
SK 452・453

- 第453号土坑 土層解説**
- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
 - 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
 - 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
 - 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
 - 7 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
 - 9 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 10 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
 - 12 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
 - 13 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物極少量
 - 14 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量



- 第467号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム小ブロック極少量
 - 2 黒土層 ヤマツシジ土層内, キリアイロイ 3点土器碎片1点混入, ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
 - 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
 - 5 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
 - 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
 - 7 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
 - 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
 - 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量

第455図 第452・453・465・467号土坑実測図



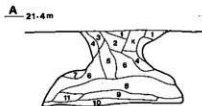
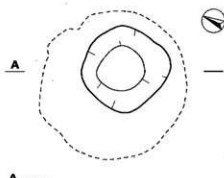
第454号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

SK 454-455

第455号土坑 土層解説

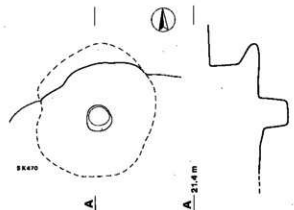
- 10 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 焼土粒子中量、炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 14 暗褐色 炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 15 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 16 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 17 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化物・炭化粒子少量
- 18 褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 19 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 20 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量



SK 475

第475号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量、焼土小ブロック・ローム粒子極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量

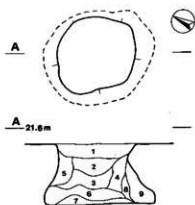


SK 474

- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量



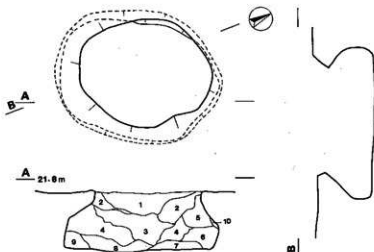
第456図 第454・455・474・475号土坑実測図



SK 491

第491号土坑 土層解説

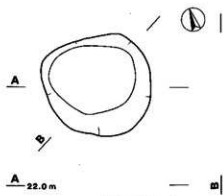
- 1 暗褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック少量



SK 494

第494号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化物極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量



SK 500

第500号土坑 土層解説

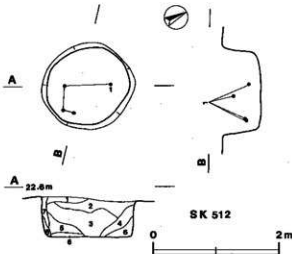
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム大ブロック多量
- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム小ブロック極少量



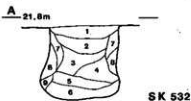
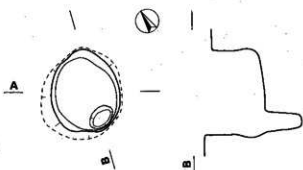
SK 512

第512号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量

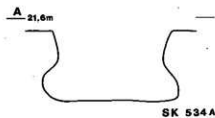
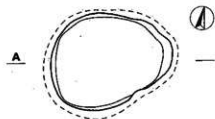


第457図 第491・494・500・512号土坑実測図

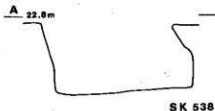
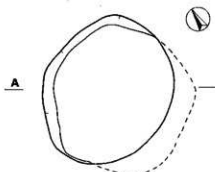


第532号土坑 土層解説

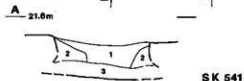
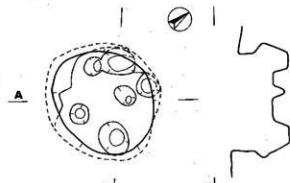
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 にぎり褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック多量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量



SK 534A



SK 538

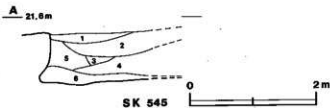


第541号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量

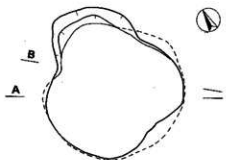
第545号土坑 土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 2 新暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 新暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 新暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 新暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

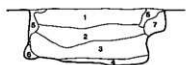


SK 545

第458図 第532・534A・538・541・545号土坑実測図



A 21.7 m



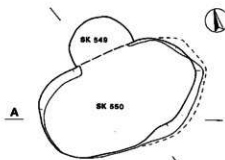
B



SK 544

第544号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化物・ローム粒中量、焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒少量
- 5 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量、炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子極少量



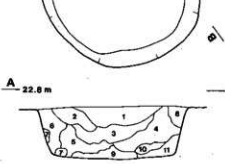
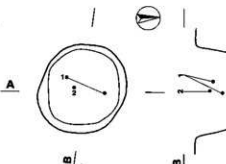
A 21.8 m



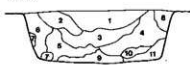
SK 550

第550号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム中ブロック多量、炭化粒子極少量



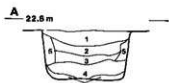
A 22.8 m



SK 563

第563号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量、ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物極少量
- 7 褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量



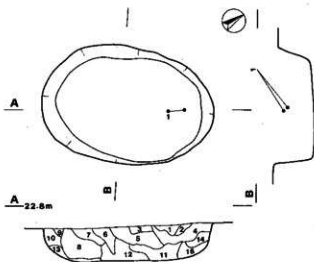
SK 596

第596号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量



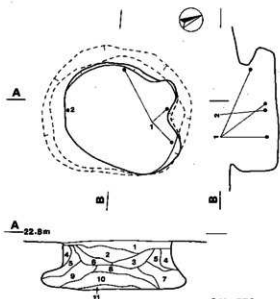
第459図 第544・550・563・596号土坑実測図



SK 566

第566号土坑 土層解説

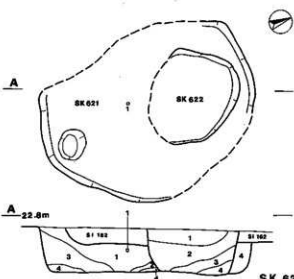
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 11 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 13 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 14 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 15 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量



SK 576

第576号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック極少量
- 11 褐色 ローム粒子中量



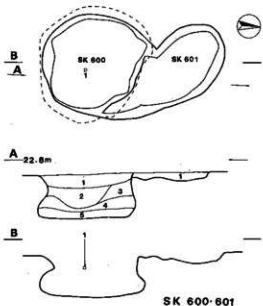
SK 621-622

第621号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土中ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第622号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量



SK 600-601

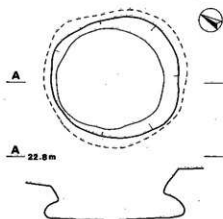
第600号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 に近い褐色 ローム小ブロック多量

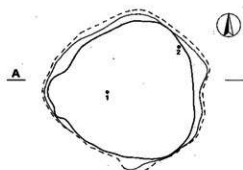
第601号土坑 土層解説

- 1 に近い褐色 ローム中ブロック・ローム粒中量

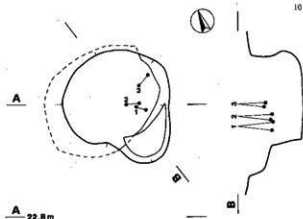
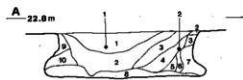




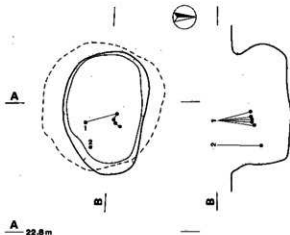
SK 614



SK 629



SK 668



SK 636

第636号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、ローム小ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化粒下・ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒下中量、炭化物極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量、ローム小ブロック極少量

第629号土坑 土層解説

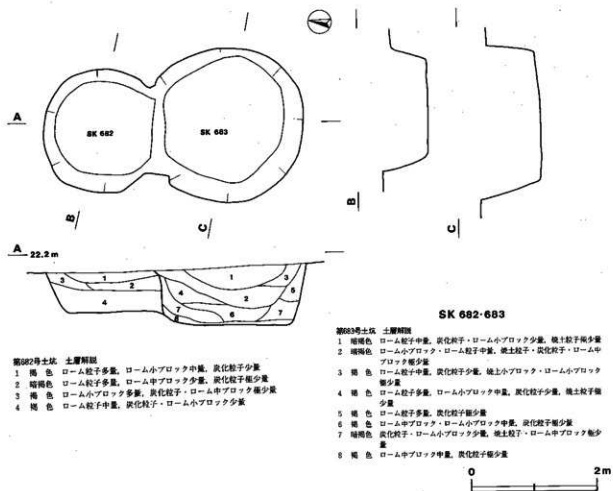
- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化物少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒下極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量

第668号土坑 土層解説

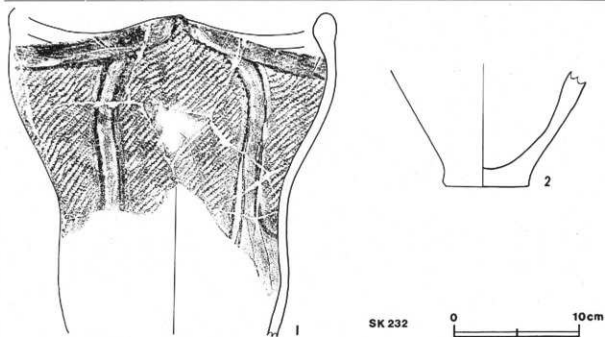
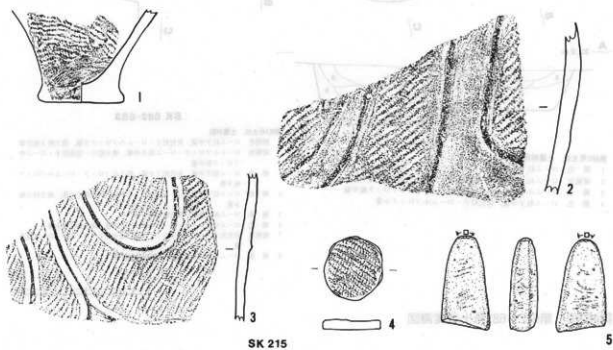
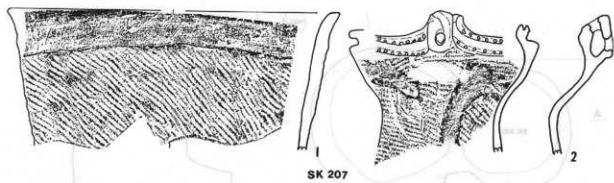
- 1 暗褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒下中量、焼土小ブロック・ローム粒下少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量



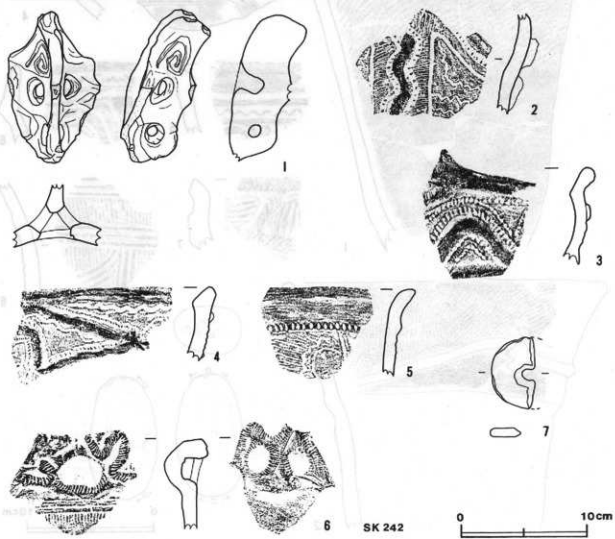
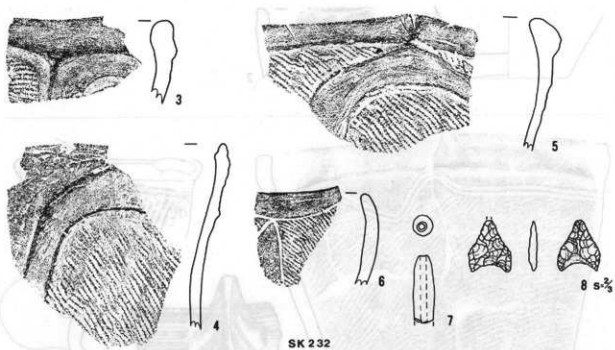
第461図 第614・629・636・668号土坑実測図



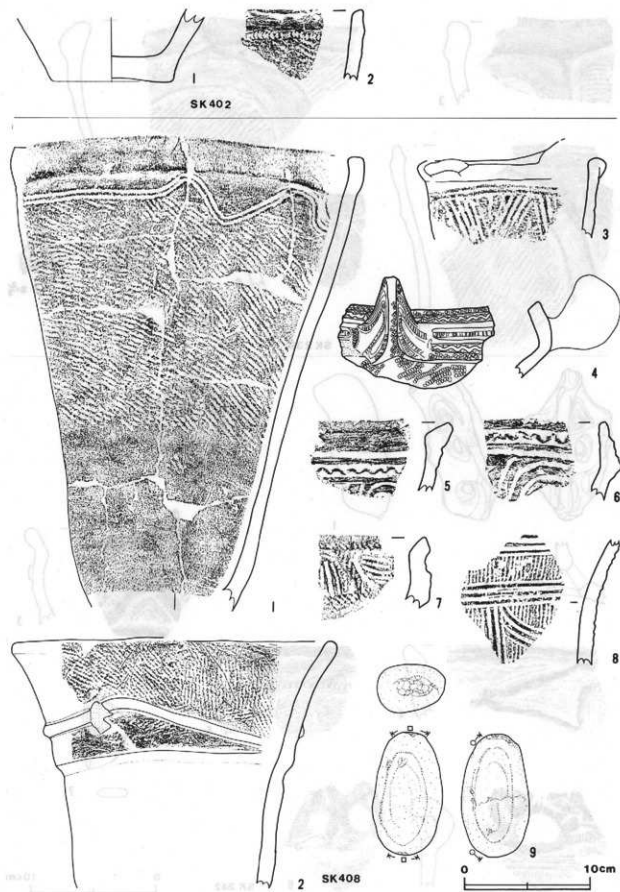
第462図 第682・683号土坑実測図



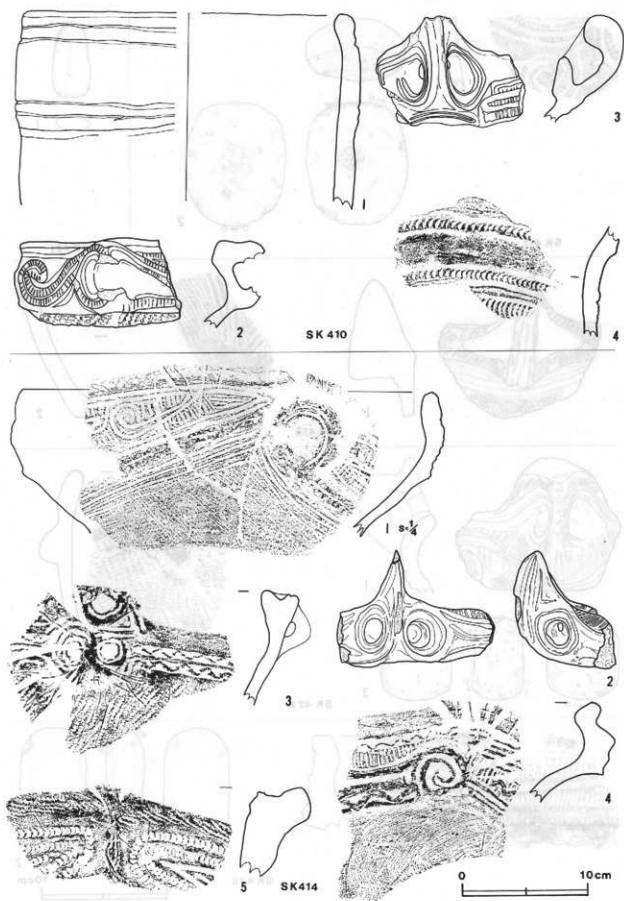
第463图 第207·215·232(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



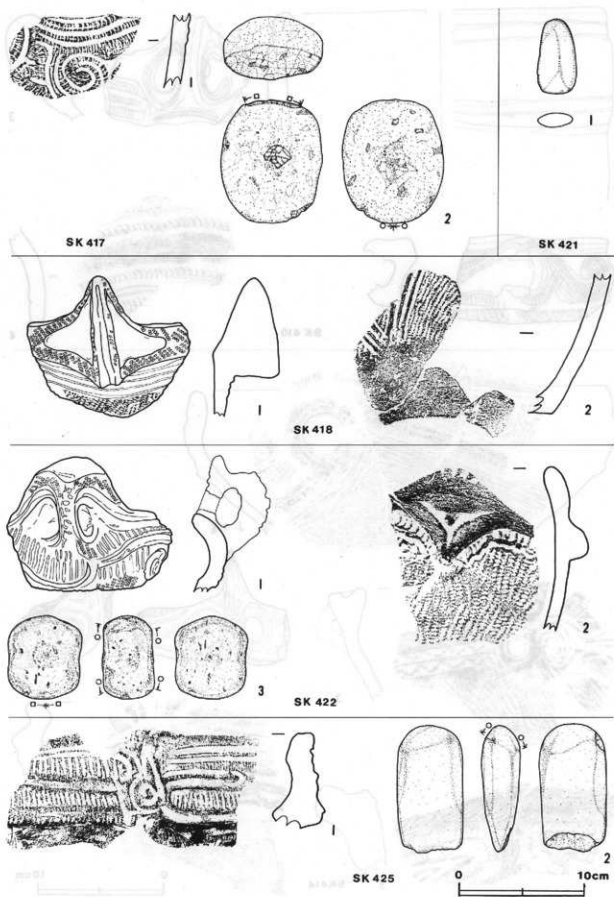
第464图 第232(2)·242号土坑出土遗物实测·拓影图



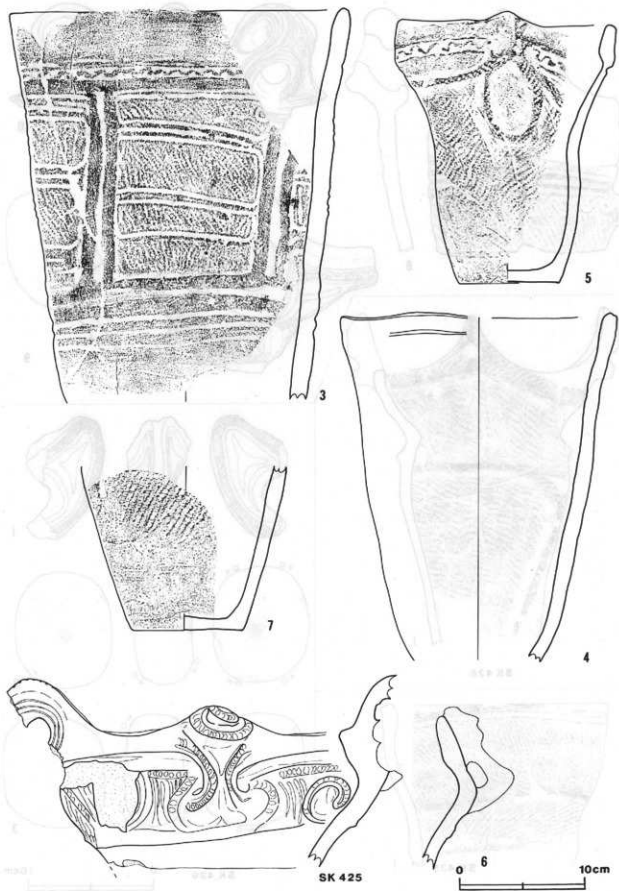
第465图 第402·408号土坑出土物实测·拓影图



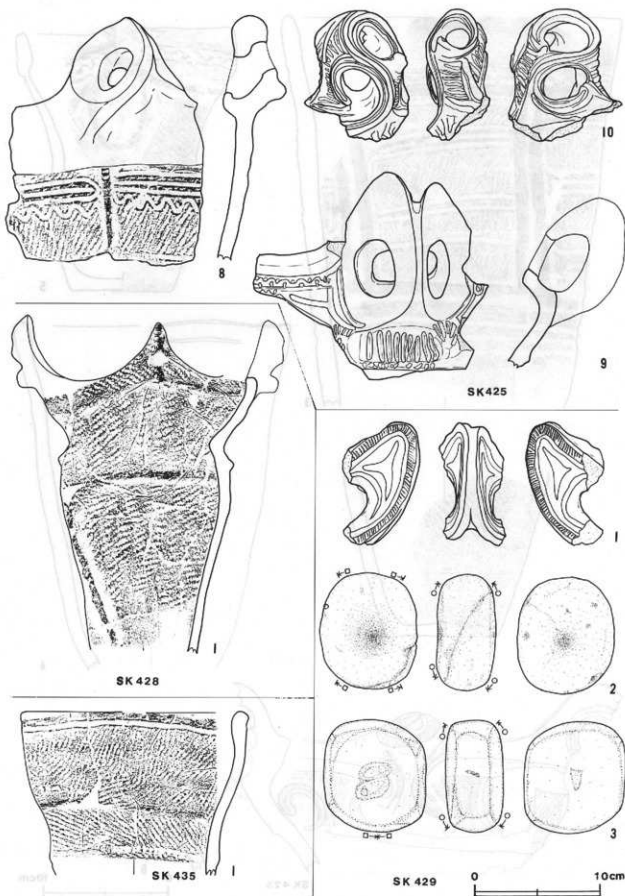
第466图 第410·414号土坑出土遗物实测·拓影图



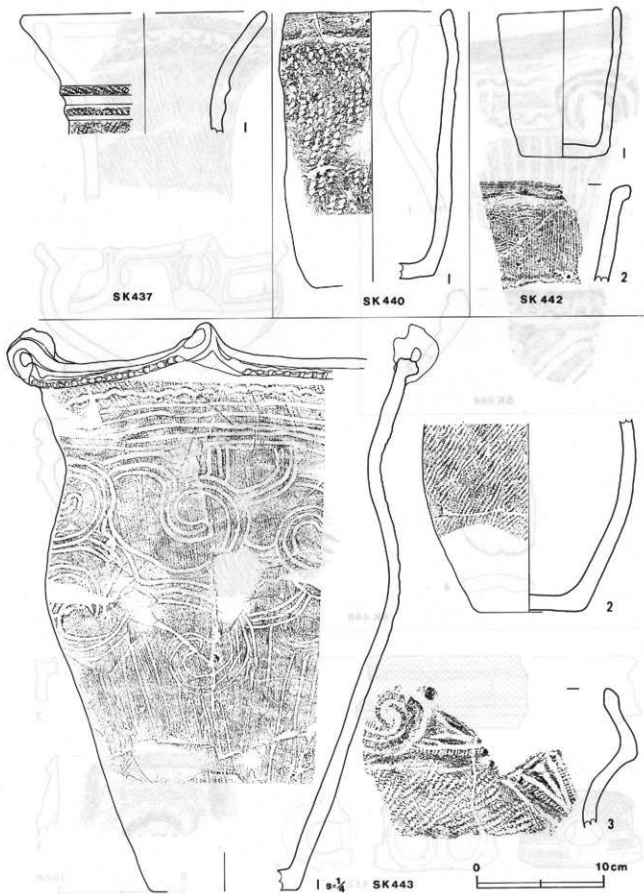
第467图 第417·418·421·422·425(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



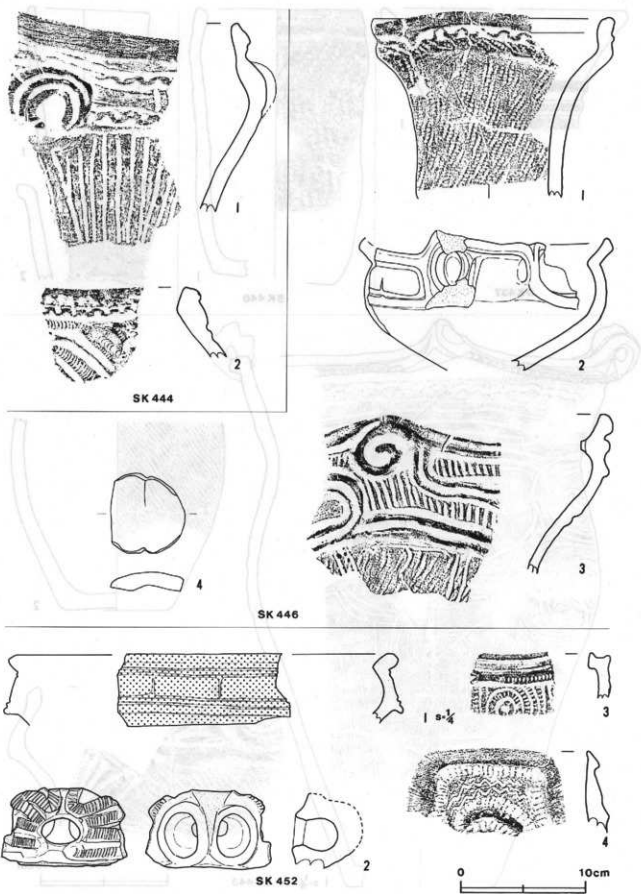
第468图 第425(2)号土坑出土文物实测·拓影图



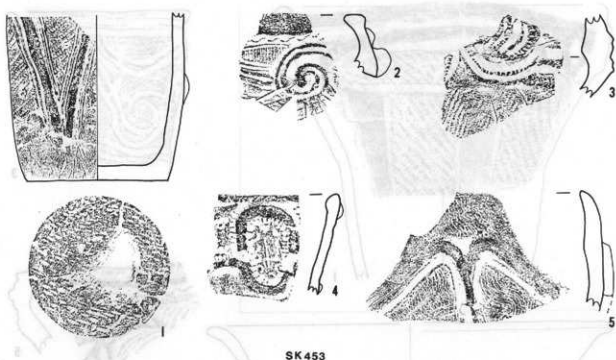
第469图 第425(3)·428·429·435号土坑出土遗物实测·拓影图



第470图 第437·440·442·443号土坑出土遗物实测·拓影图



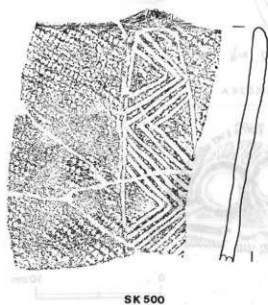
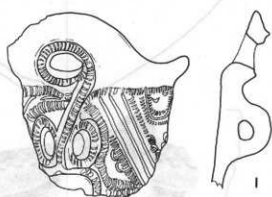
第471图 第444·446·452号土坑出土遺物実測・拓影图



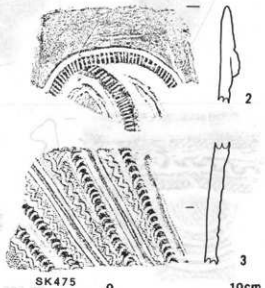
SK 453



SK 454



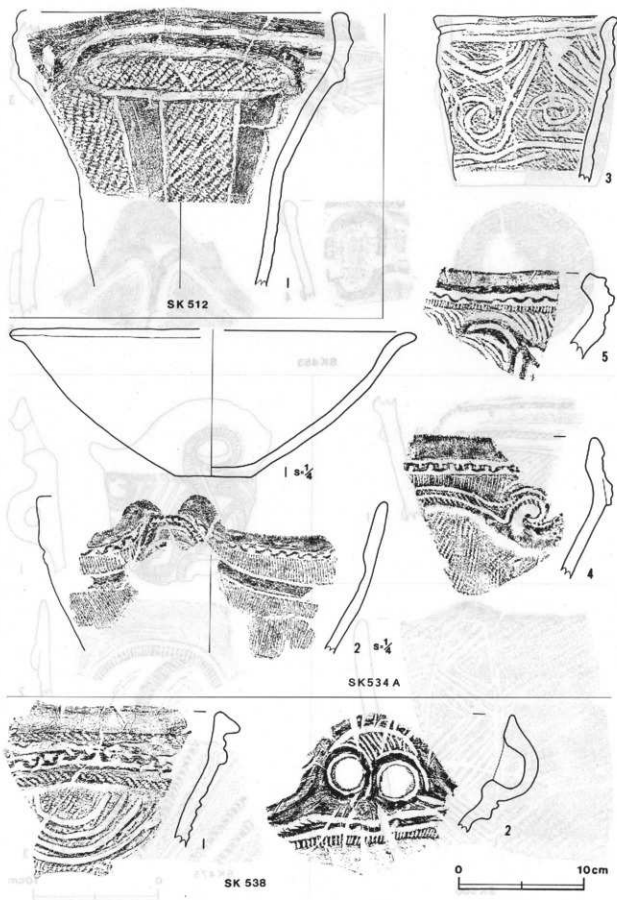
SK 500



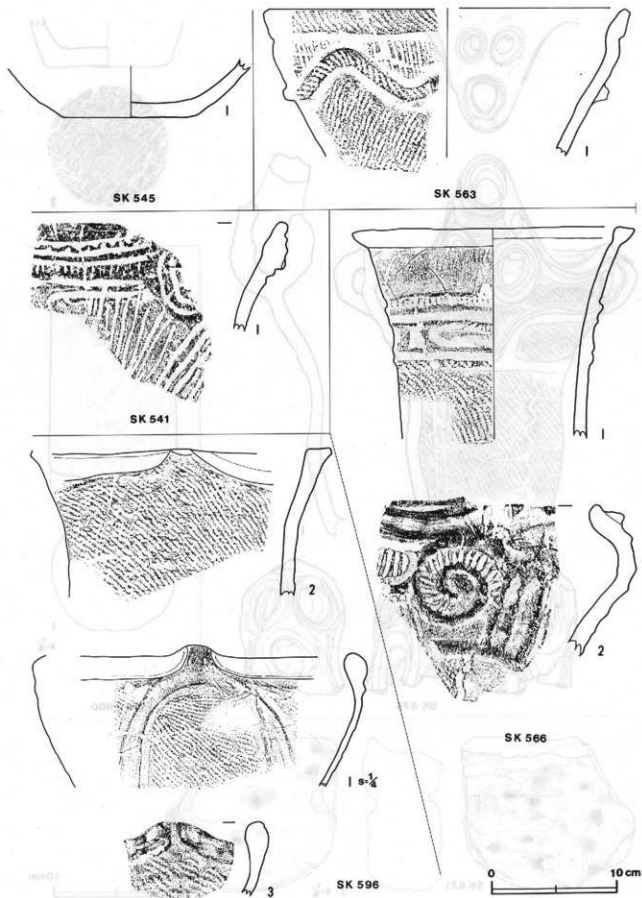
SK 475

0 10cm

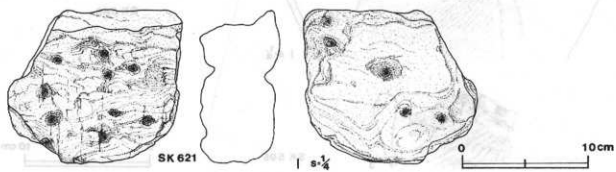
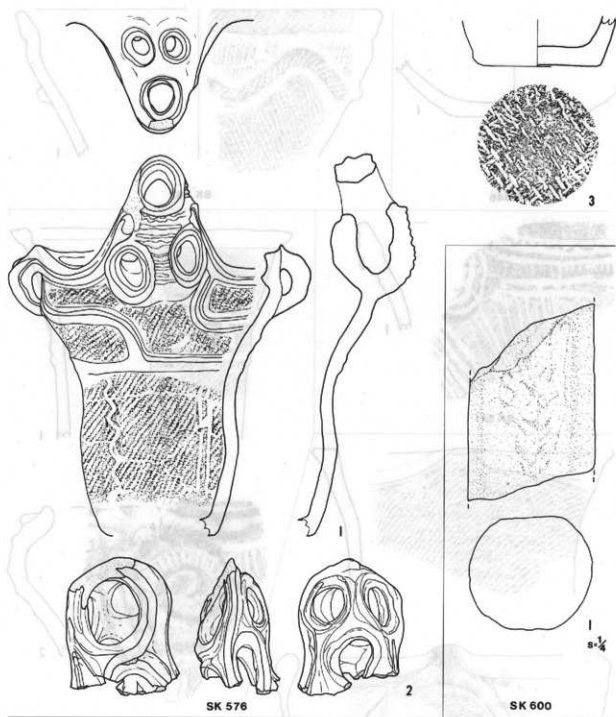
第472图 第453·454·475·500号土坑出土遗物实测·拓影图



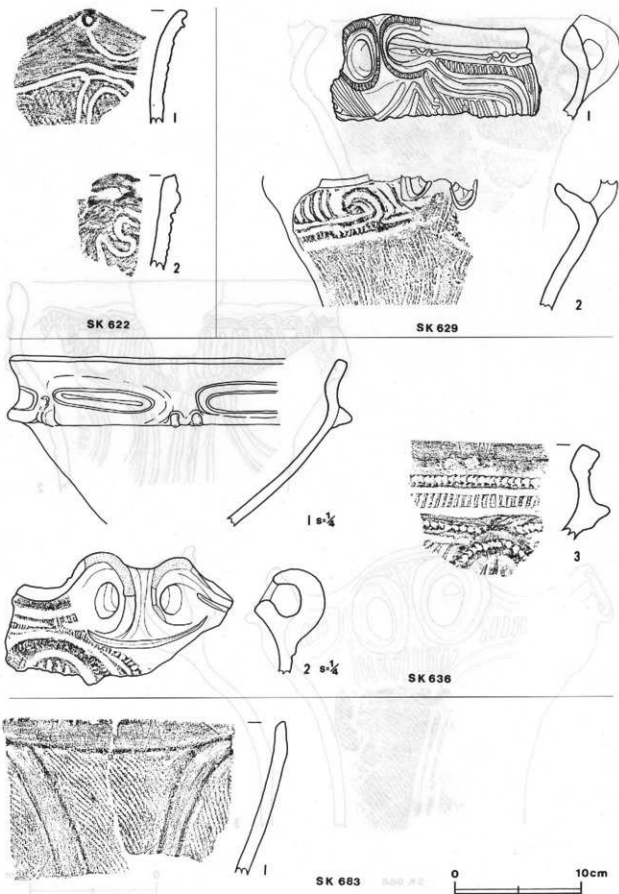
第473图 第512·534A·538号土坑出土遗物实测·拓影图



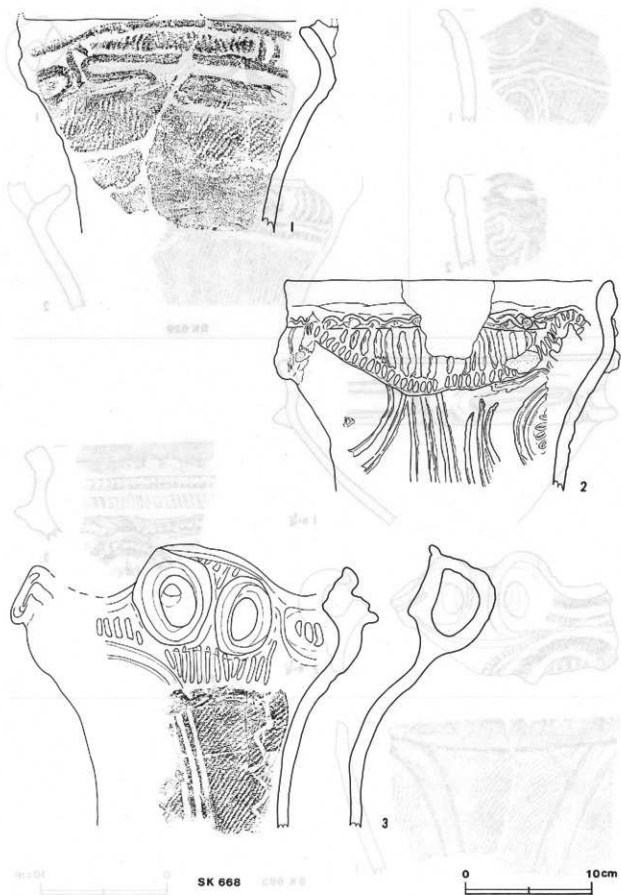
第474图 第541・545・563・566・596号土坑出土遺物実測・拓影图



第475图 第576·600·621号土坑出土遗物实测·拓影图



第476图 第622·629·636·683号土坑出土遗物实测·拓影图



第477图 第668号土坑出土遗物实测·拓影图 · 南京明瓦山出土陶器(59·303·528·533) 图97·98

土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図	深鉢形土器 縄文土器	A(26.4)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部無文帯の下に高きられた隆起線以下胴部には、半輪縄文L Rが縦位回転で施文されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P107 10% SK-207 中央部上中層 (加賀利E IV)
		B(11.0)			
2	深鉢形土器 縄文土器	A(14.4)	胴部中位以下欠損。胴部は「S」字状に立ち上がり、口縁部に至る。4単位の波状口縁で、環状の把手を有する大波頂部と、波頂部外面に円形の刺突文を有する小波頂部を交互で配する。口縁部外面は微隆起線区画によるナデを上下2段階し、深い円形の連続刺突文が加えられている。胴部には半輪縄文L Rが縦位回転で施文され、「U」状を極く微隆起線区画の磨消帯に文様が分断されている。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P108 40% SK-207 中央部上中層 (加賀利E IV)
		B(11.3)			
第463図	深鉢形土器 縄文土器	B(7.5)	底部片。突出する平底で、胴下部は外傾して立ち上がる。外面に半輪縄文L Rが横位回転で施文されているが、底部から3cmほどは磨り消されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P110 10% SK-215 覆土下層 (中期後半)
		C(6.8)			
第463図	深鉢形土器 縄文土器	A(26.1)	底部欠損。胴部は緩やかな「S」字状を描いて立ち上がり、口縁部に至る。4単位の波状口縁で、波頂部に小突起を有する。胴位回転の半輪縄文L Rが地文で、口縁部及び胴部には微隆起線区画の磨消帯が施されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P114 60% SK-232 覆土中層・下層 (加賀利E IV)
		B(25.6)			
2	深鉢形土器 縄文土器	B(9.2)	底部片。突出する平底で、胴部は外傾して立ち上がる。外面縦位の削り方で整形されている。	砂粒 褐色 普通	P115 10% SK-232 覆土上層・中層 (中期後半)
		C(7.0)			
第464図	把・手 縄文土器	長さ(12.1)	口縁部把手片。粘土を貼り合わせ、中央が外側に強く突出する。外側に上下2単位の透孔。内面にも横円形の孔を有し、側面上段の孔と内面の孔は連結している。上段の孔の上には片面に渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P117 5% SK-242 覆土下層 (中期中葉)
		幅(7.3)			
厚さ(5.0)	2	B(5.2)	底部片。上げ底で、胴下部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P135 10% SK-402 覆土 (中期)
					C(9.6)
第465図	深鉢形土器 縄文土器	A(27.8)	底部欠損。胴部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は把厚し、無文である。胴上部には無銘文が不規則に施文され、半輪竹管による平行沈線が口縁部下には部分的に曲線を描いて横走し、胴部には縦位の直線や曲線を描かれている。胴下部は無文である。	砂粒・長石・石英 ・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P138 80% SK-408 底面 (阿玉台IV - 中時)
		B(36.3)			
2	深鉢形土器 縄文土器	A(25.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり、胴部でラック状に開いて口縁部に至る。胴部に隆帯が2段階あり、上段は緩かに曲線を描く。口唇部から上段の隆帯までは半輪縄文L Rが施文されているが、回転方向に視認性は見られない。胴部無文である。	砂粒・長石・石英 褐色 普通	P139 30% SK-408 覆土下層 (阿玉台IV - 中時)
		B(19.6)			
3	深鉢形土器 縄文土器	A(15.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は把厚し把手を有するが、欠損しているため詳細不明である。胴部には文様の中心の三角形を囲むように半輪竹管による隆起線を斜位に充填し、中心の三角形文には連続爪形文が縦位に施されている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P140 10% SK-408 覆土中層 (藤原E)
		B(7.9)			
4	深鉢形土器 縄文土器	長さ(9.0)	把手を有する口縁部片。口縁部外面の沈線区画内に交互突起による連続「コ」字状文、連続刺突、連続「コ」字状文が縦に施されている。口縁部は粘土貼り合わせによる方形の把手を有し、側面に沈線で「U」状の文様が描かれ、隙間に外面が半輪縄文、内面に連続刺突文が施されている。胴部には半輪縄文L Rが施文されている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	P141 5% SK-408 覆土下層 (中時)
		幅(12.4)			
厚さ(8.4)	2	A(26.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部と胴部に平行沈線が横走されている。文様は施されていない。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P142 20% SK-410 覆土下層 (中期中葉)
					B(15.6)
2	深鉢形土器 縄文土器	長さ(7.0)	内側する口縁部片。口縁部文様帯に中央に沈線を加えた横帯で渦巻文を施す。隆帯が上下に分離し、孔を有する把手を形成すると思われるが、欠損しているため詳細不明である。隆帯には連続刺突文が施されている。口縁部以下胴部には半輪縄文L Rが縦位回転で施文されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P143 5% SK-410 覆土 (中時)
		幅(13.0)			
3	把・手 縄文土器	長さ(9.1)	口縁部に付けた環状の把手で、側面の孔は縦位の沈線で縁取りされ、把手内面には三角形の透かし、外面把手下には下向き低伏の縦列の沈線が施されている。口縁部文様帯は縦位の文様が施され、扁平な粘土柱が3列横位に張り付けられており、粘土縁部は縦位の粘土柱で連結されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	P144 5% SK-410 覆土 (中時 - 加賀利E I)
		幅(11.1)			
厚さ(6.5)	2	B(6.5)	底面片。突出する平底で、胴下部は外傾して立ち上がる。外面に半輪縄文L Rが横位回転で施文されているが、底部から3cmほどは磨り消されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P110 10% SK-215 覆土下層 (中期後半)
					C(6.8)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(43.2) B(15.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ちあがった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部は肥厚し、中央に沈線を加えた上向き弧状の隆帯が口縁部に接続して形成する区画を5単位有して口縁部沈線帯を構成しているものと思われる。隆帯の右端が内側に向いた内形を呈し、区画内には沈線による渦巻文、縦位の短沈線及び区画に沿う沈線が施されている。胴部には区画に沿う弧状沈線が隆帯下に、それ以下は斜位、縦位あるいは斜行沈線が雲雀状の施文具で施されている。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	F147 20% SK-414 覆土中層 (中鉢)
2	把 手 縄文土器	長さ(9.3) 幅(12.4) 厚さ(8.1)	口縁部裝飾把手で、把手先端が鼻のくちばしの様に鋭く上方に突出する。前面下部には透孔が見られ、孔の周囲や側面に沈線が描かれ、三又文等も見られる。	砂粒・長石・石英 雲母 赤色 普通	F148 5% SK-414 覆土中層 (中鉢)
第467図 1	深鉢形土器 縄文土器	長さ(11.3) 幅 13.0	深鉢形土器口縁部の波状破片。口縁部の肥厚部分が両側から盛り上がるようにして形成される。三角形の先端が鋭く尖る波状部で、側面には三角形が彫刻され、三角形の外側及び口縁部肥厚部には単節縄文R Lが施文されている。口縁部下には平縁竹管による平行沈線が4列施され、以下胴部には縄文が縦位回転で施されている。	砂粒 赤色 普通	F150 5% SK-418 覆土 (中鉢)
第467図 1	把 手 縄文土器	長さ(10.8) 幅(13.0)	深鉢形土器口縁部の環状把手。把手側面には平行沈線で線取りが、外面には交互斜位文、側面上部には縄文が部分的に施されている。内面にも線取りを施した孔が穿たれている。口縁部文様帯は、中央に沈線を施した隆帯が曲線的に施され、隙間には縦位の短沈線が充填されている。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	F151 5% SK-422 覆土中層 (中鉢)
第468図 3	深鉢形土器 縄文土器	A 27.0 B(31.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部幅5cmほどは無文帯で、直下に交互斜位による連続「コ」字状文が彫られている。胴部には縦位の沈線で縦位に6分割され、それぞれ長方形の区画が縦位に4か所づつ配される。区画内は無節縄文が施されている。これらの単位文下には4列の沈線が横走され、以下無文である。	砂粒・雲母 赤色 普通	F153 60% SK-425 覆土上層・中層 (中鉢)
4	深鉢形土器 縄文土器	A(21.8) B(27.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は僅かに肥厚し、胴部の境に僅かな段が見られる。無文である。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	F154 40% SK-426 覆土中層・下層 (中層・中鉢)
5	深鉢形土器 縄文土器	A 17.6 B 21.7 C 8.0	僅かに上げ直で、胴部は横やかなキリボウ状の曲線を描いて立ち上がり、短く直立する口縁部に至る。口縁部は小突起を2か所有する。口縁部文様帯は、無文帯に接続する後面に縄文を施した横やかな下向き弧状の隆帯による区画を4単位施し、区画内に交互斜位の連続「コ」字状文が無文帯直下に施されている。一方の突起下には縦位の横内形区画文が施されているが、内部に文様は見られない。もう一方の突起下には、胴部に垂下する「U」状の沈線が、胴部地文の縦位回転の単節縄文R Lを切っている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	F155 90% SK-425 覆土下層 (中鉢)
6	深鉢形土器 縄文土器	A(30.9) B(14.9) W A 25.4 B(12.9)	胴部以下欠損。口縁部は内彎する。大小の環状把手を1対づつ有し、大把手は口縁部上部に、小把手は口縁部外面に付され、小把手の上部には隆帯による渦巻文を施した突起が付されている。口縁部文様帯は、隆帯で構内形区画文、渦巻文等の文様が描かれ、隙間には縦位の沈線が充填されている。隆帯には肩や中央に沈線が加えられている。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	F156 20% SK-425 中層 (中鉢) ※は小把手の計測値
7	深鉢形土器 縄文土器	B(13.0) C 8.9	底唇から胴下部にかけての破片。底唇は割出しにより僅かに凸凹が見られ、胴部は外傾して立ち上がる。外面に単節縄文R Lが縦位回転で施され、底唇から7cmほどは縦位の帯が施され無文である。底唇に網代文が残されている。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	F157 15% SK-425 覆土中層・下層 (中鉢)
第469図 8	深鉢形土器 縄文土器	B(19.9)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は無文帯で、側面及び内面に孔を有する把手が上部に付けられている。胴部は縦位の隆帯によって縦区画され、区画上部には3列の横走沈線と波状沈線が施されている。地文に縦位回転の単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・雲母 赤色 普通	F158 10% SK-425 覆土下層 (大木8号)
9	把 手 縄文土器	長さ(16.5) 幅(13.5) 厚さ(9.4)	口縁部把手片。口縁部上部に付けられた粘土貼り合わせによる環状の把手で、内面に横内形の孔を有する。把手下部の左右には小突起が付されている。口縁部文様帯は交互斜位の連続「コ」字状文、縦位の短沈線及び斜位文で構成されている。	砂粒・長石・石英 赤褐色 普通	F159 5% SK-425 覆土中層 (中鉢)
10	把 手 縄文土器	長さ(10.5) 幅(8.3) 厚さ(5.1)	口縁部把手片。内面及び外面に上下2単位づつの横内形の孔を有する立体把手で、上下の孔は隆帯で「S」字状に結ばれている。隙間には短沈線が充填されている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	F160 5% SK-425 覆土中層 (中鉢)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第469図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 21.6 B (26.7)	底部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり、中位で内彎した後くびれ、外傾して口縁部に至る。4単位位の波状口縁で、波頂部外面中央が外側に鋭く突出し、やや下部に内形の押捺が見られる。口縁部に隆帯を巡らせ、くびれ部下には横走隆帯と、横走隆帯から派生して直線的に垂下する3本の隆線が施されている。垂線が派生する際に三又文が施されている。外面に単節縄文R Lが充填されている。	砂粒・雲母・石英 褐色 普通	P161 SK-428 覆土中層 (阿玉台IV)
第469図 1	把手 縄文土器	長さ(9.7) 幅(6.2) 厚さ(5.3)	口縁部把手。前面把手下部に過孔を有し、孔上に三又文が彫刻され、把手の外縁に沿って連続筋文と沈線が施されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	P162 SK-429 覆土 (中鉢)
第469図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (17.9) B (13.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部からやや外傾して立ち上がった後内彎気味に口縁部に至る。口縁部内面に厚みをもつ。口唇部直下に沈線。胴部下に上下に内押文を沿わせた隆帯が横位に施され、地文に魚卵縄文が施文されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	P163 SK-435 覆土 (阿玉台IV)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (19.0) B (9.7)	口縁部片。胴部は外傾して開き、口縁部に至る。胴部に2段の隆帯を横位に施し、口縁部無文帯。隆帯以下は単節縄文R Lが施文されている。	砂粒・長石・雲母 赤い 普通	P164 SK-437 覆土 (中鉢)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 12.9 B 21.9 C (9.8)	平底で、胴部は直立気味に立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。形はやや傾いている。口縁部は外面が肥厚し、胴部には単節縄文R Lが縁状で縦位に施文され、底部から7cmほどは磨り滑されている。	砂粒・長石 赤い 普通	P165 SK-440 覆土 (中層中室)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 9.7 B 12.0 C 6.9	平底で、胴部は直立して立ち上がり、口縁部に至る。文様は施されていない。	砂粒 赤い 普通	P166 SK-442 覆土下層 (中層中室)
第470図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (45.4) B 59.5 C (15.4)	胴部は緩やかな「S」字状を描いて立ち上がり、口縁部に至る。4単位位の波状口縁で、波頂部に環状の突起を有する。口唇部は上面に沈線。外面に粒土粒入り付け後連続的に押捺が加えられている。文様帯はくびれ部で上下に分けられ、1文様帯は単列の波状沈線と5列位の沈線が口唇部下からくびれ部まで横位に施されている。2文様帯は3本1組の沈線で渦巻文を上下2段で横位に描き、それぞれが相互に連絡している。地文は条線状の浅い垂走沈線が口唇部から胴下部まで縦位に施されているが、口唇部直下には部分的に単節縄文も見られる。	砂粒・長石 赤い 普通	P167 SK-443 覆土 (大木8a)
第470図 2	深鉢形土器 縄文土器	B (15.2) C 8.6	底部から胴部にかけての破片。やや上膨れ、胴部は内彎して立ち上がる。胴部に単節縄文R Lが縦位に施されているが、底部から7cmほどは無文である。	砂粒 赤褐色 普通	P168 SK-443 覆土 (中層中室)
第471図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 19.1 B (14.2)	胴下平欠損。胴部は外反しながら立ち上がり、口縁部は短く直立する。口縁部中央に施された交互刺突の連続「コ」字状文を挟んで、上は無文。下は単節縄文R Lが縦位に施されている。胴部には同縄文が縦位に施されている。	砂粒・石英 褐色 普通	P169 SK-445 覆土中層 (中鉢)
第471図 2	浅鉢形土器 縄文土器	A (20.0) B (10.4)	口縁部片。胴部は内彎しながら立ち上がり、胴部で直線して口縁部に至る。波状口縁で、口縁部と胴部の内面に沈線を沿わせた隆帯で区画文を描き、波頂部で上下の隆帯が連絡し、現状の把手が2単位形成されている。区画内には沈線から派生する縦位の短い三又文の削り込みが施されている。	砂粒 褐色 普通	P170 SK-446 覆土中層 (中鉢)
第471図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A (40.6) B (7.3)	口縁部片。内彎する口縁部片で、口唇部は屈曲して外傾する。胴部に突出する隆帯を巡らせ、口唇部直下及び隆帯直上に半粒竹質による平行沈線を横走させ、上下の沈線から交互に縦位の沈線が派生している。外面及び口唇部内面に施文されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P171 SK-452 覆土下層 (藤原B)
第472図 2	把手 縄文土器	長さ(8.2) 幅(9.9) 厚さ(5.6)	口縁部把手片。外面に1単位、内面に2単位の孔を有する中空把手。外面には鋭角的に屈曲する蛇行隆帯が孔の周囲に施され、隆帯上には連続筋文が加えられている。	砂粒・スコリア・長石 赤い 普通	P172 SK-452 覆土 (藤原B)
第472図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (13.3) C 11.2	胴部上平欠損。平底で、胴部は直立する。胴部に単節縄文R Lを縦位あるいは斜め縦位に施文し、手続竹質による平行沈線を両側に沿わせた斜位の隆帯が胴下部で三角形に連絡されている。底部から4cmほどは無文で、底部に網代文が施されている。	砂粒・長石・雲母 赤い 普通	P173 SK-453 底面 (阿玉台V)
第472図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (14.1)	口縁部片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。波状口縁で、波頂部に孔が穿たれ、波頂部下の胴上部には環状の把手が付けられている。孔及び把手は形をよめた隆帯で縁取られ、隆帯は孔から把手へと流れ、更に胴部へ垂下している。胴部文様帯は口縁部下に連続爪形文が横位に施され、以下3列の斜行平行沈線、爪形文等が施文されている。	砂粒・雲母 赤い 普通	P176 SK-475 覆土下層 (藤原B)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(25.0) B(21.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、頸部からやや開いた後縁から内側に口縁部に至る。口縁部文様帯は横内形区画及び渦巻文が段状縄と沈線でご括れ、胴部には直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。地文に縦位回転の単節縄文Rしが施文されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P178 SK-512 覆土中層 (加賀野EⅢ)
第473図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(42.5) B 15.1 C 8.1	底部から口縁部にかけての破片。平底で、胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外傾する。胴部に文様はなく、腹方向の傾りで調整されている。	砂粒・長石・石英 ぶい橙色 普通	P180 SK-534A 覆土 (中期中業)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(36.8) B(16.1)	口縁部片。狭状口縁で、波頂部に耳状の突起を有する。上下の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内上部に交互突角の連続「コ」字状文、以下段位の細沈線が充満されている。波頂部下には曲線を描いて盛り上がる隆帯が見られ、ベン先文が連続されている。胴部には縦位、斜位の細沈線が充満されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	F181 SK-534A 覆土 (中時)
3	深鉢形土器 縄文土器	A 14.7 B(13.3)	底部欠損。胴部は外傾して直線的に立ち上がる。口唇部下に2本1組の横走沈線が施され、以下胴部には帯文地文の上に、2本1組の沈線で渦巻文、渦巻文等の曲線的なモチーフが描かれている。	砂粒 明赤褐色 普通	F182 SK-534A 覆土 (中時)
第474図 1	浅鉢形土器 縄文土器	B(4.0) C 10.6	底部片。平底で、胴部は外傾して開く。文様は縮されておらず、胴下部及び底部は削りで調整されている。	砂粒・長石・雲母 スクリア ぶい橙色 普通	F183 SK-545 覆土中層 (中期中業)
第474図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(29.0) B(11.7)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部下の沈線と胴上部に彫り付けられた波状の隆帯間に縦位の沈線が充満され、単節縄文Rしが口唇部外面では縦位回転で、胴部には縦位回転で、また隆帯上にも施文されている。	砂粒・長石 橙色 普通	F185 SK-563 覆土上層 (中時)
第474図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 22.5 B(16.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がった後反りながら口縁部に至る。口唇部は厚直し、上海が平坦に作出されている。口縁部は渦巻文で、頸部には上下2段の隆帯が横走され、その間には隆帯で横長の横内形区画文が施され、内部は磨り消されている。上段の隆帯直上に角押文が施され、区画文の隆帯にも部分的に角押文が施文されている。下段の隆帯以下胴部には単節縄文Rしが隆帯付近は斜め回転、それ以下は縦位回転で施文されている。	砂粒・長石・雲母 ぶい橙色 普通	F186 SK-566 覆土中層 (中時-加賀野EⅠ)
第475図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(23.9) B 30.4 C(8.6)	底部一部欠損。胴部はキャリパー形の曲線を描いて立ち上がり、口縁部に至る。口縁部に大小それぞれ1対ずつの把手を有するが、2つは欠損している。大形の把手は内・外側のそれぞれ段上に1単位、下段に2単位の孔を有する中空の立体把手で、孔には沈線で縁取りが施され、隙間には横位の沈線が充満され、部分的に交互突角の「コ」字状文も見られる。小形の把手は口縁部外面に付けられ、口唇部隆帯から減少して環状を呈する。文様帯は口縁部と胴部に分離され、口縁部文様帯は口唇部と頸部に至る隆帯の間に展開され、クラック状の隆帯に上下の隆帯が連続されている。隆帯の中央には沈線が加えられている。胴部には直線的に垂下する平行沈線と波状沈線が施されている。地文は、単節縄文Rしが縦位回転で口唇部から胴下部まで施文されている。	砂粒・長石・石英 ぶい赤褐色 普通	F189 SK-576 覆土下層 (加賀野EⅠ)
2	祀手 縄文土器	長さ10.9 幅(8.9) 高さ(6.8)	口縁部に付く、大小7つの孔を有する中空の立体把手である。孔には沈線で縁取りが施されている。	砂粒・雲母 暗褐色 普通	F190 SK-576 覆土下層 (加賀野EⅠ)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(3.8) C 10.2	底部片。平底で、底部に網代裏が残されている。	砂粒・長石・石英・雲母 ぶい赤褐色 普通	F191 SK-576 覆土 (中時)
第474図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(35.0) B(13.9)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎して口縁部に至る。口縁部に隆起区画の磨消帯が施され、磨消帯がせり上がった小突起が形成されている。胴部は単節縄文Rしの縦位回転で地文で、波頂部から胴部に垂下する「U」状の隆起区画の磨消帯に文様が分断されている。	砂粒・長石・雲母 ぶい橙色 普通	F192 SK-596 覆土中層 (加賀野EⅣ)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(23.6) B(11.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がった後外傾して口縁部に至る。口縁部に隆起区画の磨消帯が施され、磨消帯がせり上がった小突起が形成されている。胴部には無節縄文Rしが縦位回転で施文されている。	砂粒・長石 暗灰色 普通	F193 SK-596 覆土中層 (加賀野EⅣ)
第476図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(8.4)	内彎する口縁部片。扇状の把手を有し、孔は沈線で縁取りされ、沈線の外面には羽形が連続されている。口唇部下は上下に沈線を施して横走する隆帯の効果をだし、部分的に交互突角文が施されている。口唇部文様帯は中央に沈線を施したクラック状の隆帯が横され、隙間は縦位あるいは僅かに斜行する沈線が充満されている。	砂粒・雲母 明褐色 普通	F197 SK-629 覆土上層 (中時)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第476図 2	深鉢形土器 縄文土器	A (18.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内傾しながら口縁部に至る。口縁部文様帯は、欠損しているため形状は不明だが縁状と思われる把手が付され、交互斜突の連続「コ」字状文、縦位沈線及び口縁部文様帯を区別する下段の隆帯から派生する形の彫れた渦巻文が施されている。隆帯中央には沈線が加えられ、下段の隆帯の沈線下には胡文が施されている。胴部には磨面状施文具による集合沈線が縦位に施されている。	砂粒・スコリア・長石 にぶい赤褐色 普通	P198 SK-629 覆土中層 (中鉢)	10%
		B (10.6)				
第476図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A 35.4	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後胴部で内傾した後外反突縁に口縁部に至る。胴部に突帯を帯り、口縁部文様帯が胴部と分離されている。口縁部文様帯は1列あるいは2列の沈線で長指円形を描き、1列の場合は中央に縦位の沈線が施されている。突帯には棒状工具による押捺が2番1組で6単位施されていると思われ、押捺痕上には部分的に「つ」の字状文が沈線で施されている。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P199 SK-636 覆土中層 (湯鉢蓋)	45%
		B (18.2)				
2	深鉢形土器 縄文土器	B (10.5)	口縁部片。液状口縁で、液頂部に環状の把手を有し、内面にも楕円形の孔が穿たれている。口縁部には隆帯による円形の区画文や沈線を施すことで隆帯の効果を突出されており、連続刻文が施されている。沈線は部分的に三又文を形成し、隆帯の区画内には縦位の沈線が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙褐色 普通	P200 SK-636 覆土下層 (湯鉢蓋)	5%
		A 25.4 B (17.0)	胴部中位以下欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり、内傾しながら口縁部に至る。口唇部は肥厚し、上端に沈線が2本施されている。4単位の小突起を有すると思われるが、欠損しているため形状は不明である。口縁部には縁線による長方形区画文が施され、区画文の境には小形で方形の文様が施文されている。口縁部及び胴部には縦位短線の単加縄文R Lが施文されている。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P204 SK-668 覆土中層 (加賀利E 1)	45%
2	深鉢形土器 縄文土器	A 25.8 B (16.6)	胴部中位以下欠損。胴部はやや外傾して立ち上がった後内傾しながら口縁部に至る。口唇部は無文で、無文帯直下の交互斜突文に連続する隆帯で下向き弧状の区画が連続して描かれ、口縁部文様帯を構成している。区画内は縦位の沈線が充填され、隆帯上には刻みが連続されている。胴部には2~3列の沈線で、縦位、斜位あるいは円形の直線や曲線が施されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙褐色 普通	P205 SK-668 覆土中層 (中鉢)	40%
		A (24.9) B (22.3)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内傾しながら口縁部に至る。口縁部に大小1対ずつの把手を有すると思われ、2個欠損しているため形状は不明である。残存している大型の把手は内面に小形の円孔を2単位、外面に大型の円孔を1単位有する立体把手で、小形の把手は突起状で、渦巻文が外面は隆帯で、内面は沈線で施されている。口縁部文様帯は胴部と口唇部に沿って隆帯間に展開され、上下の隆帯はクランク状の隆帯が連続し、隆帯内には縦位の沈線が充填されている。胴部文様帯は縦位短線の単加縄文R Lが施文で、3列の平行沈線が胴部から直線的に垂下されている。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P206 SK-668 覆土中層 (加賀利E 1)	30%

土坑出土石製品観察表

図版番号	器種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第463図5	燧石	7.4	3.9	2.2	100.3	緑泥片岩	032 燧石斧の欠損品を転用 SK-215 覆土下層
第464図8	石 鏃	(2.0)	1.7	0.3	(0.8)	チャート	033 凹縁無茎鏃 一部欠損 SK-232 覆土中層
第465図9	燧石	9.7	5.4	3.9	317.2	安山岩	039 燧石鎌用 SK-408 覆土
第467図2	燧石	9.8	8.1	5.1	542.5	安山岩	040 燧石鎌用 表・裏面に凹み SK-417 覆土
第467図1	燧製石斧	5.9	3.1	1.1	33.0	緑泥片岩	041 SK-421 覆土
第467図3	燧石	6.6	5.8	4.2	295.3	安山岩	042 燧・凹石鎌用 表・裏・裏面に凹み SK-422 覆土
第467図2	燧製石斧	(10.1)	5.3	3.1	(271.9)	砂 岩	043 定角式 刃部欠損後燧石に転用 SK-425 覆土上層
第469図2	燧石	9.2	7.9	4.8	553.7	安山岩	044 燧石鎌用 表・裏面に凹み SK-429 覆土
第469図3	燧石	8.9	8.1	4.7	487.3	安山岩	045 燧石鎌用 表・裏面に凹み SK-428 覆土
第475図1	柱状石製品	(20.8)	13.3	12.1	(4943.1)	凝 灰 岩	052 欠損品 SK-600 覆土上層
第475図1	凹石	(18.1)	8.4	(3346.2)		黄 母 片 岩	054 欠損品 SK-621 覆土下層

土坑出土土製品観察表

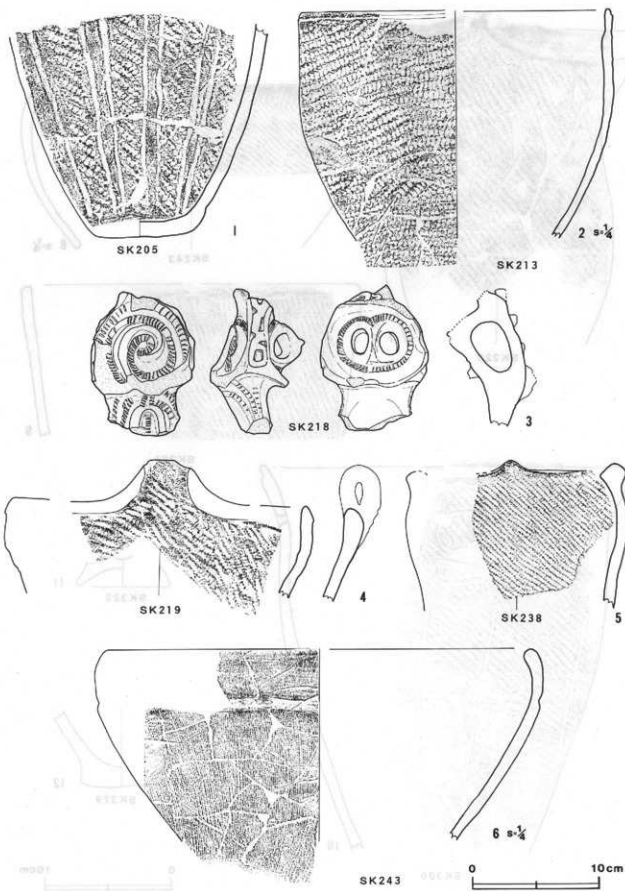
図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第463図 4	土製円板	5.0	4.6	0.8	23.6	100	表面に単筋縄文R L	DP29 SK-215 覆土下層
第464図 7	管状土製品	(5.4)	1.6		(16.6)	70	孔径0.5cm	DP30 SK-232 覆土上層
第464図 7	有孔円板	5.8	(3.2)	0.7	(17.5)	50	孔径1.0cm 1/2次振	DP31 SK-242 覆土
第471図 4	土器片鏢	6.3	5.8	1.6	60.3	100	口縁部片利用 内・外面磨き	DP58 SK-446 覆土

⑤ その他の土坑

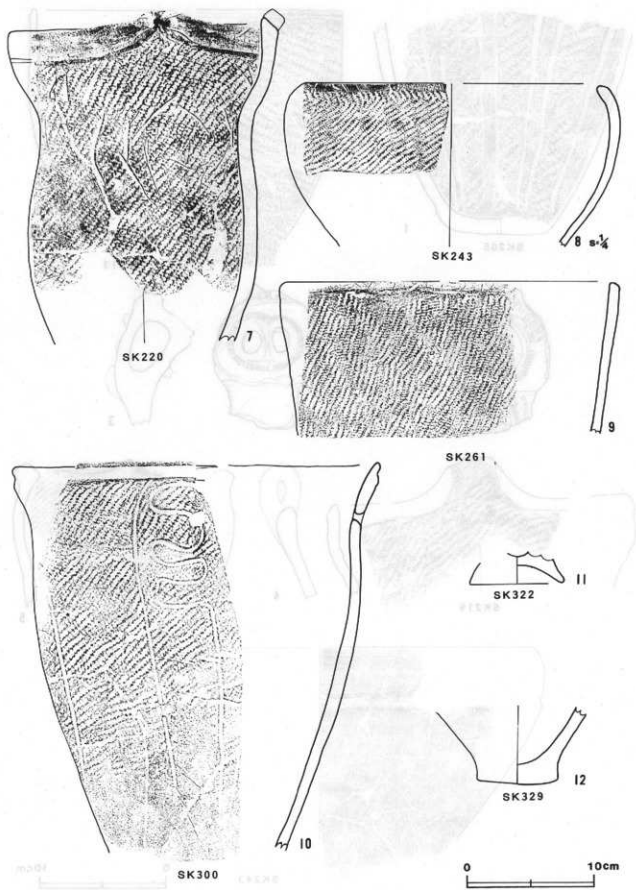
ここでは、遺構平面図を掲載しなかった土坑から出土した遺物の実測図及び拓影図を掲載し、その解説を記述する。

第487～490図 1～40は遺構平面図を掲載しなかった土坑から出土した縄文土器片の拓影図である。

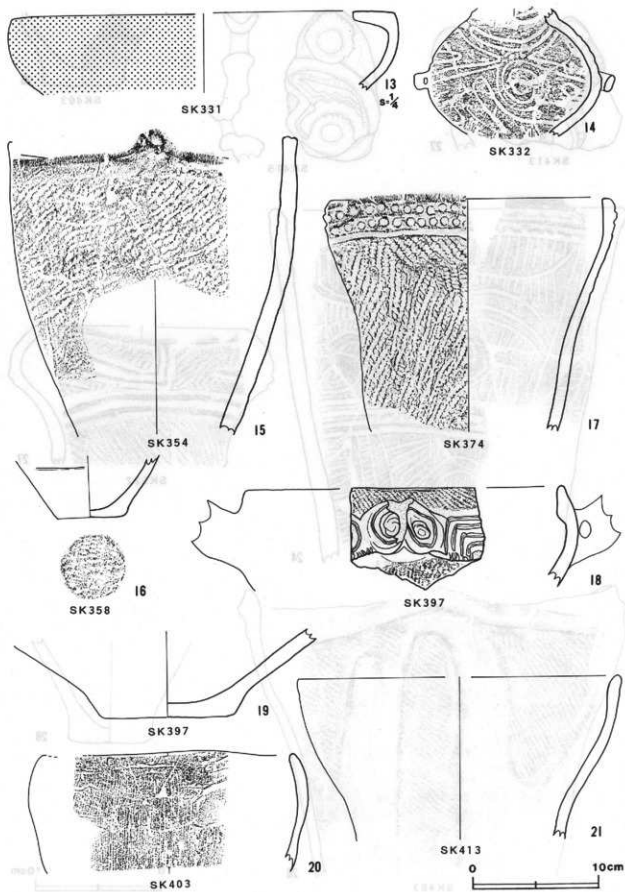
20, 22～24は中期阿玉台式の範疇の土器片である。20は縄文地文で、隆帯に沿い沈線, 22は隆線に沿う複列のベン先文, 23は縄文地文で、隆帯に沿うキャタピラ文, 24は単筋縄文R Lがそれぞれ器面に施されている。22, 24はⅡ式, 23はⅢ式, 20はⅣ式に比定されると思われる。12, 13は腰坂式の影響が見られる土器片で、12は隆帯による長楕円形の区画内に連続爪形文, 13は半截竹管による爪形文と細沈線が見られる。15, 16, 18は中期中幹式に比定される口縁部片で、15, 18には交互刺突文, 16には中央に沈線を加えた隆線が施されている。1, 2, 14, 19, 26, 27, 37, 38, 39, 40は中期加曾利EⅢ式の範疇と思われる土器片である。1, 27は口縁部無文帯下に沈線が見られる。2, 14は口縁部に楕円形及び円形の沈線区画文が、19, 26は胴部に曲線的な隆起線が見られる。37, 39, 40は沈線区画の磨消帯が、38には口縁部に連続刺突文が見られる。4, 5, 9, 10, 11, 25, 28, 29, 31, 32は中期加曾利EⅣ式に比定される土器片で、いずれも地文の縄文を切る微隆起線区画の磨消帯が施されている。28, 29には口縁部に双耳状の突起が見られる。35は内彎する口縁部片で、棒状工具による円形刺突文, 角状刺突文とボタン状の貼り付け文が見られる。時期は中期後半と思われる。21, 33, 34は後期称名寺式に比定される土器片で、21は沈線による曲線的な区画が施され、区画内は磨り消されている。33は外反する口縁部と内彎する胴部との境に微隆起線が施されている。2点とも地文に縄文が施されており、1式の範疇と思われる。34は2式に含まれると思われる土器片で、沈線区画内には列点文が施されている。6, 7, 8, 17, 30は後期期之内1式期に比定される土器片である。6, 7, 8, 17は波状口縁で、波頂部に円形の刺突文や孔が見られ、胴部には地文の縄文を切る直線的な沈線や藁手文が施されている。7は波頂部から刻みを施した隆帯が直線的に垂下し、隆線の両側は半截竹管による直線が施文されている。8は器面に縦位あるいは斜位の条線が施されている。30は口縁部に「C」字状の貼付文が見られる。3は晩期安行Ⅲa式期前後の口縁部片で、縦長の貼瘤と三角形の沈線区画の縄文帯が見られ、隙間は研磨されている。



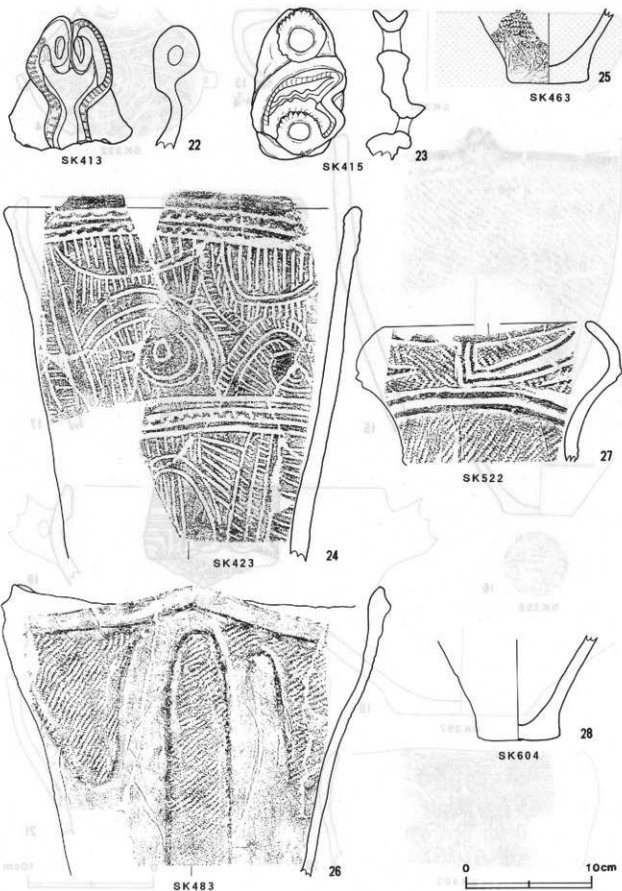
第478図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(1)



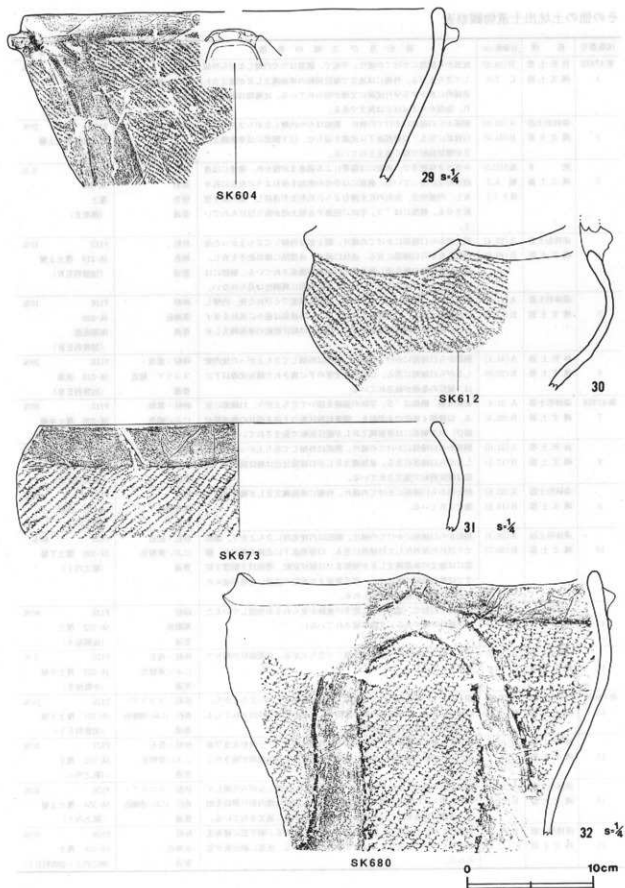
第479図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(2)



第480図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(3)



第481図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(4)



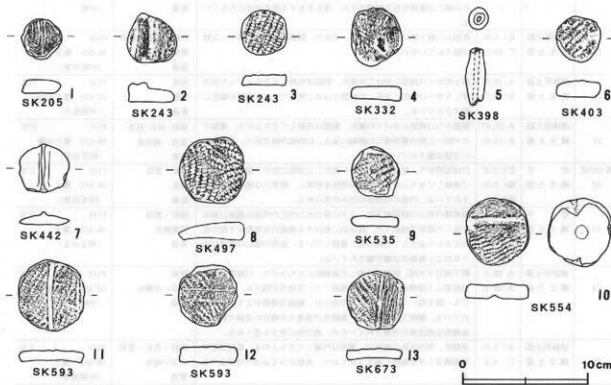
第482図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(5)

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478回	鉢形土器	B(16.8)	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部はやや内彎しながら外傾して立ち上がる。外面には施文で縦位回転の単純縄文Lが施文され、底縁的に垂下する平行沈線に文様が切られている。沈線間は磨り消され、底部から2cmほどは無文である。	砂粒 灰褐色 普通	P106 SK-205 中央部環土下層 (加判利EⅡ)
	縄文土器	C 7.8			
2	深鉢形土器	A(32.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。口唇部直下に沈線を巡らせ、以下胴部には単純縄文Lが縦位回転で粗く施文されている。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P109 SK-213 環土上層 (堀之内)
	縄文土器	B(24.0)			
3	把	高さ(11.5)	中空の立体把手で、表面には隆帯による渦巻文が描かれ、隆帯には連続爪形文が沿っている。裏面には中央の突起を挟むように左右に孔を有し、内部中空、左右の孔を囲むように爪形文が連続し、鼻の筋を突起させる。裏面には「コ」字状に屈曲する粘土粒が貼り付けられている。	砂粒・スコリア・長石 褐色 普通	P111 SK-218 環土 (堀之内)
	縄文土器	幅 8.2 厚さ 7.5			
4	深鉢形土器	A(23.4)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴上部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。底状口縁で、底頂部に環状把手を有し、前後縁線区間の磨り消し無文帯で口縁部が構成されている。胴部には単純縄文Lが充満されているが、回転方向に規則性は見られない。	砂粒 褐色 普通	P112 SK-219 環土上層 (加判利EⅣ)
	縄文土器	B(10.8)			
5	深鉢形土器	A(17.5)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は頸部でくびれた後、内彎して口縁部に至る。口唇部に小突起を有し、口縁部は僅かに波状を呈する。口縁部後縁線区間の無文帯で、胴部には縦位回転の単純縄文Lが施文されている。	砂粒 黒褐色 普通	P116 SK-238 南部志面 (加判利EⅣ)
	縄文土器	B(11.5)			
6	鉢形土器	A(44.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部無文帯の下に施された横走沈線以下には、縦位の条線が施されている。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P118 SK-243 底面 (加判利EⅢ)
	縄文土器	B(20.0)			
第479回	深鉢形土器	A 21.6	底部欠損。胴部は「S」字状の曲線を描いて立ち上がり、口縁部に至る。口縁部を単位の小突起を、前後縁線区間の下向き爪状の磨消帯が結び、以下胴部には単純縄文Lが縦位回転で施文されている。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P113 SK-220 環土中層 (加判利EⅣ)
	縄文土器	B(26.3)			
8	鉢形土器	A(31.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。単純縄文Lが口縁部付近は縦位回転で、胴部は縦位回転で施文されている。	砂粒 赤褐色 普通	P119 SK-243 底面 (加判利EⅢ)
	縄文土器	B(17.1)			
9	深鉢形土器	A(35.6)	胴上部から口縁部にかけての破片。外面に単純縄文Lが縦位回転で施文されている。	砂粒 灰黄褐色 普通	P120 SK-261 底面 (堀之内Ⅰ)
	縄文土器	B(15.9)			
10	深鉢形土器	A(29.3)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がり、胴部でくびれた後外反して口縁部に至る。口唇部直下に沈線が施され、胴部には施文の単純縄文Lが胴部までは縦位回転、胴部以下胴部下位までは横位回転で施文され、底手垂文や縦位の沈線に文様が切られている。底面に輪孔が見られる。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P123 SK-300 環土下層 (堀之内Ⅰ)
	縄文土器	B(30.7)			
11	蓋	高さ(2.5)	断面が半円形で、頂部両側に把手の痕跡が見られるが欠損しているため詳細は不明である。文様は施されていない。	砂粒 黒褐色 普通	P124 SK-322 環土 (後期前半)
	縄文土器	径 7.4			
12	深鉢形土器	B(6.2)	丸みを帯びた底形で、胴部は外傾して立ち上がる。外面縦位の筋りで整形されている。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P125 SK-329 環土中層 (中期後半)
	縄文土器	C 6.4			
第480回	浅鉢形土器	A(39.8)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は内側に屈曲し、上縁が平坦に作出されている。外面及び口縁部上縁は赤彩されている。	砂粒・スコリア・長石 灰黄褐色 普通	P126 SK-331 環土下層 (加判利EⅠ)
	縄文土器	B(8.2)			
14	鉢形土器	B(10.1)	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。外面に渦巻文、三角形文及び歯線が平行沈線で描かれ、要所に刺突文や刺突文を結ぶ条線が施されている。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P127 SK-332 環土 (堀之内Ⅰ)
	縄文土器	B(10.1)			
15	深鉢形土器	A(23.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上縁に、頂部に指形部の押痕を加えた爪状の突起を有し、外面には無施文縄文Lが粗く施文されている。	砂粒・スコリア・長石 灰黄褐色 普通	P128 SK-354 環土上層 (堀之内Ⅰ)
	縄文土器	B(23.5)			
16	深鉢形土器	B(4.9)	底部片。やや上縁で、胴部は外傾して立ち上がる。胴下部に横走沈線が見られ、以下底部までは磨きが施されている。底面に網代文が見られる。	砂粒 灰褐色 普通	P129 SK-358 環土 (堀之内Ⅱ・加判利BⅠ)
	縄文土器	C 5.4			

図版番号	器種	計測値(m)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第480図 17	深鉢形土器	A 22.2	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後僅かに内彎しながら口縁部に至る。口縁部文様帯と胴部文様帯を横断線で見分ける。口縁部文様帯には円形刺突文が2段通らされている。胴部文様帯は、沈線以下3cmほど単筋縄文Rしを横断線画。それ以下は縦位回転で施文されている。部分的に単筋の縄を付加した文様も見られるが施文は施である。	砂粒 灰青色 普通	P131 SK-374 覆土上層 (加賀利EⅡ)
	縄文土器	B (18.5)			
18	深鉢形土器	A (25.0)	内彎する口縁部片。口縁部上半は単筋縄文Rしが施文されており、下半には曲線あるいは鋭線に屈曲する直線的文様が沈線で描かれ、胴部との境には連続爪形文が施文され、溝孔を有する把手が付けられている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P133 SK-397 覆土中層 (中峠)
	縄文土器	B (8.0)			
19	浅鉢形土器	B (6.8)	胴部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。文様は施されていない。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P134 SK-397 覆土下層 (中期中央)
	縄文土器	C 10.5			
20	深鉢形土器	A (19.7)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内彎しながら口縁部に至る。口縁部3cmほど無文で、以下条線が縦位に施文されている。	砂粒 褐色 普通	P136 SK-403 覆土上層 (中期後半)
	縄文土器	B (9.3)			
21	深鉢形土器	A (25.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、胴部でやや開いた後内彎気味に口縁部に至る。口唇部内凹み状で、以下外面に文様は施されていない。	砂粒・長石・石英・雲母 褐色 普通	P145 SK-413 覆土中層 (阿玉台Ⅱ)
	縄文土器	B (13.0)			
第481図 22	把手	長さ10.8	口縁部把手片。把手下部左右から鈍行して頂部に向かう隆帯が、頂部で連続してせり上がりて湾状の突起を形成し、隆帯には連続刺突文が施されている。内面には円形の凹みが見られる。	砂粒・雲母 褐色 普通	P146 SK-413 覆土 (阿玉台Ⅱ)
	縄文土器	幅(9.9) 厚さ3.6			
23	把手	長さ12.1	縦長楕円形の口縁部把手片。上下に穿たれた円孔の外面は端部に削みを施した状態で採取され、部分的に進行する曲線的な隆帯が下段の孔の左右から発生して上段の孔と接続している。隆帯内部には隆帯に沿う爪形文と刺突状沈線が施されている。	砂粒・雲母 黄褐色 普通	P149 SK-415 覆土 (阿玉台Ⅱ)
	縄文土器	幅7.7 厚さ4.6			
24	深鉢形土器	A 26.4	胴下部以下欠損。胴部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部に2段通る交互刺突の連続「コ」字状文が施され、胴部中央にも一部を除いて「コ」字状文が見られ、胴部文様帯が上下に分離されている。胴部文様帯は直線、曲線及び渦巻文が縦位の沈線で描かれ、直線的な刺突文が充満されているが、部分的に無文も見られる。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P152 SK-423 覆土上層 (中峠)
	縄文土器	B (28.4)			
25	深鉢形土器	B (5.6)	底面片。突出気味の底部で、胴部は外傾して立ち上がる。横断線画の単筋縄文Lしが胴部に施文されており、底部から4cmほどは無文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P174 SK-463 覆土 (中期後半)
	縄文土器	C 6.4			
26	深鉢形土器	A 29.7	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、ややくびれた後僅かに内彎しながら口縁部に至る。4単位の波状口縁で、口縁部は帯状起線区画の磨り消し無文帯。胴部には縦位回転の単筋縄文Lしが施文され、帯状起線区画の「U」状の磨消帯に施文が分析されている。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P177 SK-483 覆土中層 (加賀利EⅡ)
	縄文土器	B (23.2)			
27	深鉢形土器	A (21.1)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部で外反した後内彎して口縁部に至る。口縁部文様帯は上下に横走する隆帯で区画され、区画内には隆帯によるモチーフが描かれている。下段の隆帯及び区画内の隆帯は2列、口唇部の隆帯は1列で、いずれも沈線が出ている。隆帯には地文の単筋縄文Lしが見られるが、施文方向は様々である。胴部は円筒文が縦位回転で施文され、胴部に縦位の横断線沈線が見られる。	砂粒 黄褐色 普通	P179 SK-522 覆土 (加賀利EⅡ)
	縄文土器	B (11.1)			
28	深鉢形土器	B (8.1)	突出する上げ底で、胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄色 普通	P195 SK-604 底面 (加賀利EⅡ)
	縄文土器	C 6.6			
第482図 29	深鉢形土器	A (44.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後僅かに内彎しながら口縁部に至る。口縁部に帯状起線区画の磨消帯を施し、外面に突出する突起が付けられている。胴部は単筋縄文Lしが縦位回転で施文され、突起から胴部に僅かに弧を描いて垂下する帯状起線区画の磨消帯に文様が分析されている。外面はやや厚縮している。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P194 SK-604 覆土下層 (加賀利EⅡ)
	縄文土器	B (18.2)			
30	深鉢形土器	A (24.4)	胴部から口縁部にかけての破片。波状口縁で、波頂部に口縁部横断線起線区画の磨消帯が磨り上がってできる大小の突起が1対ずつ付けられていると思われる。胴部には斜めの同心の単筋縄文Lしが施文されている。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P196 SK-612 覆土 (加賀利EⅡ)
	縄文土器	B (13.2)			
31	深鉢形土器	A 46.1	内彎する口縁部片。口縁部文様帯と胴部文様帯を微塵起線によって区画し、口縁部は磨り消しの無文。胴部には単筋縄文Lしが縦位回転で施文されている。	砂粒 褐色 普通	P207 SK-673 覆土中層 (加賀利EⅡ)
	縄文土器	B (11.1)			

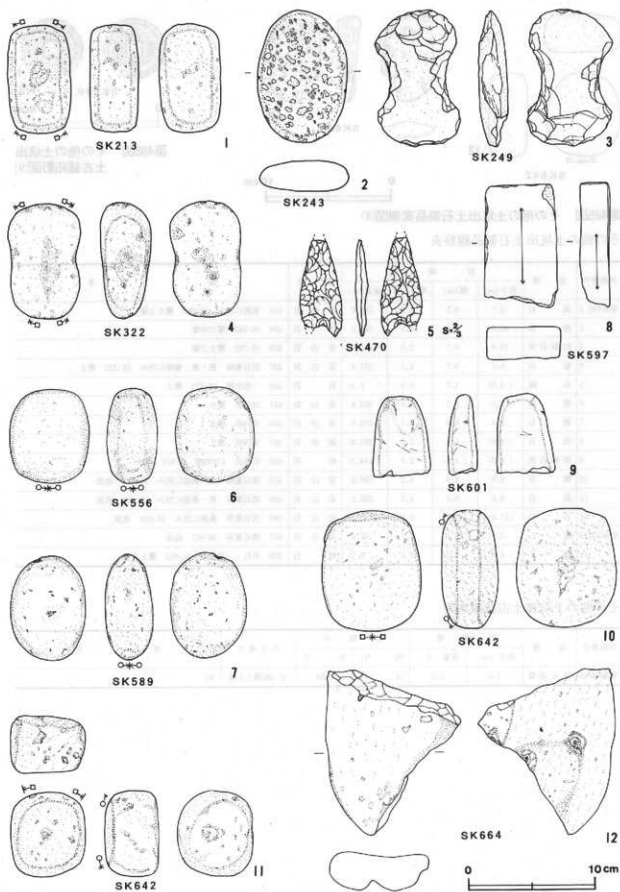
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
32	深鉢形土器	A 37.2	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後僅かに内彎しながら口縁部に至る。4単位の小流状口縁で、口縁部と胴部との境を隠隆起線で区画し、口縁部は無文帯で、波頂部には隠隆起線が外側に突出して突起が形成されている。胴部は複線縄文R L Rが地文で、波頂部から垂下する「冂」状の隠隆起線区画の磨消帯に文様が分割されている。	砂粒 にふい棕色 普通	F209 40% SK-680 覆土層 (加曾利E IV)
	陶文土器	B (27.7)			



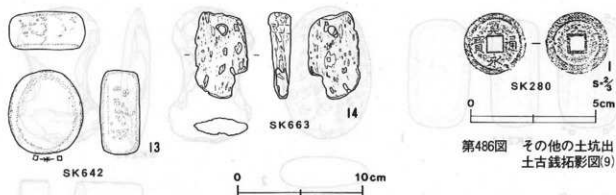
第483図 その他の土坑出土土製品実測・拓影図(6)

その他の土坑出土土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第483図 1	土製円板	3.1	3.2	1.1	11.8	100	表面に無筋R	DP28 SK-205 覆土
2	土製円板	3.9	3.9	1.6	22.0	100	表面に隠隆	DP32 SK-243 覆土
3	土製円板	3.6	3.6	0.9	15.6	100	表面に単筋縄文R L	DP33 SK-245 覆土層
4	土製円板	4.7	4.0	1.2	24.8	100	表面に縄文施文 摩滅が著しい	DP34 SK-332 覆土
5	管状土製品	(4.6)	1.6		(8.8)	95	孔径0.3-0.4cm 一部欠損	DP35 SK-298 覆土
6	土製円板	3.5	3.5	1.3	19.3	100	表面に縄文施文 摩滅が著しい	DP36 SK-403 覆土
7	土製円板	3.9	3.9	1.1	12.0	100	表面に隠隆	DP37 SK-442 覆土
8	土製円板	5.2	5.2	1.5	42.4	100	表面に単筋縄文R L	DP39 SK-497 覆土
9	土製円板	4.0	3.8	0.8	16.0	100	表面に単筋縄文R L	DP40 SK-535 覆土
10	土製片鐘	5.4	5.0	1.1	39.4	100	表面に比喩を挟んで無文帯と縄文帯 裏面に糸貫通孔	DP41 SK-554 覆土
11	土製円板	5.6	5.2	1.1	34.4	100	表面に横い単筋縄文L Rを切る比喩	DP43 SK-563 覆土層
12	土製円板	5.0	4.7	1.3	(34.8)	90	表面に横い単筋縄文L Rを切る浅い平行沈線	DP43 SK-563 覆土層
13	土製円板	4.7	4.5	1.0	23.1	100	表面に比喩を挟んで磨消帯と単筋縄文L R	DP44 SK-673 覆土層



第484図 その他の土坑出土石製品実測図(7)



第486図 その他の土坑出土古銭拓影図(9)

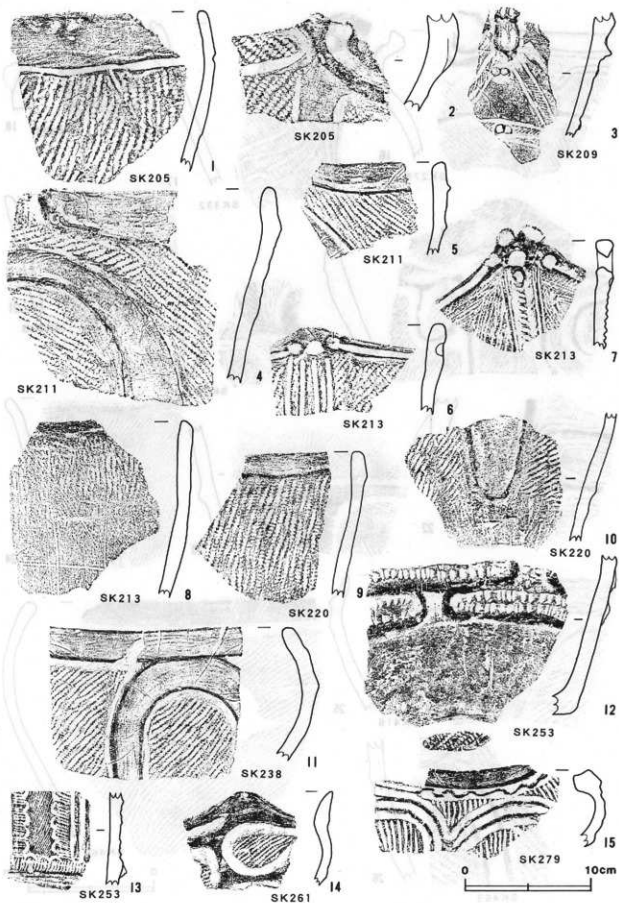
第485図 その他の土坑出土石製品実測図(8)

その他の土坑出土石製品観察表

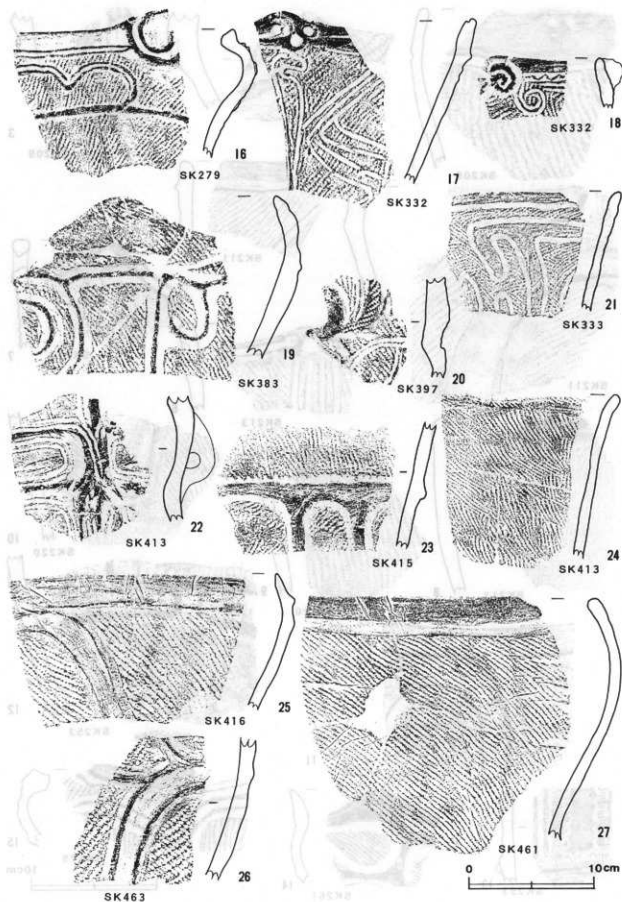
図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第484図1	敲石	8.7	6.5	4.0	250.7	安山岩	Q31 表面に凹み SK-213 覆土上層
2	磨石	10.6	7.2	2.5	291.2	凝灰岩	Q34 SK-243 覆土中層
3	打製石斧	10.9	6.7	2.3	202.5	安山岩	Q35 SK-249 覆土上層
4	敲石	9.1	5.7	4.1	277.4	安山岩	Q37 凹石兼用 表・裏・側面に凹み SK-322 覆土
5	石鏃	(3.9)	1.7	0.5	(2.4)	頁岩	Q46 一部欠損 SK-470 覆土
6	磨石	7.5	6.2	3.9	303.4	安山岩	Q47 SK-556 覆土
7	磨石	8.4	6.0	3.7	273.0	安山岩	Q50 SK-589 覆土
8	砥石	(9.8)	6.0	2.5	(263.8)	凝灰岩	Q51 SK-597 覆土
9	磨製石斧	(6.3)	(4.6)	2.4	(114.3)	砂岩	Q53 定角式 1/2欠損 SK-601 覆土
10	磨石	9.6	8.0	4.5	596.6	安山岩	Q55 敲石兼用 表・裏面に凹み SK-642 底面
11	敲石	6.8	6.0	4.3	285.9	安山岩	Q56 磨石兼用 表・裏面に凹み SK-642 底面
12	石鏃	(17.4)	(14.3)	4.2	(1193.7)	安山岩	Q60 凹石兼用 裏面に凹み SK-664 底面
第485図13	敲石	6.7	5.9	3.2	197.4	安山岩	Q57 磨石兼用 SK-642 底面
14	浮子	(6.9)	4.3	1.5	(6.5)	凝石	Q59 有孔 一部欠損 SK-663 覆土中層

その他の土坑出土古銭観察表

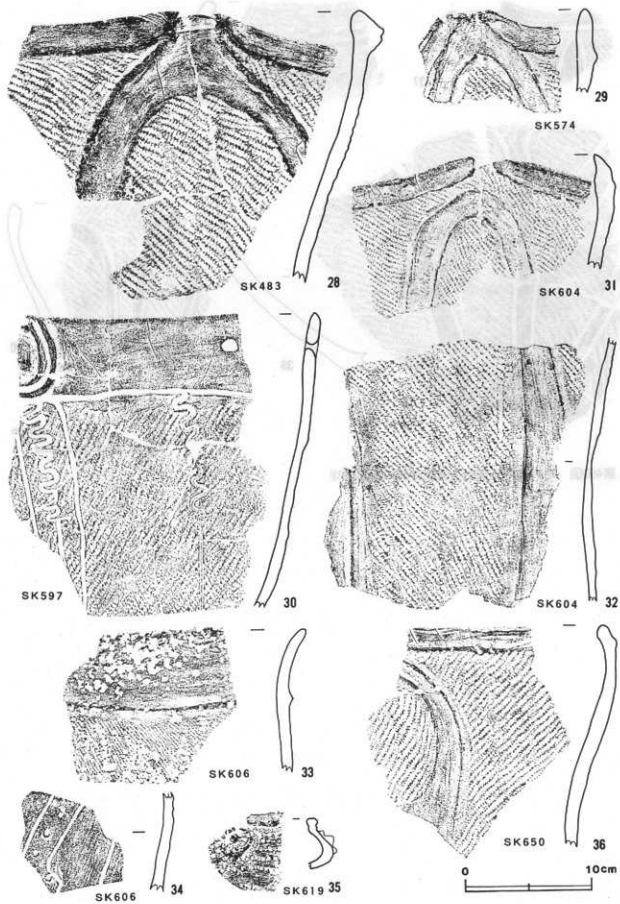
図版番号	器種	計測値		初 始 年		出土地点	備 考
		直径(cm)	重量(g)	時 代	年 号		
第486図1	寛永通寶	2.6	3.2	江 戸	1668	SK-280覆土上層	M3



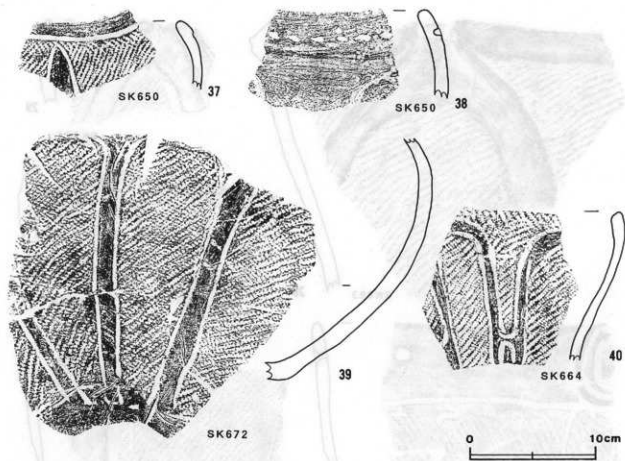
第487図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(10)



第488図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(11)



第489図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(12)



第490回 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(13)



拓影図は、東京大学考古学研究所蔵

表5 前田村遺跡C区土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径(軸 方向)	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	階面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備 考 ※重複関係(新→旧)
203	B171a	N-34°-E	楕円形	1.13×0.81	18	外傾	平坦	自然		BIIb1	加曾利E	縄文土器	
204	B171b	N-52°-E	円形	1.20×1.15	54	垂直	平坦	自然		AIIIb2	加曾利E III-IV	縄文土器	
205	B17a	N-17°-E	楕円形	1.63×1.34	35	外傾	平坦	自然		BIIb1	加曾利E II-III	縄文土器、土製刀根	
206	B17ea	N-0°	円形	1.27×1.32	32	外傾	平坦	自然		AIIIb1	加曾利E III	縄文土器	
207	B17eb	N-56°-E	円形	1.75×1.70	98	垂直	平坦	自然		AIIIb2	加曾利E IV	縄文土器	
208	B17ec	N-54°-E	楕円形	1.08×0.97	45	外傾	平坦	自然		BIIb1	中期	縄文土器	
209	B17fd	N-58°-E	円形	1.20×1.13	22	外傾	平坦	自然		AIIIb1	加曾利E-安行	縄文土器、魚骨	
210A	B17j	N-30°-E	[楕円形]	(1.10×0.63)	32	外傾	平坦	自然		BIIb1	加曾利E III	縄文土器	本跡→S1-55、SK-210B不明
210B	B17j	N-40°-E	[楕円形]	(1.04)×0.72	28	外傾	平坦	自然		BIIb1	加曾利E IV	縄文土器	本跡→S1-55、SK-210B不明
211	B17ha	N-35°-E	楕円形	1.18×0.96	23	外傾	平坦	自然		BIIb1	加曾利E IV	縄文土器	
212	B17hb	N-9°-E	円形	1.42×1.34	70	外傾	平坦	自然		AIIIb2	中期	縄文土器	
213	B17ib	N-32°-E	楕円形	0.79×0.62	74	垂直	平坦	自然		BIIIa2	堀之内1	縄文土器、燧石	
214	B17g	N-27°-E	楕円形	1.56×1.42	40	外傾	屈状	自然		BIIb1	加曾利E	縄文土器	本跡→SK-242
215	B17ca	N-44°-E	円形	2.18×2.10	102	垂直	平坦	人為		AIIIc3	加曾利E III-IV	縄文土器、土製刀根、燧石	
216	B17da	N-5°-E	楕円形	1.07×0.92	50	外傾	平坦	自然		BIIb2	中期	縄文土器	
217	B17cd	N-10°-E	円形	1.17×1.08	24	外傾	平坦	自然		AIIIb1	加曾利E	縄文土器	
218	B17fa	N-12°-E	円形	1.81×1.77	53	外傾	平坦	自然		AIIIb2	阿古台-加曾利E II	縄文土器	
219	B17ea	N-30°-E	円形	1.65×1.45	65	外傾	平坦	自然		AIIIb2	加曾利E III-IV	縄文土器	本跡→S1-55、SK-371不明
220	B17fa	N-42°-E	楕円形	1.70×1.40	70	外傾	平坦	人為		BIIb2	加曾利E IV	縄文土器	本跡→S1-64
221	B17gb	N-70°-E	楕円形	1.18×1.04	35	外傾	平坦	自然		BIIb1	加曾利E	縄文土器	
222	B17ha	N-69°-E	楕円形	1.71×1.36	52	垂直	屈状	自然		BIIIb2	加曾利E	縄文土器	
225	B17ia	N-46°-E	楕円形	0.91×0.90	62	外傾	屈状	人為		AIIIa2	加曾利E	縄文土器	
226	B17b	N-38°-E	楕円形	1.76×1.42	24	外傾	凸凹	自然	2	BIIb1	堀之内	縄文土器	
227	B17h	N-47°-E	楕円形	0.68×0.55	70	垂直	凸凹	自然		BIIIa2			SK-249→本跡→S1-60
228	B17j	N-11°-E	楕円形	1.60×0.95	23	垂直	平坦	自然		BIIIb1			
229	C16j	N-36°-E	[楕円形]	(1.45)×1.32	27	外傾	平坦	自然		BIIb1	中期	縄文土器	SK-220→本跡、SK-248不明
230	C17aa	N-12°-E	[円形]	(2.36)×1.45	25	外傾	平坦	自然		BIIc1	中期	縄文土器	本跡→SK-229、SK-248不明
231	B17fa	N-19°-E	楕円形	1.43×1.03	70	垂直	平坦	自然	1	BIIIb2	加曾利E	縄文土器	
232	B17ca	N-39°-E	楕円形	2.28×1.74	122	垂直	平坦	人為		BIIIc3	加曾利E IV	縄文土器、管状土製品、石鏃	本跡→S1-134
233	B17ca	N-36°-E	円形	0.88×0.80	76	外傾	平坦	自然		AIIIa2	加曾利E	縄文土器	本跡→S1-63
234	B17fa	N-0°	円形	1.40×1.28	26	傾斜	平坦	自然	1	AIIIb1	堀之内	縄文土器	
235	B17fa	N-25°-E	円形	1.04×0.95	29	外傾	平坦	自然		AIIIb1	阿古台-加曾利E I	縄文土器	
236	B17fa	N-48°-E	楕円形	1.20×(0.85)	30	垂直	平坦	自然		BIIIb1	堀之内1	縄文土器	
237	B17fa	N-50°-E	楕円形	(1.30)×1.07	35	垂直	平坦	自然	1	BIIIb1	加曾利E	縄文土器	
238	B17fa	N-48°-E	[楕円形]	(1.90)×1.43	50	傾斜	平坦	自然		BIIIc2	加曾利E IV	縄文土器	
240	B17fa	N-30°-E	楕円形	1.45×1.12	85	傾斜	平坦	自然		BIIIb2	後期前葉	縄文土器	本跡→S1-64
242	B17ca	N-35°-E	楕円形	2.00×1.69	95	外傾	平坦	自然	1	BIIIc2	阿古台-加曾利E I	縄文土器、有孔刀根	SK-214→本跡
243	B17fa	N-18°-E	楕円形	2.24×1.45	55	垂直	平坦	自然	2	BIIIc2	加曾利E III	縄文土器、土製刀根、燧石	
245	B17fa	N-45°-E	円形	0.80×0.75	75	垂直	平坦	自然		AIIIa2			本跡→S1-64
246	B17ja	N-40°-E	楕円形	1.30×0.80	27	外傾	平坦	自然		BIIb1			
247	C17ba	N-7°-E	[楕円形]	(1.84)×(1.22)	82	垂直	平坦	自然		BIIIb2	中期	縄文土器	
248	C16ja	N-18°-E	[円形]	(1.20)×1.00	50	垂直	平坦	自然		AIIIb2	中期-後期前葉	縄文土器	SK-229→230不明
249	B17ia	N-25°-E	円形	1.03×0.97	45	外傾	屈状	自然		AIIIb1	加曾利E-堀之内	縄文土器、打製石斧	本跡→S1-76
258	B17ca	N-51°-E	円形	1.70×1.32	45	外傾	平坦	自然	1	AIIIb1	中期	縄文土器	本跡→S1-64
260	C18ca	N-21°-E	円形	1.53×1.40	40	外傾	平坦	自然		AIIIb1	中期後半	縄文土器	
261	C18ca	N-33°-E	楕円形	1.91×1.64	65	垂直	平坦	自然		BIIIb2	加曾利E III-堀之内	縄文土器	
262	C18ca	N-41°-E	円形	1.52×1.41	39	外傾	平坦	自然		AIIIb1	加曾利E	縄文土器	
263	C18fa	N-18°-E	[楕円形]	(2.08)×1.75	77	垂直	平坦	自然		BIIIc2	加曾利E	縄文土器	
264	C18ca	N-20°-E	[円形]	(2.30)×2.18	55	垂直	平坦	人為		AIIIc2	加曾利E I	縄文土器	
265	C18fa	N-54°-E	円形	1.85×1.68	80	垂直	平坦	自然	2	AIIIb2	加曾利E III	縄文土器	

次 番 号	位置	長尺(軸) 方 向	平 面 形	長尺×短尺 (m)	深 さ	壁面	高 度	覆土	P	分 類	時 期	出 土 遺 物	備 考 重要視關係(新-旧)
266	C18f ₁	N-8'-W	円 形	2.46×2.30	76	垂直	平垣	人為	2	AⅡc2	加曾利EⅡ	縄文土器	
267	C18g ₁	N-52'-E	楕円形	1.26×1.03	17	外傾	平垣	自然	0	BⅡb1		縄文土器	
268	C18h ₁	N-80'-W	円 形	1.08×0.98	48	外傾	圓状	人為	A	EⅡb1		縄文土器	
269	C18i ₁	N-7'-W	[円形]	0.84×[0.82]	35	外傾	平垣	自然	A	EⅡa1		縄文土器	
271	C18d ₁	N-13'-E	楕円形	1.01×0.80	27	垂直	平垣	自然	0	BⅡb1			
272	C18d ₂	N-0'-	楕円形	0.96×0.83	20	外傾	平垣	自然	0	BⅡa1			
273	C18g ₂	N-46'-W	[楕円形]	2.53×[1.95]	59	垂直	平垣	人為	1	BⅡc2	堀之内1	縄文土器	本跡→SK-357
274	C18e ₁	K-54'-E	円 形	1.72×1.63	39	外傾	凸凹	自然	1	AⅡb1		縄文土器	
275	C18e ₂	N-3'-E	楕円形	0.65×0.55	38	外傾	圓状	自然	0	BⅡa1		縄文土器	
276	B17i ₂	N-58'-E	楕円形	2.40×1.37	53	内傾	平垣		0	BⅡc2	加曾利E		51-76→本跡
277	B17i ₃	N-49'-E	楕円形	1.76×0.81	65	垂直	平垣	自然	0	BⅡb2		縄文土器	本跡→51-76
278	B17i ₄	N-7'-E	円 形	0.58×0.52	50	垂直	平垣	自然	A	AⅡc2		縄文土器	本跡→51-76
279	C18a ₁	N-67'-W	楕円形	2.13×1.88	52	垂直	平垣	自然	0	BⅡc2	加曾利EⅠ	縄文土器	本跡→51-81
280	C18a ₂	N-46'-W	楕円形	2.20×1.94	61	垂直	平垣	自然	0	BⅡc2		縄文土器	本跡→51-81
281	C18a ₃	N-8'-E	楕円形	0.90×0.77	67	垂直	平垣	人為	0	BⅡa2	加曾利EⅣ	縄文土器	
282	C18d ₃	N-4'-W	円 形	0.86×0.82	40	外傾	圓状	自然	A	AⅡa1			
283	C18d ₄	N-42'-E	楕円形	1.67×1.03	31	傾斜	圓状	自然	0	BⅡb1		縄文土器	
284	C18a ₄	N-6'-E	楕円形	1.27×0.98	16	外傾	平垣	自然	1	BⅡb1	中期	縄文土器	
285	B17i ₅	N-82'-E	楕円形	0.80×0.71	71	垂直	平垣	自然	0	BⅡa2		縄文土器	
286	C18d ₅	N-20'-E	楕円形	1.40×0.90	35	傾斜	圓状	人為	0	BⅡb1	中期	縄文土器	
287	B18a ₁	N-0'-	円 形	0.75×0.70	93	外傾	平垣	自然	A	AⅡa2	中時-加曾利E	縄文土器	本跡→51-83, SK-321
288A	C18b ₁	N-47'-W	[楕円形]	0.84×[0.69]	36	外傾	凸凹		0	BⅡa1	中期	縄文土器	SK-288b不明
288B	C18b ₂	N-51'-W	楕円形	1.00×0.75	65	垂直	平垣	自然	0	BⅡb2	中期後半	縄文土器	SK-288a不明
300	C18g ₃	N-46'-W	不定形	3.22×2.80	114	外傾	圓状	自然	0	BⅡc3	堀之内1	縄文土器	SK-322不明
301	B18a ₂	N-53'-E	不定形	0.95×0.70	110	垂直	平垣	自然	0	BⅡa3			本跡→51-83, SK-321
302	C18d ₆	N-0'-	円 形	0.95×0.95	65	垂直	平垣	自然	1	AⅡa2			
303	C18d ₇	N-40'-W	楕円形	1.87×1.60	85	外傾	平垣	自然	1	BⅡb2	中期	縄文土器	本跡→51-89
320	C18f ₂	N-42'-E	[楕円形]	2.83×[1.65]	53	傾斜	圓状	自然	0	BⅡc2	中期中葉	縄文土器	本跡→SK-376
321	B18a ₃	N-65'-E	不定形	2.95×2.16	55	傾斜	平垣	自然	0	DⅡc2	加曾利E	縄文土器	SK-287・301→本跡→51-83
322	C18a ₅			2.87×1.33	107	内傾	平垣	自然	0	Ⅳc3	加曾利E-後期放棄	縄文土器, 磁石	
323	B17i ₆	N-6'-E	楕円形	0.72×0.56	47	垂直	平垣		0	BⅡa1	加曾利EⅡ-堀之内	縄文土器	
326	B16b ₁	N-53'-E	長楕円形	2.98×1.60	94	内傾	平垣	自然	0	BⅡc2	加曾利EⅡ-Ⅳ	縄文土器	SK-327→本跡→51-149
327	B17g ₁	N-52'-E	[円形]	1.43×[1.38]	134	内傾	平垣	自然	A	BⅡb3			本跡→SK-326
328	B17g ₂	N-4'-W	楕円形	1.10×0.83	105	垂直	平垣	自然	0	BⅡb3			本跡→51-67
329	B17i ₇	N-87'-W	不定形	2.75×1.81	103	外傾			0	BⅡc3	中期後半-堀之内	縄文土器	SK-330不明
330	B17i ₈	N-90'-	楕円形	0.74×0.58	164	垂直	平垣		0	BⅡa4	中期-後期前葉	縄文土器	SK-329不明
331	B17i ₉	N-35'-W	[楕円形]	[1.56]×1.19	30	外傾	平垣	自然	0	BⅡb1	中期-後期前葉	縄文土器	SK-332→本跡
332	B17j ₁	N-22'-E	長楕円形	2.86×1.75	75	外傾	平垣	自然	0	BⅡc1	堀之内1	縄文土器, 土製円板	本跡→SK-331
333	B16j ₁	K-40'-W	楕円形	1.62×1.15	43	外傾	平垣	自然	0	BⅡb1	後期前葉	縄文土器	51-73不明
334	B16j ₂			2.15×[0.70]	15	外傾	平垣		0	Ⅱc1	中期	縄文土器	51-73不明
335	B16b ₂	N-0'-	楕円形	2.10×1.58	20	傾斜	平垣	自然	0	BⅡc1			51-74→本跡
336	B17j ₂	N-17'-W	不定形	1.60×1.10	65	外傾	平垣		0	BⅡb2	中期中葉	縄文土器	
337	B17j ₃	N-35'-E	円 形	0.50×0.45	120	垂直	圓状		A	AⅡa3			
338	B17j ₄	N-3'-W	楕円形	[1.28]×1.11	137	垂直	平垣		0	BⅡb3			
351	B17i ₁₀	N-30'-W	楕円形	2.05×1.73	78	垂直	平垣	自然	0	BⅡc2	中期	縄文土器	51-61→本跡
352	B17b ₁	N-28'-W	[楕円形]	1.83×[1.17]	63	外傾	平垣	自然	0	BⅡb2	中期	縄文土器	本跡→SK-353
353	B17b ₂	N-32'-W	[楕円形]	1.76×[1.30]	57	外傾	平垣	自然	0	BⅡb2	中期-堀之内	縄文土器	SK-352→本跡
354	C18f ₃		不定形	1.65×1.30	58	垂直	平垣	自然	0	BⅡc2	堀之内1	縄文土器	本跡→51-88, SK-355・356
355	C18f ₄	N-7'-W	円 形	2.63×2.43	72	外傾	平垣	人為	A	AⅡc2	中期	縄文土器	51-74a・74b, SK-354→本跡→51-88
356	C18f ₅	N-13'-E	楕円形	1.45×1.06	80	傾斜	圓状		0	BⅡb2	中期-堀之内1	縄文土器	SK-354→本跡→51-88, SK-355
357	C18f ₆	N-41'-E	楕円形	1.94×1.45	83	外傾	平垣	人為	1	BⅡb2			SK-273→本跡→51-88
358	C18a ₆			4.50×[1.34]	75	外傾	平垣	自然	0	BⅡc2	加曾利EⅡ	縄文土器	

土坑 番号	位置	長径(軸 方向)	平面形	長径×短径 (m)	深さ (m)	壁面	底面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複調査(新→旧)
359	C184a	N-17'-E	円形	1.00×0.90	39	垂直	平坦			AⅡb1	中期	縄文土器	
361	C184f	N-65'-E	円形	0.90×0.80	63	垂直	平坦			AⅡa2	中期-後期前葉	縄文土器	本跡→SI-86
365	C18ca	N-33'-E	楕円形	0.97×0.84	28	外傾	平坦			BⅡa1			
366	C18cb	N-24'-E	楕円形	0.74×0.58	20	垂直	平坦	人為		BⅡa1		縄文土器	
368	C18er	N-37'-E	楕円形	1.45×0.97	85	外傾	平坦	自然		BⅡb2			本跡→SI-88
370	C18ce	N-34'-E	楕円形	0.80×0.68	18	垂直	凸凹	人為		BⅡb1			
371	B14er	N-70'-E	円形	0.95×0.90	110	垂直	屈状	自然		AⅡa3			本跡→SI-64, SK-219不明
372	B17f	N-30'-E	楕円形	0.93×0.78	80	外傾	平坦	自然		BⅡa2			本跡→SI-64
374	C18er	N-18'-E	円形	1.10×1.03	85	垂直	屈状	自然		AⅡb2	加賀利EⅡ	縄文土器	
375	C18er	N-68'-E	楕円形	1.25×1.00	42	垂直	平坦	自然		BⅡb1			
376	C18fr	N-26'-E	(楕円形)	2.05×(1.95)	65	垂直	屈状			BⅡc2			SK-320・377→本跡
377	C18fr	N-44'-E	(楕円形)	1.57×(1.40)	82	垂直	屈状		I	BⅡb2	加賀利E	縄文土器	本跡→SK-376
378	C18gr	N-0'-E	円形	0.57×0.57	75	垂直	屈状			AⅡa2		縄文土器	
379	C18fa	N-20'-E	円形	0.85×0.81	55	垂直	平坦	自然		AⅡa2		縄文土器	
380	C18es	N-13'-E	楕円形	1.44×1.24	87	内傾	平坦	自然		BⅡb2	中期	縄文土器	袋状, 底径2.11×2.01
381	C18fa	N-21'-E	(不明)	(1.15×0.92)	87	垂直	平坦			BⅡb2			本跡→SI-83
382	B17j	N-50'-E	楕円形	1.49×1.24	81	垂直	平坦	自然		BⅡb2	阿玉台IV	縄文土器	
383	B17j			1.75×(1.00)	103	傾斜	平坦	人為		I b3	加賀利EⅡ-IV	縄文土器	本跡→SK-384
384	B17j			1.62×(0.83)	36	外傾	平坦	自然		BⅡb1	加賀利EⅡ	縄文土器	SK-383・385→本跡
385	B17j			1.37×(0.80)	47	外傾	平坦	自然	I	BⅡb1			本跡→SK-384
386	B17j	N-75'-E	楕円形	1.04×0.84	103	垂直	平坦	人為		BⅡb3	中期	縄文土器	
387	B17j	N-70'-E	円形	1.22×1.10	82	外傾	平坦	自然		AⅡb2	中期	縄文土器	
388	B17j			1.81×(1.45)	89	垂直	平坦	人為		BⅡb2			
390	B16he	N-55'-E	楕円形	1.10×0.95	60	垂直	平坦	人為		BⅡb2	中期	縄文土器	SI-74a・74b→本跡
391	B16ia	N-0'-E	円形	1.00×1.00	24	垂直	平坦			AⅡb1	加賀利EⅡ	縄文土器	
392	B17g	N-30'-E	円形	1.66×1.45	97	垂直	平坦			AⅡb2	中期	縄文土器	
393	B17ia	N-23'-E	円形	0.55×0.50	106	垂直	平坦			AⅡa3	中期-堀之内I	縄文土器	
394	B17ia	N-0'-E	円形	0.80×0.80	90	垂直	平坦			AⅡa2			
396	B15b	N-60'-E	楕円形	2.00×1.40	23	傾斜	凸凹	自然		BⅡc1			
397	B15ae	N-29'-E	楕円形	2.45×1.92	37	外傾	平坦	自然		BⅡc1	中期中葉	縄文土器	
399	B16ae	N-17'-E	円形	1.00×1.57	59	外傾	平坦	自然		AⅡb2	加賀利E	縄文土器	
400	B15ce	N-20'-E	楕円形	1.35×1.25	30	外傾	平坦	自然		BⅡb1			SK-402不明
402	B15ce	N-72'-E	楕円形	1.64×1.42	67	内傾	平坦	自然		BⅡb2	中期中葉	縄文土器	SK-400環状, 袋状, 底径2.32×2.14
403	B15j	N-50'-E	楕円形	2.27×1.98	48	外傾	平坦	自然		BⅡc1	中期-後期前葉	縄文土器, 土製円板	
405	B15j	N-50'-E	楕円形	1.43×1.20	50	外傾	平坦	自然		BⅡb2	後期前葉	縄文土器	
408	A15j			1.45×(1.00)	106	内傾	屈状	自然		BⅡb3	中叶	縄文土器	袋状, 底径1.81×(1.06)
410	B15gr	N-77'-E	楕円形	2.18×1.61	70	内傾	平坦	自然	2	BⅡc2	中叶-加賀利EⅡ	縄文土器	袋状, 底径3.03×2.50
411	B15oh	N-25'-E	楕円形	2.06×1.32	52	外傾	平坦	自然		BⅡc2			
412	B16ah	N-56'-E	楕円形	1.56×1.46	38	外傾	平坦	自然	I	BⅡB1	中期中葉	縄文土器	
413	B16ai	N-42'-E	楕円形	1.58×1.36	18	外傾	平坦	自然		BⅡB1	中期中葉	縄文土器	
414	B16ai	N-21'-E	楕円形	1.44×1.14	98	内傾	平坦	自然		BⅡb2	中叶-加賀利EⅡ	縄文土器	袋状, 底径2.16×1.92
415	B16ai	N-44'-E	楕円形	2.02×1.56	98	外傾	屈状	自然		BⅡc3	阿玉台IV	縄文土器	
416	B16ci	N-49'-E	楕円形	1.22×1.18	63	外傾	平坦	自然		BⅡb2	加賀利EⅡ	縄文土器	
417	B16ci	N-37'-E	長楕円形	2.20×1.08	67	内傾	平坦	自然		BⅡc2	中叶	縄文土器, 磨石	袋状, 底径2.47×1.62
418	B16ci	N-30'-E	楕円形	2.50×1.48	84	内傾	平坦	自然		BⅡc2	中叶	縄文土器	袋状, 底径2.52×1.78
420	B16di	N-48'-E	楕円形	1.92×1.72	74	垂直	平坦	自然		BⅡb2	阿玉台IV-加賀利EⅡ	縄文土器	
421	B16da	N-54'-E	楕円形	2.09×1.90	100	内傾	平坦	人為		BⅡc3	中期中葉	縄文土器, 磨石, 石斧	袋状, 底径2.45×2.32
422	B16ci	N-12'-E	楕円形	2.08×1.88	78	内傾	平坦	自然	I	BⅡb2	中叶	縄文土器, 磨石, 凹石	袋状, 底径2.58×2.35
423	B16ai	N-14'-E	楕円形	1.94×1.63	74	垂直	平坦	自然		BⅡb2	中叶	縄文土器	
424	B16ai	N-10'-E	長楕円形	2.50×1.62	40	外傾	平坦	自然		BⅡc1	中期中葉	縄文土器	
425	B16fi	N-76'-E	楕円形	2.02×1.48	102	内傾	平坦	人為	2	BⅡc3	中叶	縄文土器, 磨石, 石斧	袋状, 底径2.32×2.18
426	B16fa	N-7'-E	楕円形	1.68×1.41	17	外傾	平坦	自然	I	BⅡb1		縄文土器	

土壤 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	断面	裏土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複探検(新→旧)
427	B17d	N-22'-E	楕円形	2.17×1.62	68	外傾	平坦	自然	B17c2	中期中葉	縄文土器	
428	B13b	N-21'-E	楕円形	2.60×2.57	67	内傾	平坦	自然	2 B17c2	阿玉台IV	縄文土器	袋状, 底径2.62×2.38
429	B18g	N-28'-E	楕円形	2.01×1.52	94	内傾	温状	自然	1 B17c2	中叶	縄文土器、磨石	袋状, 底径2.40×2.03
430	B16c	N-0°	円形	0.88×0.87	72	垂直	平坦	人為	A16a2		縄文土器	
431	B13b	N-80'-E	楕円形	1.40×1.20	38	緩斜	温状	自然	B17b1	加曾利E	縄文土器	
432	B15e	N-14'-E	円形	1.00×0.96	72	垂直	人為		A16b2	中期	縄文土器	
433	B16j	N-34'-E	楕円形	1.45×1.35	43	外傾	平坦	自然	B16b1			
434	B16g	N-17'-E	楕円形	0.74×0.68	84	内傾	平坦	自然	B17a2	[中期]		袋状, 底径1.47×1.28
435	B15a	N-70'-E	円形	1.46×1.38	56	内傾	平坦	自然	A17b2	阿玉台IV	縄文土器	袋状, 底径2.48×2.40
436	B16c	N-30'-E	楕円形	1.05×0.78	145	垂直	平坦	自然	B16b4	中期	縄文土器	本跡→S1-72
437	B16c	N-25'-E	楕円形	2.45×1.77	112	内傾	平坦	自然	B17c3	中叶	縄文土器	本跡→S1-72, 袋状, 底径3.37×2.13
438	B16h	N-52'-E	楕円形	1.20×1.12	76	内傾	温状	自然	1 B17b2			袋状, 底径1.74×1.40
439	B16f	N-40'-E	楕円形	2.16×2.03	30	外傾	平坦	自然	2 B17c1	中期	縄文土器	
440	B16e	N-8°-E	隅丸方形	1.87×1.78	82	内傾	平坦	人為	C17b2	中叶-加曾利E I	縄文土器	袋状, 底径2.30×2.01
441	B16g	N-4°-E	楕円形	1.08×1.01	45	外傾	平坦	自然	B16b1		縄文土器	本跡→S1-136
442	B16h	N-3°-E	不定形	2.48×1.78	88	内傾	平坦		D17c2	加曾利E I 前後	縄文土器、土製円板	袋状, 底径2.03×1.92
443	B16g	N-47'-E	楕円形	2.40×2.03	92	内傾	平坦	人為	1 B17c2	中叶-加曾利E I	縄文土器	袋状, 底径2.52×2.48
444	B16f	N-25'-E	楕円形	1.08×0.90	130	内傾	平坦	自然	1 B17b3	中叶	縄文土器	袋状, 底径2.50×2.20
445	B16g	N-28'-E	楕円形	2.14×1.41	29	外傾	平坦	自然	2 B17c1	中期中葉	縄文土器	S1-136→本跡
446	B16g	N-28'-E	不定形	2.63×2.48	114	内傾	平坦	人為	1 A17c3	中叶-加曾利E I	縄文土器、土製片鏡	3E-447→本跡, 袋状, 底径3.50×2.76
447	B16g	N-19'-E	隅丸方形	1.27×1.12	102	垂直	温状	自然	C16b3	加曾利E	縄文土器	本跡→3K-446
448	B16g	N-4°-E	楕円形	1.16×1.10	42	外傾	平坦		B16b1	加曾利E	縄文土器	
449	B16i	N-41'-E	楕円形	1.30×1.23	102	内傾	平坦	自然	B17b3	中期中葉	縄文土器	S1-136→本跡, 袋状, 底径1.83×1.74
450	B16b	N-84'-E	楕円形	2.02×1.77	130	内傾	平坦	自然	2 B17c3	中期中葉	縄文土器	袋状, 底径2.28×2.15
451	B16d	N-32'-E	不定形	1.86×1.57	93	内傾	平坦	人為	1 D17b2	中期中葉	縄文土器	袋状, 底径1.64×1.30
452	B16i	N-51'-E	小楕円形	1.25×1.20	104	内傾	平坦	自然	A17b3	中期中葉	縄文土器	本跡→S1-453, 袋状, 底径3.60×2.52
453	B16i	N-56'-E	楕円形	2.50×1.82	98	内傾	平坦	自然	3 B17c2	中期中葉	縄文土器	3E-454→本跡, 袋状, 底径3.30×2.52
454	B16b	N-32'-E	楕円形	2.46×1.95	152	内傾	平坦	自然	B17c4	阿玉台IV	縄文土器	3E-455→本跡, 袋状, 底径3.6×2.30
455	B16b	N-30'-E	(楕円形)	1.92×1.42	102	内傾	温状	自然	1 B17b3	[中期]		本跡→S1-454, 袋状, 底径3.02×2.30
456	B16g	N-19'-E	楕円形	1.85×1.38	84	内傾	平坦	人為	b17b2	中期	縄文土器	S1-132不明, 袋状, 底径2.46×2.07
457	B16f	N-30'-E	円形	0.87×0.82	18	外傾	平坦	自然	B16a1			
458	B16f	N-4°-E	円形	1.39×1.33	34	外傾	温状	自然	A16b1	中期	縄文土器	
459	B16f	N-41'-E	楕円形	1.42×1.30	34	外傾	平坦	自然	1 B16b1	加曾利E	縄文土器	
460	B15j	N-3°-E	楕円形	1.22×1.08	22	外傾	平坦	自然	B16b1		縄文土器	
461	B16i	N-24'-E	円形	1.42×1.36	35	外傾	平坦	自然	B16b1	加曾利E III-IV	縄文土器	
462	B16d	N-64'-E	楕円形	1.96×1.85	40	外傾	温状	自然	B16b1	加曾利E	縄文土器	3E-463→本跡, 3E-473不明
463	B15a	N-37'-E	楕円形	1.52×1.37	52	垂直	平坦	自然	B16b2	加曾利E III-IV	縄文土器	本跡→3E-463, 3E-473不明
464	B16c	N-41'-E	楕円形	1.96×1.85	49	外傾	平坦	自然	B16b2		縄文土器	本跡→S1-72
465	B16f	N-12'-E	楕円形	0.78×0.67	109	内傾	平坦		1 B17a3	[中期]		袋状, 底径1.24×1.14
466	B16d	N-56'-E	楕円形	1.98×1.72	43	外傾	平坦	自然	B16b1	中期	縄文土器	
467	B16b	N-19'-E	楕円形	1.20×1.19	60	垂直	平坦	人為	1 B16b2	中期	縄文土器、散骨、貝	
468	B16d	N-31'-E	円形	1.41×1.32	50	垂直	平坦	自然	A16b2	加曾利E	縄文土器	
471	B16g	N-62'-E	楕円形	1.25×1.13	28	外傾	平坦	自然	B16b4	加曾利E	縄文土器	S1-136→本跡
472	B15j	N-85'-E	楕円形	2.36×1.77	77	外傾	平坦	自然	B16c2	阿玉台	縄文土器	
473	B16b	N-48'-E	楕円形	2.36×1.70	18	外傾	平坦	自然	1 B17c1	中期中葉	縄文土器	3E-462不明
474	B16b	N-26'-E	(楕円形)	(1.87×1.67)	75	内傾	平坦		1 B17b2			袋状, 底径2.13×1.68
475	B16f	(N-0°)	(円形)	(1.37×1.37)	114	外傾	平坦	人為	A16b3	阿玉台III-IV	縄文土器	袋状, 底径2.37×2.35
476	B15i	(N-07'-E)	(楕円形)	(1.43×1.21)	47	垂直	温状	自然	1 B16b1			
477	B15e	N-62'-E	不定形	2.15×1.82	64	緩斜	平坦	自然	1 D17c2			
478	B16b	N-52'-E	楕円形	1.33×0.94	57	外傾	凸凹	人為	3 B17b2	中期	縄文土器	
479	B15g	N-47'-E	扇形	1.28×0.88	95	外傾	凸凹	自然	B16b2	中期	縄文土器	本跡→S1-158
480	B16f	N-20'-E	楕円形	1.31×1.25	122	垂直	平坦	人為	1 B16b3	中期中葉	縄文土器	

土坑 番号	位置	方位	平面形	長×短×埋 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備 考 ※重複関係(前→后)
481	B16e1	N-14'-E	楕円形	1.40×0.68	134	内傾	凸凹	人為	3	B16b3	中期	縄文土器	本跡→SI-118
482	B16f	N-0°	円形	1.10×1.02	28	外傾	平坦	自然		A16b1			
483	B16f	N-35'-E	楕円形	1.70×0.80	32	外傾	平坦	人為		B16b1	加曾利E IV	縄文土器	本跡→SI-127, SK-488
484	B16h	N-70'-E	楕円形	1.72×1.52	26	外傾	凸凹	自然	1	B16b1			
485	B17e	N-56'-E	楕円形	0.98×0.78	71	外傾	平坦	自然		B16a2	中期	縄文土器	
486	B16h	N-81'-E	不整形円形	2.21×1.86	40	外傾	平坦	自然	1	B16c1	中期中葉	縄文土器	SK-527・543不明
487	B17e	N-0°	円形	0.99×0.98	60	緩斜	凸凹	自然		A16a2	中期	縄文土器	
488	B16f	N-38'-E	円形	1.36×1.24	110	垂直	平坦	自然		A16b3		縄文土器	SI-127, SK-483→本跡
489	B16g	N-44'-E	楕円形	1.54×1.38	84	外傾	平坦	自然	1	B16b2	中期	縄文土器	
490	B16f	N-25'-E	楕円形	1.51×1.36	42	外傾	平坦	自然	1	B16b1	中期	縄文土器	SI-151・152不明
491	B16g	N-50'-E	楕円形	1.42×1.22	93	内傾	平坦	人為		B16b2	中期	縄文土器	SI-119→本跡, SI-158不明, 伏状, 底径1.80×1.51
492	B16f	N-88'-E	円形	0.98×0.85	33	緩斜	平坦	自然		A16a1			SI-127→本跡
493	B16e1	N-53'-E	不整形円形	2.37×1.88	58	外傾	平坦	人為	2	B16c2	中期	縄文土器	本跡→SI-153
494	B16j	N-30'-E	楕円形	2.13×1.76	110	内傾	平坦	人為		B16c3	中幹-加曾利E I	縄文土器	SI-129・130→本跡, 伏状, 底径2.50×1.77
497	B16h	N-66'-E	楕円形	2.07×1.88	84	外傾	平坦	自然		B16c2	中期	縄文土器, 土製円板	
498	B17j	N-31'-E	楕円形	1.48×1.42	78	外傾	平坦	自然		B16b2	中期-後期	縄文土器	
499	C17b	N-39'-E	楕円形	1.52×1.44	57	垂直	平坦	自然		B16b2	中期	縄文土器	
500	B16j	N-45'-E	楕円形	1.83×1.65	145	垂直	平坦	人為		B16b3	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-130, 円筒状
501	B16h	N-77'-E	楕円形	1.72×1.28	39	外傾	平坦	人為	1	B16b1	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-153
505	B16h	N-30'-E	楕円形	1.30×1.22	102	垂直	平坦	自然		B16b3	加曾利E-堀之内1	縄文土器	本跡→SI-119
506	C16j	N-31'-E	楕円形	1.41×1.26	50	外傾	平坦	人為		B16b2			
507	C17b	N-14'-E	楕円形	1.15×1.10	61	外傾	凸凹	自然	1	B16b2	堀之内1	縄文土器	
508	C17b	N-0°	円形	0.79×0.78	52	垂直	平坦	自然		A16a2	中期-堀之内1	縄文土器	
509	C17b	N-73'-E	楕円形	0.69×0.60	28	外傾	平坦	自然		B16a1			
510	C18c1	N-32'-E	楕円形	2.63×2.44	28	外傾	平坦	自然		B16c1	中期-後期	縄文土器	SI-145不明
511	C18c1	N-0°	円形	0.75×0.73	29	外傾	平坦	自然		A16a1			
512	B18j	N-18'-E	楕円形	1.50×1.37	62	垂直	平坦	自然		B16b2	加曾利E III	縄文土器	
513	C17j	N-32'-E	楕円形	0.92×(0.78)	45	垂直	平坦	自然		B16a1		縄文土器	SK-514不明
514	C17j	N-0°	楕円形	1.78×1.78	45	垂直	平坦	自然		B16b1	加曾利E III	縄文土器	SK-513不明
515	C18a	N-53'-E	楕円形	1.42×1.25	59	外傾	平坦	自然		B16b2	中期末	縄文土器	
516	C18h	N-56'-E	楕円形	1.04×0.91	58	外傾	平坦	自然		B16b2	加曾利E I	縄文土器	
517	C18h	N-75'-E	楕円形	1.47×1.30	64	外傾	平坦	人為		B16b2	中幹-加曾利E I	縄文土器	
518	C18h	N-21'-E	円形	1.92×1.83	72	外傾	平坦	自然		A16b2	中幹-加曾利E II	縄文土器	
519	C17a	N-75'-E	楕円形	0.92×0.85	22	外傾	凸凹	自然		B16a1	加曾利E I	縄文土器	
521	B16i	N-54'-E	楕円形	1.63×1.33	37	緩斜	圓状	自然	1	B16b1	中幹-加曾利E I	縄文土器	
522	C18c	N-21'-E	楕円形	1.92×1.72	40	外傾	平坦	人為		B16b1	加曾利E I	縄文土器	SB-19→本跡→SI-142
523	C17c			1.48×(0.85)	52	垂直	平坦	自然		B16b2	加曾利E I	縄文土器, 磨製石斧	本跡→SI-144
525	C18d	N-57'-E	楕円形	1.19×1.10	36	外傾	平坦	自然		B16b1		縄文土器	本跡→SI-143
526	C18b	N-13'-E	楕円形	1.10×1.06	52	外傾	平坦	自然		B16b2	加曾利E III	縄文土器	SI-142不明
527	B18h		不整形円形	1.52×(1.34)	83	内傾	平坦	自然		B16b2		縄文土器	本跡→SI-118, SK-488・543不明
528	C18b	N-51'-E	楕円形	1.22×0.74	60	外傾	圓状	自然		B16b2		縄文土器	
529	C18b	N-20'-E	楕円形	1.12×0.93	51	外傾	平坦	自然		B16b2		縄文土器	
530	C18h	N-22'-E	楕円形	0.78×0.67	26	緩斜	圓状	自然		B16b1	中期末-堀之内1	縄文土器	本跡→SI-149
531	B18h	N-71'-E	楕円形	0.91×0.65	110	外傾	平坦	自然		B16b3	加曾利E II-他名寺	縄文土器	本跡→SI-148
532	B16h	N-26'-E	楕円形	1.33×1.10	90	内傾	圓状	自然	1	B16b2	中期-後期前葉	縄文土器	SI-153→本跡, 伏状, 底径1.45×1.27
533	B16g	N-82'-E	楕円形	1.41×1.24	56	外傾	圓状	人為		B16b2	中期-堀之内1	縄文土器	本跡→SI-127
534A	B18b	N-50'-E	楕円形	1.94×1.52	105	内傾	平坦	自然	1	B16b3	中幹	縄文土器	SI-130・133, 伏状, 底径1.73×1.59
534B	B18h	N-42'-E	不整形円形	1.40×1.30	86	外傾	段差	自然		A16b2		縄文土器	本跡→SI-153
535	C19h	N-23'-E	楕円形	1.86×1.53	28	外傾	平坦	自然	1	B16b1	加曾利E III	縄文土器, 土製円板	
536	C19i	N-28'-E	楕円形	2.82×2.15	14	外傾	平坦	自然	1	B16b1	加曾利E I	縄文土器	SK-537→本跡

土坑 番号	位置 方向	形状(輪)	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備 考 市産規模(新→旧)
537	C191a	N-0°	円形	0.94×0.94	45	外傾	平坦	自然	AⅡa1	彌之一期	縄文土器	本跡→SK-536
538	C181a	N-48°-E	楕円形	2.45×2.07	114	内傾	平坦	人為	BⅡc3	中幹→加曾利EⅠ	縄文土器	袋状, 底径2.25×2.20
539	C191a	N-24°-E	楕円形	1.04×0.90	42	外傾	平坦	自然	BⅡb1	中期→後期	縄文土器	
541	B16a	N-33°-E	円形	1.60×1.59	55	内傾	平坦	人為	6 ANⅡb2	中幹→加曾利EⅠ	縄文土器	SI-153・154→本跡, 袋状, 底径2.02×1.75
542	B161a	N-65°-E	楕円形	1.94×1.84	74	傾斜	皿状	自然	1 BⅡb2			
543	B161a	N-0°	(円形)	[0.77×0.71]	84	内傾	皿状		1 ANⅡc2			SK-486・527→不明, 袋状, 底径1.15×1.05
544	B162a	N-7°-W	不整形円形	2.34×2.01	89	内傾	平坦	自然	BⅡc2	中幹→加曾利EⅠ	縄文土器	袋状, 底径2.22×2.24
545	B162a	N-2°-W	楕円形	1.68×1.37	76	内傾	平坦	自然	1 BⅡb3	加曾利EⅠ	縄文土器	SK-553→本跡, SI-158不明, 袋状, 底径2.09×1.97
546	B162a	N-36°-E	楕円形	1.08×1.06	42	外傾	平坦	自然	BⅡb1	加曾利EⅠ→彌之二期	縄文土器, 形状書	SI-158不明
547	B162a	N-27°-E	楕円形	1.12×0.81	130	外傾	皿状		BⅡb3			本跡→SI-119
548	B171a	N-40°-W	楕円形	1.02×0.87	60	垂直	皿状		BⅡb2		縄文土器	本跡→SI-59
549	B161a	N-13°-W	円形	1.03×[1.00]	95	垂直	平坦		AⅡb2	加曾利EⅡ→Ⅲ	縄文土器	本跡→SI-155, SK-550
550	B161a	N-85°-E	底構円形	2.73×1.54	95	内傾	平坦	人為	BⅡc2	中期	縄文土器	SI-155, SK-549→本跡, 袋状, 底径2.73×1.58
551	B161a	N-20°-W	円形	1.37×1.25	55	外傾	平坦	自然	2 AⅡb2	中期→中葉	縄文土器	SI-130→本跡
552	C181a	N-5°-W	楕円形	1.69×1.48	78	内傾	平坦	自然	BⅡc2	加曾利EⅡ	縄文土器	SI-79→本跡
553	B162a	N-4°-E	楕円形	0.98×0.83	166	外傾	傾斜	人為	BⅡa4	中期後半	縄文土器	本跡→SI-158, SK-545, 埋設遺構
554	C182a	N-33°-E	楕円形	2.14×1.98	91	外傾	平坦	自然	BⅡc2	加曾利EⅡ→Ⅳ	縄文土器, 土器片碎	30-20→本跡
555	C191a	N-0°	円形	2.35×2.35	89	外傾	凸凹	自然	AⅡc2			
556	C191a	N-41°-E	楕円形	1.23×1.07	61	外傾	皿状	自然	BⅡb2		磁石	
557	C191a	N-27°-W	円形	1.34×1.25	52	外傾	平坦	自然	AⅡb2			
558	C191a	N-30°-E	楕円形	1.63×1.47	48	外傾	皿状	人為	1 BⅡb1		縄文土器	
559	C191a	N-32°-E	楕円形	[1.26]×0.88	32	外傾	平坦	自然	BⅡb1			SK-580→本跡
560	C191a	N-11°-E	円形	1.50×1.45	65	垂直	平坦	自然	AⅡb2	加曾利EⅡ	縄文土器	本跡→SI-114
561	C191a	N-40°-W	円形	0.90×0.80	24	外傾	皿状	人為	BⅡa1	加曾利EⅡ	縄文土器	本跡→SI-114
562	C191a	N-34°-E	楕円形	1.12×0.98	24	傾斜	皿状	自然	BⅡb1		縄文土器	
563	C191a	N-79°-E	楕円形	2.80×2.34	82	外傾	平坦	人為	2 BⅡc2	中幹	縄文土器	SI-161→本跡
564	D191a	N-69°-W (楕円形)	2.29×[1.96]	61	外傾	平坦	人為	BⅡc2	中期	縄文土器	SK-623不明	
566	C191a	N-37°-E	楕円形	2.73×1.84	62	外傾	平坦	人為	BⅡc2	中幹→加曾利EⅠ	縄文土器	
567	C191a	N-32°-E	円形	1.30×1.28	21	外傾	平坦	自然	AⅡb1		縄文土器	
568	C191a	N-19°-W	楕円形	1.10×0.98	40	傾斜	平坦	自然	BⅡb1			
569	C181a	K-23°-E	楕円形	2.18×[1.65]	82	外傾	平坦	人為	BⅡc2	加曾利EⅡ	縄文土器	本跡→SI-114, SK-570不明
570	C191a	N-54°-E	不定形	[1.50]×1.43	74	外傾	平坦	人為	1 DⅡb2	加曾利EⅣ	縄文土器	本跡→SI-114, SK-669不明
571	C191a	N-11°-W	楕円形	1.17×1.05	34	外傾	平坦	自然	BⅡb1	加曾利EⅣ	縄文土器	
572	C191a	N-35°-E	底構円形	1.70×1.14	44	外傾	平坦	人為	BⅡb1		縄文土器	
573	C191a	N-63°-E	楕円形	2.54×2.18	74	外傾	平坦	人為	BⅡc2	加曾利EⅡ	縄文土器	SK-574→本跡
575	C191a	N-23°-E	円形	0.95×0.92	21	外傾	皿状	自然	AⅡa1			
576	C181a	N-56°-E	楕円形	2.05×1.60	74	内傾	平坦	自然	BⅡc2	加曾利EⅠ	縄文土器	袋状, 底径2.39×2.15
577	C191a	N-43°-E	楕円形	1.36×1.20	74	外傾	平坦	自然	BⅡb2	中期	縄文土器	
578	C191a	N-0°	円形	1.11×1.08	46	外傾	平坦	自然	AⅡb1	加曾利EⅠ→Ⅱ	縄文土器	
579	C191a	N-18°-E	楕円形	0.87×0.73	14	外傾	平坦	自然	BⅡa1		縄文土器	
580	C191a	N-41°-W	円形	1.25×1.16	20	外傾	平坦	自然	AⅡb1	加曾利EⅡ	縄文土器	本跡→SK-559
581	C191a	N-54°-E	円形	1.09×1.06	36	外傾	平坦	自然	AⅡb1			
582	C191a	N-42°-W	円形	0.97×0.89	80	外傾	凸凹	人為	1 AⅡa2			
583	C191a	N-27°-W	円形	1.96×1.88	68	外傾	平坦	自然	BⅡb2	中期	縄文土器	
584	C191a	N-47°-W	円形	1.12×0.92	52	外傾	皿状	自然	AⅡb2	中期	縄文土器	
585	C191a	N-31°-E	楕円形	2.31×1.40	25	傾斜	皿状	自然	1 BⅡc1	縄文土器		
586	C191a	N-5°-E	楕円形	1.12×0.97	65	外傾	平坦	自然	BⅡb2	中期→後期	縄文土器	
587	C191a	N-11°-E	楕円形	1.07×0.81	104	外傾	平坦	人為	BⅡb3	中期	縄文土器	

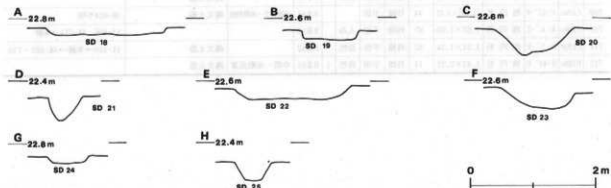
土坑 番号	位置	直径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備 考 ※記載関係(前→后)
588	C19g	N-41'-E	楕円形	0.97×0.67	49	垂直	平坦	自然	1	BⅡb1	中期→後期	縄文土器	
589	C19h	N-41'-E	楕円形	1.13×0.94	41	外傾	平坦	自然	BⅡb1	加賀利EⅡ	前期	縄文土器、磁石	
590	C19h	N-46'-E	楕円形	1.39×1.16	41	垂直	平坦	自然	1	BⅡb1	加賀利EⅣ	縄文土器	
591	C19h	N-2'-E	楕円形	1.12×1.02	43	外傾	平坦	自然	BⅡb1	後期前葉	縄文土器		
592	C19i	N-40'-E	円形	1.84×1.71	46	垂直	平坦	自然	AⅡb1	中期	縄文土器	本跡→SI-159	
593	C19h	N-58'-E	(楕円形)	1.72×1.53	48	垂直	平坦	自然	BⅡb1	中期	縄文土器、土製門板	SK-664→本跡→SI-157	
594	C19j	N-0'-E	円形	1.73×1.72	21	外傾	平坦	自然	AⅡb1			SK-617→本跡	
595	C19j	N-80'-E	楕円形	1.29×1.15	24	緩斜	凸凹	自然	1	BⅡb1			
596	C19j	N-40'-E	円形	1.48×1.41	77	外傾	平坦	自然	AⅡb2	加賀利EⅣ	縄文土器		
597	C19c	N-90'-E	楕円形	2.49×1.77	84	外傾	平坦	自然	BⅡc2	堀之内1	縄文土器、磁石		
598	C19g	N-0'-E	円形	1.41×1.37	59	外傾	平坦	自然	AⅡb2	中期	縄文土器		
599	C19h	N-29'-E	円形	0.81×0.75	53	外傾	平坦	自然	AⅡa2				
600	C19i	N-17'-E	楕円形	1.79×1.57	66	内傾	平坦	自然	BⅡb2	中期	縄文土器、柱状石製品	本跡→SI-60, 袋状、底径1.95×1.73	
601	C19i	N-48'-E	楕円形	(1.82)×1.01	14	緩斜	凸凹	自然	BⅡb1			青銅石斧 SK-600→本跡	
602	C19h	N-5'-E	楕円形	1.43×1.12	67	垂直	平坦	自然	BⅡb2	加賀利EⅣ-Ⅴ	縄文土器		
604	C19i	N-45'-E	円形	1.56×1.47	65	外傾	平坦	自然	AⅡb2	加賀利EⅣ	縄文土器		
606	C19f	N-46'-E	楕円形	2.14×1.81	72	緩斜	平坦	自然	BⅡc2	加賀利EⅣ-後葉	縄文土器		
607	C19h	N-57'-E	隅丸方形	1.20×1.09	76	外傾	平坦	自然	CⅡb2		縄文土器	SK-4→本跡→SI-150	
608	C19c	N-10'-E	楕円形	1.25×1.12	34	緩斜	凸凹	自然	BⅡc1		縄文土器		
609	C19h	N-5'-E	円形	0.85×0.83	54	垂直	凸凹	自然	1	AⅡa2		縄文土器	
610	C19j	N-14'-E	円形	1.07×1.04	42	緩斜	平坦	自然	AⅡb1		中期	縄文土器	
611	C19j	N-27'-E	円形	1.62×1.59	71	外傾	平坦	自然	AⅡb2	加賀利EⅠ	縄文土器		
612	C19i	N-65'-E	楕円形	(2.50)×1.86	79	緩斜	凸凹	自然	BⅡc2	加賀利EⅣ	縄文土器	SK-619不明	
613	D19a	N-43'-E	円形	1.29×1.18	25	外傾	平坦	自然	AⅡb1	中期	縄文土器、磁石		
614	D19a	N-3'-E	円形	2.14×2.02	81	内傾	平坦	自然	BFc2	中期	縄文土器	本跡→SI-615, 袋状、底径2.32×2.28	
615	D19a	N-40'-E	(楕円形)	1.78×0.90	22	緩斜	平坦	自然	BⅡb1			SK-615→本跡	
616	C19e	N-73'-E	楕円形	1.56×1.37	85	外傾	平坦	自然	BⅡb2	加賀利EⅢ	縄文土器		
617	C19i	N-58'-E	楕円形	1.33×1.07	87	垂直	凸凹	自然	BⅡb2	加賀利EⅠ-Ⅲ	縄文土器	本跡→SK-594	
618	C19j	N-40'-E	円形	1.98×1.93	69	垂直	平坦	自然	AⅡb2	中期	縄文土器		
619	C19j	N-57'-E	(楕円形)	1.33×1.07	114	外傾	平坦	人為	BⅡb3	加賀利EⅣ	縄文土器	SK-612不明	
620	C19i	N-60'-E	円形	0.77×0.73	63	垂直	平坦	自然	AⅡa2	中期	縄文土器	SK-706不明	
621	D19a	N-9'-E	(楕円形)	(3.42)×2.72	72	外傾	平坦	自然	1	BⅡc2	加賀利EⅠ	縄文土器、凹石	SI-162, SK-622→本跡
622	D19b	N-42'-E	(楕円形)	(3.50)×1.35	50	外傾	平坦	自然	BⅡb2	堀之内1	縄文土器	本跡→SI-162, SK-621	
623	D19a	N-15'-E	楕円形	1.98×1.49	60	外傾	平坦	自然	BⅡb2			SK-564不明	
624	C19e	N-25'-E	楕円形	3.04×2.20	73	垂直	平坦	自然	BⅡc2	加賀利EⅣ	縄文土器	本跡→SK-625, SK-706不明	
625	C19e	N-0'-E	(楕円形)	1.38×1.15	94	垂直	平坦	自然	BⅡb2		縄文土器	SK-624→本跡	
626	D19a				5	垂直	平坦	自然	Ⅱ1		縄文土器	本跡→SI-162	
627	D19b	N-65'-E	(楕円形)	1.83×1.56	18	外傾	平坦	自然	BⅡb1		縄文土器	SK-628→本跡	
628	D19b	N-15'-E	楕円形	1.46×1.26	60	垂直	平坦	自然	BⅡb2		縄文土器	本跡→SK-627	
629	D19c	N-75'-E	円形	2.38×2.19	70	内傾	平坦	自然	BFc2	中峰	縄文土器	本跡→SK-630, SK-651・652 不明, 袋状、底径2.69×2.32	
630	D19c	N-75'-E	(楕円形)	1.63×1.20	20	緩斜	平坦	自然	1	BⅡb1		SK-630→本跡	
631	D19a	N-63'-E	円形	1.83×1.77	35	外傾	皿状	自然	AⅡb1		縄文土器	SI-24→本跡	
632	D19a	N-8'-E	楕円形	1.01×0.89	75	垂直	皿状	人為	BⅡb2		縄文土器	本跡→SI-165	
633	C19i	N-90'-E	円形	1.38×1.27	75	外傾	平坦	人為	AⅡb2		縄文土器		
634	C19i	N-35'-E	不定形	1.37×1.23	66	外傾	皿状	自然	BⅡb2	中期	縄文土器	SK-635→本跡	
635	C19j	N-20'-E	不定形	2.32×1.90	34	外傾	平坦	自然	2	BⅡc2	加賀利E	縄文土器	本跡→SK-634
636	D19a	N-85'-E	楕円形	1.97×1.33	93	内傾	平坦	自然	BⅡb2	中峰	縄文土器	袋状、底径2.05×2.01	
637	C19h	N-33'-E	楕円形	1.12×0.81	32	外傾	平坦	自然	BⅡb1		縄文土器	SK-4→本跡, SI-160不明	
638	C19g	N-12'-E	楕円形	0.85×0.60	58	垂直	皿状	自然	BⅡa2		縄文土器	SK-4→本跡	
640	C19e	N-68'-E	楕円形	1.30×1.06	28	緩斜	皿状	自然	BⅡb1		縄文土器		
641	C19j	N-0'-E	円形	0.77×0.70	39	垂直	平坦	自然	AⅡa1		縄文土器	本跡→SI-163・164	

土坑 番号	位置	長径(幅) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	傾面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備 考 ※重複関係(新→旧)
642	C18j	N-58°-W	不定形	0.15×0.95	83	内傾	平坦	自然		DIV c2		磨石	SI-164→本跡
643	B16i	N-21°-W	楕円形	1.73×1.53	93	垂直	平坦	自然		BIII b2	加曾利 E I	縄文土器	本跡→SI-155
644	B16j	N-21°-W	円形	0.66×0.60	71	垂直	起伏	自然		AII a2	中期	縄文土器	
645	C19a	N-0°	円形	1.80×1.79	59	外傾	平坦	自然		AII b2	中期	縄文土器	
646	C20a	N-17°-W	楕円形	1.08×(1.05)	15	外傾	平坦	自然		BII b1	中期	縄文土器	本跡→SK-647
647	C20b	N-24°-W	楕円形	1.24×(1.10)	41	外傾	平坦	自然		BII b1	中期	縄文土器	SK-646→本跡
648	C19fa	K-5°-E	円形	1.20×1.06	52	外傾	平坦	人為		AII b2	中期	縄文土器	
649	C19ja	N-24°-W	円形	0.88×0.84	57	垂直	起伏	人為		AII a2	中期	縄文土器	本跡→SI-167
650	C19fa	N-2°-E	楕円形	1.83×1.69	82	垂直	平坦	自然		BIII b2	加曾利 E IV	縄文土器	
651	D19a	N-52°-W	(楕円形)	1.67×(1.30)	30	外傾	平坦	自然		I BII b1	中期	縄文土器	SK-652→本跡, SK-629不明
652	D19c	N-90°	(楕円形)	1.48×(1.74)	20	外傾	平坦	自然		I BII b1		縄文土器	本跡→SK-651, SK-629不明
655	D19c	N-0°	円形	1.04×1.00	70	外傾	平坦	自然		AII b2	加曾利 E	縄文土器	SK-654→本跡
659	D19ba	不定形	(0.80×0.78)	51	緩斜	面状	自然			D I a2			本跡→SK-657
660	C19j	K-16°-E	楕円形	0.51×0.38	46	垂直	起伏	自然		BIII a1			
661	C19ga	N-56°-W	楕円形	2.15×1.64	28	外傾	平坦	自然		I BII c1			
662	C19ba	N-29°-E	円形	1.10×1.01	73	外傾	平坦	自然		AII b2	堀之内	縄文土器, 貝	SI-156, SK-711→本跡
663	C19ba	N-21°-E	円形	1.41×1.41	54	外傾	平坦	自然		AII b2	加曾利 E III	縄文土器, 浮石	本跡→SI-159
664	C19ba	N-45°-E	(楕円形)	(2.30×1.50)	42	垂直	平坦	自然		BIII c1	加曾利 E II	縄文土器, 石皿	本跡→SI-157・159, SK-583
665	C19ba	N-65°-E	円形	1.24×1.22	58	外傾	平坦	人為		AII b2	加曾利 E	縄文土器	
667	D19b	N-78°-E	楕円形	1.28×0.88	20	緩斜	起伏	自然		B I b1			
668	D19c	N-86°-E	楕円形	1.75×1.40	84	内傾	平坦	人為		BIV b2	中層→加曾利 E I	縄文土器	縁状, 底径2.05×1.60
670	C19a	N-14°-E	楕円形	1.92×1.38	55	外傾	起伏	自然		AII b2	加曾利 E III	縄文土器	本跡→SK-971
671	C19a	N-23°-E	楕円形	1.16×0.94	30	外傾	平坦	自然		BII b1	加曾利 E III	縄文土器	SK-670→本跡
672	C19a	N-15°-W	楕円形	2.15×1.78	52	外傾	平坦	自然		BII c2	加曾利 E II-III	縄文土器	
673	C19a	N-0°	(楕円形)	(2.25)×1.73	13	外傾	平坦	自然		BII c1	加曾利 E III-IV	縄文土器, 土製円板	
674	C19b	N-90°	円形	2.69×2.64	44	垂直	平坦	自然		AII c1	加曾利 E IV	縄文土器	
676	D19a	N-52°-W	円形	0.94×1.82	79	垂直	平坦	自然		AII a2		縄文土器	SK-676→本跡
677	D19c	N-82°-W	円形	0.98×0.85	95	垂直	平坦	自然		I AII a2			本跡→SK-676
678	D19c	N-85°-W	(楕円形)	1.91×(1.40)	24	外傾	平坦	自然		I BII b1	加曾利 E III	縄文土器	SK-679→本跡
679	D19a	N-0°	円形	0.83×0.77	83	内傾	平坦	自然		AIV a2			本跡→SK-678
680	D19a	N-90°	楕円形	1.14×0.89	90	垂直	平坦	自然		BIII b2	加曾利 E IV	縄文土器	
681	D19a	N-53°-E	楕円形	0.96×0.80	94	垂直	平坦	自然		BIII a2			本跡→SI-162
682	C19a	N-60°-W	円形	2.04×1.88	64	垂直	平坦	自然		AII c2			SK-683→本跡
683	C19a	N-58°-W	円形	2.61×2.56	90	外傾	平坦	人為		AII c2	加曾利 E III-IV		本跡→SK-682
684	C20i	N-8°-W	楕円形	1.50×1.16	33	外傾	平坦	自然		BII b1		縄文土器	
686	D19a			(0.55×0.27)	20	緩斜	起伏			I I			SK-705→本跡→SI-165
687	D19a	N-39°-W	不定形	(0.80)×0.79	72	垂直	平坦	自然		DIII a2			本跡→SI-165, SK-705不明
690	C19a	N-5°-W	楕円形	1.18×0.82	85	外傾	平坦			I BII b2			
691	C19a	N-54°-W	楕円形	1.74×1.48	47	外傾	平坦			I BII b1	後期	縄文土器	
692	C19fa	N-66°-E	楕円形	1.61×1.14	41	緩斜	平坦			I BII b1			
693	C19a	N-42°-E	楕円形	1.88×1.60	61	外傾	平坦	自然		BII b2	加曾利 E III-IV	縄文土器	SD-23→本跡
694	C20i	N-21°-W	楕円形	1.08×0.97	18	外傾	平坦	自然		BII b1			
695	D19a	N-0°	円形	1.07×1.06	74	外傾	平坦	自然		AII b2	加曾利 E	縄文土器	本跡→SK-695
696	C19a	N-49°-W	円形	0.87×0.83	52	外傾	平坦	自然		AII a2		縄文土器	
697	D19c	N-25°-W	楕円形	1.40×1.14	17	緩斜	平坦	自然		I BII b1			
698	D19a	N-39°-W	楕円形	1.15×0.96	22	垂直	平坦	自然		I BII b1	中期	縄文土器	
699	D19a	(30°-E)	(楕円形)	(1.00)×1.70	18	緩斜	平坦	自然		I BII b1			SK-700・702→本跡
700	D19a	N-78°-W	楕円形	(3.00×1.80)	19	外傾	平坦	自然		2 BII c1	中期	縄文土器, 土製円板	本跡→SK-699
701	D19a	N-7°-E	長楕円形	2.48×1.11	18	外傾	平坦	自然		BII c1	堀之内	縄文土器	
702	D19a	N-72°-E	楕円形	2.21×(1.80)	23	外傾	平坦	自然		2 BII b1		縄文土器	本跡→SK-690・703
703	D19a	(30°-E)	(楕円形)	1.88×(1.60)	21	緩斜	平坦	自然		B I b1			SK-702→本跡
704	D19a	N-59°-E	楕円形	1.08×0.92	38	緩斜	起伏	自然		B I b1			SK-656→本跡

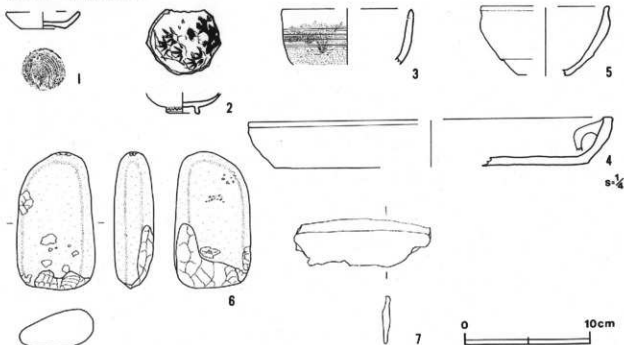
土坑 番号	位置	表径(軸 方向)	平面形	表径×径径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備 考 ※重層関係(新→旧)
705	D19ta		不定形	0.87×0.84	66	垂直	平坦	自然		DⅢa2			本跡→SI-165, SK-686
706	C19ia	N-72°-W	不定形	2.70×2.03	15	横斜	平坦		1	D I c1			SK-620不明
707	C19ja	N-43°-E	槽円形	1.34×0.30	55	横斜	凹状	人為		B I b2			本跡→SI-166・167
708	C19fa	N-24°-E	槽円形	1.00×0.75	40	横斜	凹状	自然		B I b1		縄文土器	
709	C19es	N-45°-W	槽円形	1.88×1.81	44	外傾	平坦			B II b1	中期後半～後期初葉	縄文土器	SK-624不明
710	C19db	N-6°-E	槽円形	1.65×1.03	67	外傾	平坦	人為		B II b2			SI-156, SK-711→本跡
711	C19ge	N-5°-E	槽円形	1.51×1.34	82	外傾	平坦	自然		B II b2		縄文土器	SI-156→本跡→SK-662・710
712	D19ba	N-44°-E	槽円形	1.43×0.91	14	外傾	平坦	自然	1	B II b1	中期～後期前葉	縄文土器	

(4) 溝

C区では8条の溝を検出した。いずれも掘り込みは浅く、遺物も遺構に伴わない流れ込みが極少量出土しているだけで、時期や性格は不明である。これらの溝については一覧表に一括して掲載し、ここでは各溝の断面図と遺物の実測図及び観察表を載せ、配置や全体の形状については付図を参照されたい。



第491図 溝断面実測図



第492図 溝出土遺物実測・拓影図

溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	手法の特徴	胎土・色調・焼成	検考	
第492図 1	小皿 土師質土器	A [5.8]	底部から口縁部にかけての破片。	内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい褐色 普通	P218	
		B 1.3	上げ底で、体部は外壁して立ち上がる。			SD-19	覆土
		C 3.6					
2	皿 磁器	B [1.6]	底破片。染付の皿。高台はやや内傾し、体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	ロタロ成形。割り出し高台。	胎土：灰白色 釉：透明 良好	P219	
		D 2.6				SD-20	覆土
		E 0.5				(瀬戸・美濃系)	19c
3	碗 陶器	A [10.4]	体部から口縁部にかけての破片。	ロタロ成形。体部内面及び外面上位灰釉。体部外面中位以下鉄釉施す。	粘土：淡黄色 釉：(鉄釉)黒色 (灰釉)灰白色 良好	P220	
		B [4.5]	腰圓形。体部は内彎した後直立して口縁部に至る。				SD-20

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第492図 4	ほうろく 土師質土器	A(38.0)	底部から口縁部にかけての破片。	内・外面横ナデ。体部内面上位から下位に内耳跡り付け。	砂粒・雲母 に多い褐色 普通	P221 20% SD-21 覆土 近世後半
		B(4.9)	平底で、体部は僅かに内彎して立ち上がる。			
		C(32.8)				
5	天目銅 陶器	A(10.2)	底部から口縁部にかけての破片。	ロクロ成形。体部内面及び外面中位まで鉄輪捺痕。	胎土：淡黄色 釉：紺紫褐色 良好	P222 20% SD-23 覆土 (瀬戸・美濃系) 19c
		B(5.5)	体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。			
		C(4.2)				

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第492図 6	打製石斧	10.9	6.1	3.1	331.8	砂岩	062 SD-19 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第492図 7	鏃	10.8	3.9	0.7	(57.8)	20	SD-19 覆土	№ 欠損品

表6 前田村遺跡C区溝一覧表

溝 番号	位置 方向	形状	規模				断面 (cm)	底面 覆土	出土遺物	備考 重要度関係(前→旧)	
			長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	断面 (cm)					
18	C17ba→B17g	南々西→北々東	クランク状	25.4	0.7~1.3	0.5~1.1	11	外傾 平坦	自然	縄文土器、陶器	本跡→51-59, SK-506
19	C18ea→C18aa	南々西→北々東	直線状	19.4	1.0~1.3	0.3~0.5	15	外傾 緩面	自然	縄文土器, 土師質土器, 打製石斧	本跡→51-79-142-143, SK-522-525-552
20	C18ba→C19c	南々西→北々東	直線状	25.2	0.8~1.4	0.2~0.5	39	外傾 屈状	自然	縄文土器, 陶磁器	本跡→51-114, SK-554-560-561-569-570-576
21	C19dr→C19ba	南々西→北々東	直線状	11.2	0.5~0.7	0.1~0.2	37	外傾 平坦	自然	縄文土器, 土師質土器	本跡→SK-672, SD-22・23不明
22	C19ea→C19dr	南西→北東	直線状	6.8	0.3~1.7	0.9~1.3	18	横斜 平坦	自然	縄文土器	本跡→SK-624, SD-23と接続, SD-21不明
23	C19ge→C19dr	南東→北西	直線状	20.2	0.6~1.6	0.2~0.9	24	横斜 平坦	自然	縄文土器, 陶器	SD-25→本跡→SK-693, SD-22と接続, SD-21不明
24	C19is→C19is	南々西→北々東	直線状	6.2	0.4~0.7	0.3~0.5	11	外傾 平坦	自然	縄文土器	SD-25→本跡→SK-631
25	C19is→C20f	南々西→北々東	陶の手状	17.1	0.4~1.0	0.3~0.6	28	外傾 平坦	自然	縄文土器	本跡→SD-23・24, SK-694

(5) 遺構外出土遺物

C区からは、直接遺構に伴わない土器、土製品、石器、石製品、鉄器及び古銭が出土している。ここでは、それらについて実測図（第493～498図）及び観察表、一覧表で一括して報告する。

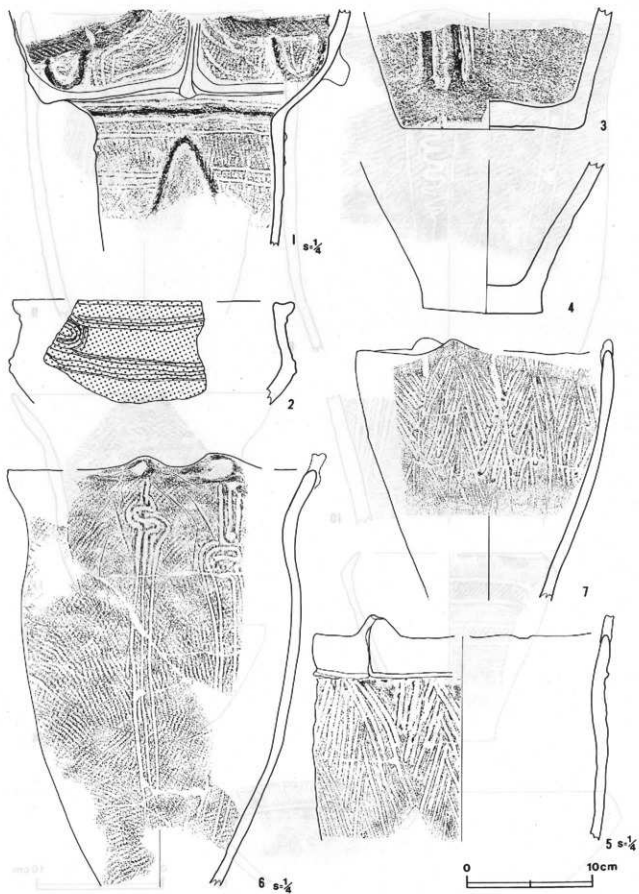
第499～501図1～29は縄文土器片の拓影図である。

1は前期の土器である。半截竹管による横位の沈線を挟んで、磨消部分と燃余施文部分に分離され、胎土には繊維が含まれている。

2～14は中期の土器群である。2、4は勝坂式の影響が見られる土器で、2は器形が円筒状、4は半截竹管による平行沈線や爪形文が施されている。3は阿玉台Ⅲ式の範疇と思われる土器で、爪形文や鋸歯状沈線が施されている。5は交互刺突文が見られる中幹式、6は口縁部文様体に縦位の沈線が充填される加曾利EⅠ式期に比定される土器である。7～10は加曾利EⅢ式期に比定される土器片で、7、8は口縁部に沈線に沿った隆起線による区画文が施され、内部には単筋縄文が施文されている。9は胴部片で、磨り消しを沿わせた曲線的なモチーフに胴部地文の縄文が分断されている。10は地文の縄文が、曲線的な沈線区画の磨消帯に切られている。11～14は加曾利EⅣ式期に比定される土器片で、縄文を切る微隆起線区画の磨消帯が見られる。

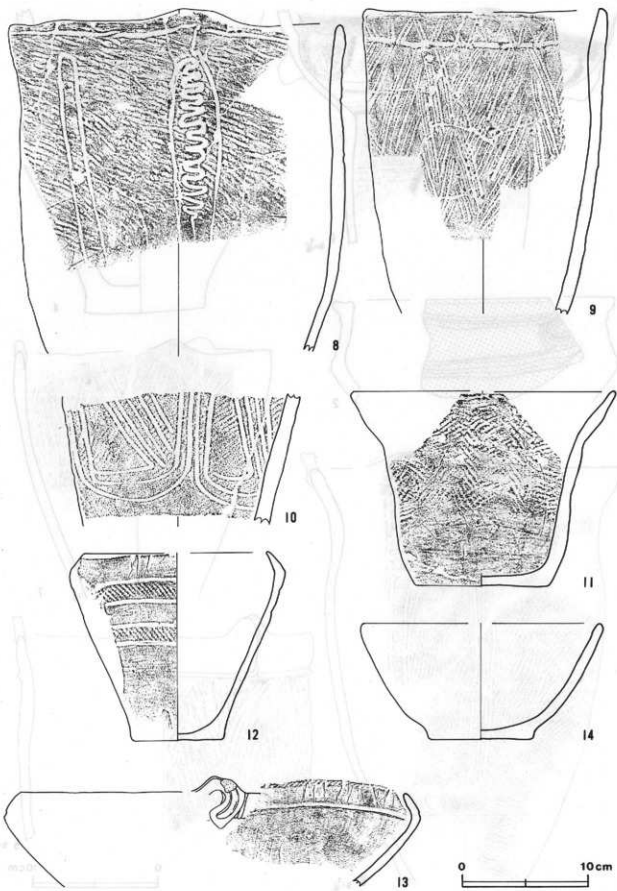
15～28は後期の土器群である。15～24は堀之内式期前後と思われる土器である。15、16、18、21、22は波状口縁で、15は波頂部に突起が見られる。16、18、19、21は地文の縄文を切る沈線が描かれている。17、22は口縁部は無文で、胴部に縄文が施文されている。20は幾何学的文様が沈線を描かれ、縄文施文部と磨消帯が交互に見られる。23は器面に浅い条線が描かれ、24は斜格子状の複列の沈線が施文されている。24は称名寺2式～堀之内1式にかけて、20は堀之内2式、他は堀之内1式の範疇と思われる。25は内傾する口縁部片で、口縁部直下に「い」字状文が見られ、器面は研磨されている。加曾利BⅠ式期に比定されると思われる。26は胴部にくびれを有する口縁部片で、口縁部以下胴部には縄文が施文され、口縁部下に刺突文、くびれ部に沈線区画の磨消帯が巡らされ、磨消帯下部にも刺突文が施されている。曾谷～安行Ⅰ式前後の土器と思われる。27、28は安行Ⅱ式に比定される土器で、27は口唇部外面に連続刻文を加えた粘土紐を貼り付けた粗製土器、28はフタ鼻状の貼瘤と隆起帯刻文が見られる精製土器である。

29は晩期安行Ⅲb式期前後の土器片である。波状口縁で、波頂部に刻みを加えた突起、波頂部直下にも突出する突起と刻みを加えた貼瘤が見られる。突起及び貼瘤からは隆起帯縄文が斜位に派生し、貼瘤下は「()」状の沈線が縄文を切断している。



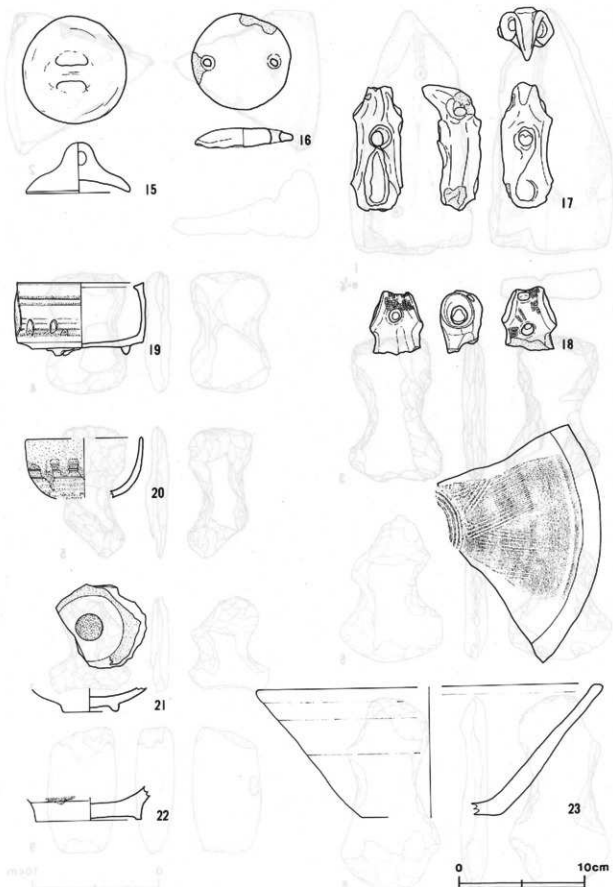
第493区 遺構外出土遺物実測・拓影図(1)

1980年3月 - 東京府立土俗博物館 3047頁



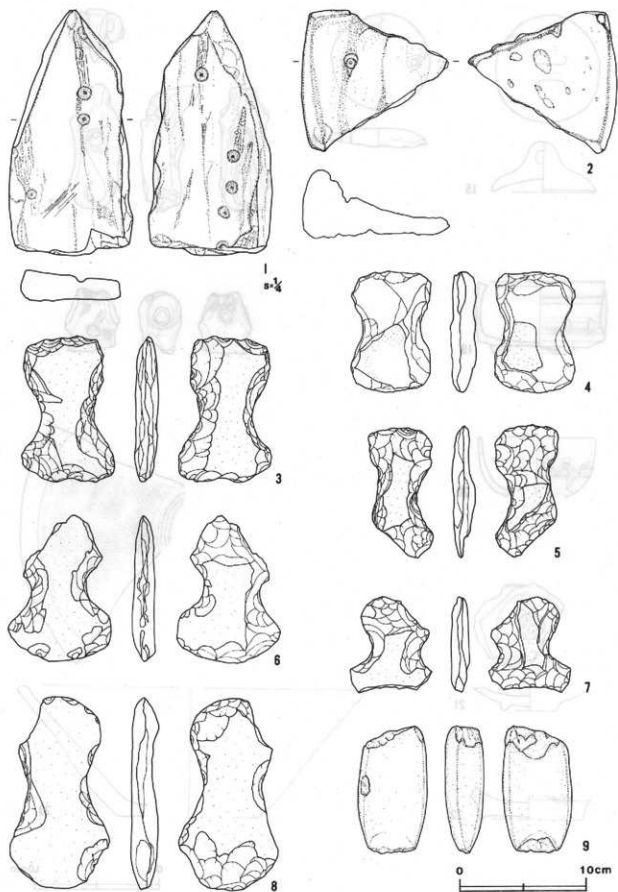
第494図 遺構外出土遺物実測・拓影図(2)

1: 遺構外出土遺物実測・拓影図(2)



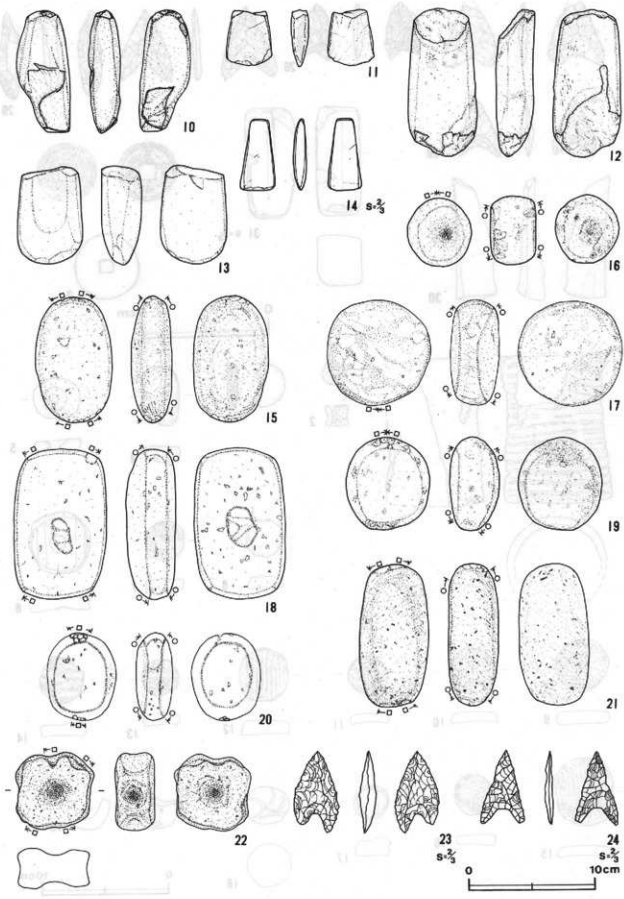
第495図 遺構外出土遺物実測・拓影図(3)

1998年度品確古土比谷遺跡 336-347

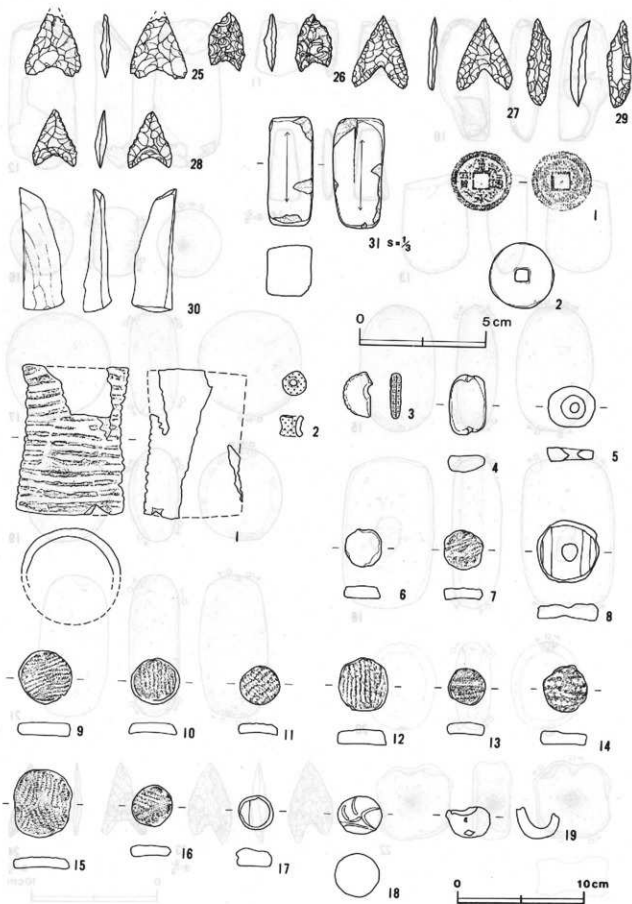


第496图 濠沟外出土石制品实例图(4)

1. 濠沟外出土石制品实例图(4)



第497图 遺構外出土石製品実測図(5)



第498図 遺構外出土遺物実測・拓影図(6)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備 考	
第493回 1	深鉢形土器 縄文土器	B (24.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立して立ち上がり、頸部で外傾した後内傾し口縁部に至る。4単位の波状口縁だが、頂部が欠損しているため形状は不明である。胴部の無文帯を挟んで口縁部土器帯と胴部土器帯と分離され、口縁部土器帯には縦帯に沿った沈線あるいは爪形文が2列構成で施されている。胴部土器帯は胴部下位の隆帯に沿って横位の沈線及び山形の隆帯が施されている。地文の単筋縄文Rが口唇部隆帯、口縁部土器帯及び胴部土器帯に施文されている。	砂粒・スコリア・ 灰石 褐色 普通	P241 表採 (阿玉台Ⅲ-Ⅳ)	60%
2	浅鉢形土器 縄文土器	A (22.2) B (8.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内傾しながら外傾して立ち上がり、頸部で内傾した後急激的に口縁部に至る。口唇部は厚厚し、中央が僅かに凹む。口唇部下と頸部に沈線を含む縦帯が横走され、間に沈線に沿った連続した曲線的な文様が施されている。下段の隆帯及び上下の区画内の曲線を横く隆帯は2本1組で、外面は赤彩されている。	砂粒・雲母・長石 淡黄褐色 普通	P231 表採 (中幹一加群利E1)	5%
3	深鉢形土器 縄文土器	B (10.0) C 14.4	底破片。僅かに上げ蓋で、胴部は外傾して立ち上がる。地文は見られず、平行する隆帯が縦位に施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P229 表採 (中期中重)	10%
4	深鉢形土器 縄文土器	B (12.3) C 9.5	底部から胴下部にかけての破片。突出気味の底部で、底部の縁周辺が内へ込みでやや内側に作出されている。胴部は外傾して立ち上がる。胴下部外面無文で、縦位の割りで調整されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P230 表採 (中群後半)	10%
5	深鉢形土器 縄文土器	A (31.3) B (23.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上端に舌状の突起を3単位有し、頂部に楕円形の押捺が加えられている。口唇部は無文帯で、口唇部下の横走沈線と突起頂部から縦位に垂下する沈線が連続している。胴部には沈線で幾何学的な文様が施されている。	砂粒・スコリア 灰石 褐色 普通	P224 表採 (堀之内1)	30%
6	深鉢形土器 縄文土器	A (32.0) B (45.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内傾して立ち上がり、頸部でくびれた後外傾して口縁部に至る。口唇部に剛帯を2本耳状の突起を有し、突起外面には縦に横く流れる楕円形の押捺が施されている。胴部には単筋縄文Rが地文で施され、突起から胴部に垂下する横位の沈線が施されている。沈線は頸部で部分的に入り組み状に施行している。	砂粒・長石 灰石 褐色 普通	P225 表採 (堀之内1)	25%
7	深鉢形土器 縄文土器	A (20.0) B (20.8)	胴下部以下欠損。胴部は僅かに内傾しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上端に舌状突起を3単位有し、口唇部は狭い帯り消しの無文帯、胴部には沈線と幾何学的な文様が施されている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 灰石 褐色 普通	P226 表採 (堀之内1)	60%
第494回 8	深鉢形土器 縄文土器	A 26.8 B (26.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内傾しながら立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口唇部直下に横走沈線が施され、口唇部上端に3単位の舌状突起が付されていると思われる。突起に上下下の円形剛帯を横く短い沈線が施され、下段の剛帯文以下には胴部に垂下する横の狭い「U」状の沈線が施され、内部に細かい蛇行沈線が縦位に施文されている。突起にも「U」状の沈線が施されているが、幅は更に狭く、内部の蛇行沈線も見られない。地文に無筋Rが縦く施文されている。	砂粒・長石・雲母 灰石 褐色 普通	P223 表採 (堀之内1)	35%
9	深鉢形土器 縄文土器	A (19.2) B (24.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内傾しながら外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口唇部下に横位の沈線が施され、剛帯状に施された平帯竹管による平行沈線の下部が口縁部下の沈線と連続し、口縁部に三角形の文様が連続されている。胴部地文の浅い縦位の条線が、鋸歯状施文具による斜位の沈線に切られている。胴下部は無文である。	砂粒・長石 明褐色 普通	P227 表採 (堀之内1)	40%
10	深鉢形土器 縄文土器	B (10.2)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。単筋縄文Rが地文で、2本1組の沈線が縦位の区画状の文様が施され、内部にも縦位の沈線が斜位に施されている。	砂粒・長石 灰石 褐色 普通	P228 表採 (堀之内1)	10%
11	鉢形土器 縄文土器	A (21.0) B 15.6 C 10.6	底部から口縁部にかけての破片。底部はやや凹みがあり、胴部はやや外傾して立ち上がった後、外傾して口縁部に至る。胴部下位まで無筋Lの縄文が縦位羽状に施文されている。内面及び外面底部から6cmほどは縦位の条線が施されている。	砂粒・長石 灰石 褐色 普通	P242 表採 (堀之内1)	40%
12	鉢形土器 縄文土器	A (14.6) B 14.9 C (7.1)	底部から口縁部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がった後短く内傾して口縁部に至る。胴部上位に単筋縄文Rを縦位羽状に施文した沈線区画の縄文帯が2段施されている。内面及び外面無文帯は施文が施されている。	砂粒 灰石 褐色 普通	P233 表採 (加群利B2)	30%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第494図	円鉢形土器 縄文土器	A(30.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がった後内傾して口縁部に至る。口縁部外面に突起を有し、逆「C」字状の文様が描かれている。口唇部上端には斜めの筋みを連続的に施し、口縁部と胴部との境には浅い文様が横走されている。口縁上の口縁部及び内面は丁寧に磨きされ、沈線以下胴部は横方向の削りで整形されている。	砂粒・黒色 普通	P232 表採 (加曾科B2-3)
		B(8.7)			
14	鉢形土器 縄文土器	A(18.0)	底部から口縁部にかけての破片。突出尖珠の平底で、胴部は僅かに内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。内・外面両方の削りで整形されている。	砂粒・長石 に多い褐色 普通	P234 表採 (後期前半)
		B 9.2			
		C(8.4)			
第495図	壺 縄文土器	高さ 4.0	円形の蓋で、内面中央部分が凹んでいる。外面頂部に幅3.0cm、高さ2.0cmの環状のつまみを有する。	砂粒・雲母 に多い褐色 普通	P235 表採 (期之内)
		径 8.3			
16	壺 縄文土器	高さ 1.6	中央部に厚みをもち、径0.6cmほどの通孔を1対有する。	砂粒 褐色 普通	P236 表採 (期之内)
		径 7.9			
17	把手 縄文土器	長さ10.0	島の頂部を突起させる把手で、先端部が鋭く突出する。先端部裏面に1対、やや下の表・裏面に1対の孔を有し、それらが連続して内部が中空となっている。表面には孔から派生する幾何形線が「S」字状を描き、裏面の孔の下は長楕円形に削り込まれている。	砂粒 に多い黄褐色 普通	P237 表採 (加曾科E1前段)
		幅 4.1			
		厚さ 4.8			
18	把手 縄文土器	長さ15.1	口縁部把手片。前面にやや大形で1対、内・外面及び頂部にそれぞれ1個ずつ小形の孔を有し、内部が中空に作出されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P246 表採 (中期後半)
		幅 4.2			
厚さ 3.4					

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第495図	香炉 陶器	A 10.0	一部欠損。手筒形。体部は僅かに内傾気味に立ち上がる。	ロクロ成形。体部下位に削り花模様。3足貼り付け。体部外面鉄輪施輪。内面無輪。	胎土：灰青リブ色 釉：オリーブ色 良好	P238 表採 (瀬戸・美濃系) 18c
		B 5.9				
		D 7.8				
		E 0.8				
20	碗 陶器	A(9.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。内面及び体部外面上半円施輪。下部鉄輪施輪。	胎土：淡黄色 釉：(灰輪)灰白色 (鉄輪)暗褐色 良好	P239 表採 (瀬戸・美濃系) 18c
		B(4.7)				
21	皿 陶器	B(1.9)	底部片。高台は直立し、体部は開いて立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。見込輪ハゲ。内面鉄輪。外面鉄輪施輪。	胎土：淡黄色 釉：(緑輪)グリーン (灰輪)淡褐色 良好	P243 表採 (唐津系) 18c
		D 4.3				
		E 0.6				
22	皿 陶器	B(2.6)	底部片。高台は直立する。	ロクロ成形。削り出し高台。見込目跡3。灰輪施輪。	胎土：淡黄色 釉：淡黄色 良好	P245 表採 (瀬戸・美濃系) 18c
		D 8.3				
		E 0.2				
23	播鉢 陶器	A(27.6)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	ロクロ成形。内面に14番1單位の櫛目、見込櫛目帯状。内・外面鉄輪施輪。	胎土：投資褐色 釉：暗褐色 普通	P240 表採 (瀬戸・美濃系)
		B 10.4				
C(11.2)						

遺構外出土土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大径	最大幅	最大厚				
第498図	丸輪状土製品	11.9	8.4	7.7	(135)	50	表面に沈線光環。口径は長さ(7.6)cm、短径6.5cmの楕円形	DP45 表採
		2	1.9	2.1	1.7	4.4		
3	狭状耳飾り	3.6	(2.3)	0.9	(7.8)	45	中央部やや下に径0.9cmの孔。縦長方形区画を形成する縦線の沈線と区画内に刺突文	DP47 表採
4	土器片施	4.8	2.9	1.4	23.3	100	無文	DP49 表採
5	有孔円板	3.3	3.5	1.1	13.2	100	孔径0.7cm	DP50 表採

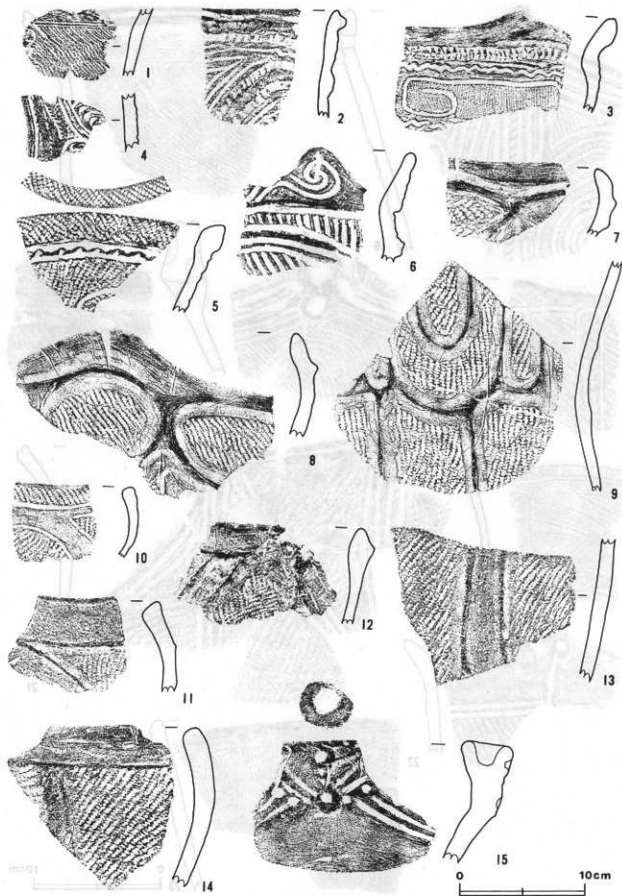
図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		最大径	最大幅	最大厚				
6	土製円板	3.0	2.9	1.0	11.1	100	表面磨き	DP51 表採
7	土製円板	3.1	3.1	0.9	11.4	100	表面に黒鉛燐文L	DP52 表採
8	土製円板	5.0	4.8	1.5	37.1	100	表面に扁平な沈線 表・裏面に尖角通孔	DP53 表採
9	土製円板	4.3	4.2	1.0	23.0	100	表面に黒鉛燐文L R	DP54 表採
10	土製円板	3.6	3.8	0.9	15.7	100	表面に黒鉛燐文 摩滅が著しい	DP55 表採
11	土製円板	3.0	3.6	0.9	8.9	100	表面に黒鉛燐文R L	DP56 表採
12	土製円板	4.2	3.9	1.2	22.8	100	表面に黒鉛燐文L	DP57 表採
13	土製円板	2.8	2.9	0.9	8.5	100	表面に浅い沈線を挟んで無文部と燐文部 摩滅が著しい	DP58 表採
14	土製円板	3.7	3.6	1.0	15.7	100	表面に燐文か 摩滅が著しい	DP59 表採
15	土製円板	5.3	4.6	1.0	31.7	100	表面に黒鉛燐文L R	DP60 表採
16	土製円板	3.2	3.1	1.0	10.1	100	表面に黒鉛燐文L R	DP61 表採
17	土製円板	2.7	2.7	1.5	9.9	100	表面に隆起線と磨き	DP62 表採
18	球状土製品	3.1	3.5	3.5	32.3	100	表面に沈線	DP63 表採
19	球状土製品	3.6	(2.5)	-	(15.6)	40	中空 欠損品	DP64 表採

遺構外出土土製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第496図	1 凹石	(25.6)	(13.0)	3.2	(1583.1)	緑泥片岩	085 表・裏面に凹み 表採	
	2 石 皿	(11.3)	(11.7)	5.4	(397.9)	安山岩	087 表採	
	3 打製石斧	11.6	7.4	2.0	203.3	緑泥片岩	072 分銅型 表採	
	4 打製石斧	9.6	6.3	2.0	135.6	砂 岩	073 分銅型 表採	
	5 打製石斧	(10.4)	(5.1)	1.9	(82.3)	黒色片岩	074 分銅型 一部欠損 表採	
	6 打製石斧	(11.6)	(8.1)	1.9	(203.0)	安山岩	075 分銅型 一部欠損 表採	
	7 打製石斧	(7.5)	(6.3)	1.5	(72.4)	安山岩	076 分銅型 欠損品 表採	
	8 打製石斧	15.2	(7.9)	2.4	(274.6)	安山岩	077 分銅型 一部欠損 表採	
	9 磨製石斧	(10.0)	5.5	3.0	(255.2)	安山岩	078 定角式 欠損品 表採	
	第497図	10 磨製石斧	(9.7)	(4.1)	2.5	(159.1)	安山岩	080 定角式 刃部欠損 表採
	11 磨製石斧	(4.5)	3.6	1.4	(35.2)	安山岩	081 定角式 基部欠損 表採	
	12 磨製石斧	(11.8)	5.5	3.0	(331.9)	緑泥片岩	082 乳棒状 欠損品 表採	
	13 磨製石斧	(7.8)	5.2	3.2	(204.1)	砂 岩	084 定角式 基部欠損 表採	
	14 磨製石斧	3.8	1.8	0.7	7.8	緑泥片岩	083 定角式 表採	
15 磨石	10.0	6.1	3.3	279.2	安山岩	079 敲石専用 表採		
16 磨石	5.5	5.1	3.6	156.9	安山岩	088 敲石専用 表・裏面に凹み 表採		
17 磨石	8.3	8.2	3.9	418.6	安山岩	089 敲石専用 表採		
18 磨石	12.0	7.3	3.9	544.8	安山岩	090 敲石専用 表・裏面に凹み 表採		
19 磨石	7.4	6.7	4.0	281.5	安山岩	091 敲石専用 表採		
20 磨石	6.9	5.5	2.8	182.9	安山岩	092 敲石専用 表採		
21 磨石	11.2	5.6	4.2	438.6	安山岩	093 敲石専用 表採		
22 磨石	6.3	6.1	3.3	189.3	安山岩	088 表・裏面、割面に凹み 表採		
23 石 鏝	3.2	1.8	0.7	2.6	チャート	063 凹基無基盤 一部欠損 表採		
24 石 鏝	2.9	1.7	0.6	1.1	チャート	064 凹基無基盤 表採		
第498図	25 石 鏝	(2.5)	2.2	0.4	(2.3)	チャート	065 凹基無基盤 一部欠損 表採	
	26 石 鏝	2.5	1.5	0.5	1.1	チャート	066 凹基無基盤 一部欠損 表採	
	27 石 鏝	2.9	2.2	0.4	1.5	頁 岩	067 凹基無基盤 表採	
	28 打 磨石	2.3	1.7	0.5	1.1	チャート	068 凹基無基盤 表採	
	29 打磨石製品	3.5	0.9	0.7	1.8	チャート	071 側面に割線状 表採	
	30 縦長削片	4.9	1.9	1.2	8.2	安山岩	070 表採	
	31 砥 石	8.7	3.5	4.0	221.2	凝 灰 岩	094 表採	

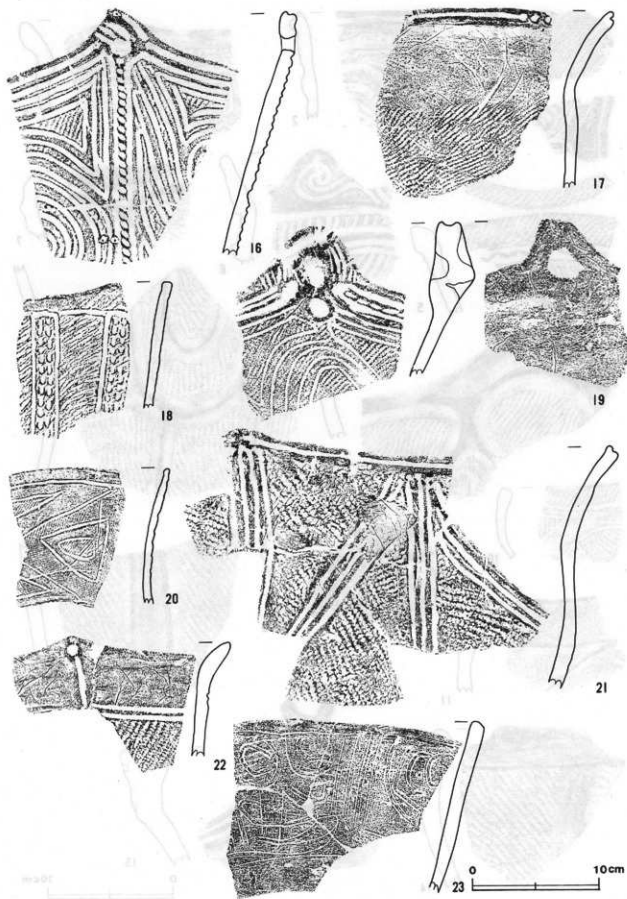
遺構外出土古銭観察表

図版番号	銭 種	計 測 値		初 鑄 年		出土地点	備 考
		直径 (cm)	重量 (g)	時 代	年 号		
第498図 1	寛永通寶	2.5	2.2	江 戸	1668	表 様	M4
2	古 銭	2.7	4.1			表 様	M5 腐食が激しく、詳細不明



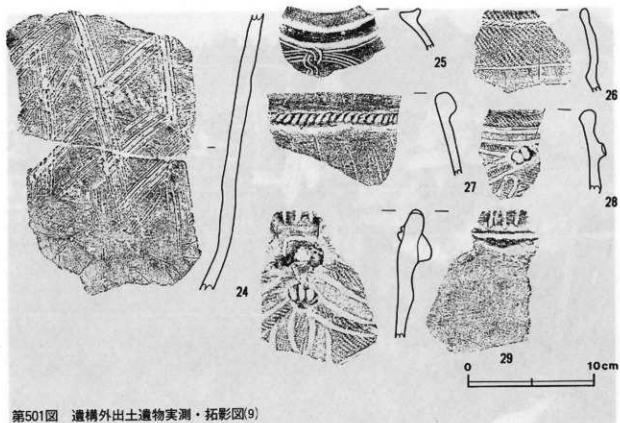
第499图 遺構外出土遺物実測・拓影图(7)

○臨海部・築港跡出土の遺物。図499



第500図 遺構外出土遺物実測・拓影図(8)

図解図・実測製出土物実測 図206



第501図 遺構外出土遺物実測・拓影図(9)

(原尺) 菅原宗竹



(原尺) 菅原宗竹



作業風景 (洗淨)



作業風景 (試掘)

3 E区の遺構と遺物

E区は、当遺跡の南部に位置し、E区の北側にG区、北東側にB区、西側にF区、北西側にD区がある。当遺跡の北と南に谷津が入り込んでおり、E区は南側の谷津に面して立地し、傾斜しながら谷津につながっている。

E区からは、竪穴住居跡4軒、地下式竈2基、井戸2基、土坑106基及び溝15条を検出した。

なお、E区の遺構番号はC区の調査終了後D区と並行して調査を進めているため、住居跡は第220号から、土坑は第901号から、溝は第26号からとなる。

(1) 竪穴住居跡

第220号住居跡（第502図）

位置 調査区の西部、H19i4区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1023号土坑に、東側部分が第7号地下式竈に、南側部分が第1002号土坑に、南西側部分が第221号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長径4.88m、短径(4.09)mの楕円形である。

長径方向 N-22°-E

壁 他の遺構と重複している部分の壁は掘り込まれているが、残存部は壁高10~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北側から西側及び南東側にかけての壁の内側を、不連続の溝がおおよそ半周している。上幅14~35cm、下幅5~21cmで、底面は平坦あるいは皿状である。

床 平坦である。所々に硬化したロームブロックが残存している。

ピット 10か所。P₁は長径70cm、短径63cmの楕円形で、深さ50cm、P₂、P₃は重複しており、P₂は長径55cm、短径41cmの楕円形で、深さ71cm、P₄は長径55cm、短径41cmの楕円形で、深さ67cm、P₅は長径74cm、短径66cmの楕円形で、深さ75cm。P₁、P₁₀及びP₂とP₃のいずれかが規模及び配列から主柱穴と思われる。位置的に見ると、他の主柱穴が第7号地下式竈に掘り込まれている可能性がある。P₂（長径40cm、短径35cmの楕円形で、深さ47cm）、P₃（長径31cm、短径27cmの楕円形で、深さ20cm）及びP₅（長径53cm、短径45cmの楕円形で、深さ41cm）は補助柱穴と思われる。他は性格不明である。

炉 中央部やや北東寄りに付設されている。長径89cm、短径79cmの楕円形で、床を14cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱で赤く焼け、硬化している。

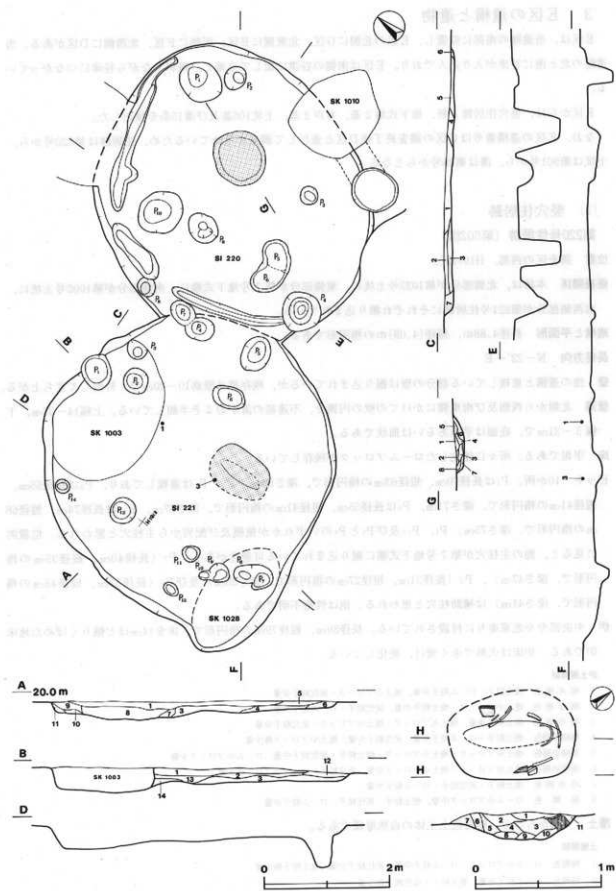
炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子中量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土中ブロック極少量
- 5 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

覆土 7層からなる。暗褐色土主体の自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量



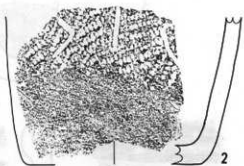
第502図 第220・221号住居跡実測図

- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物 覆土中から縄文土器片が出土しているが、いずれも細片である。

第503図1は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、隆帯による区画内に縦位の沈線が充填されている。2は底部片で、胴部地文の単節縄文RLが沈線で切断され、底部から12cmほどは文様が施されていない。中期加曾利E I式前後の時期と思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期前後と思われる。



0 10 cm

第503図 第220号住居跡出土遺物実測・拓影図

第221号住居跡 (第502図)

位置 調査区の西部、H19j区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1003号土坑に、南東側部分が第1028号土坑に掘り込まれている。北東側部分で第220号住居跡と重複しているが、本跡の方が新しい。

規模と平面形 長径[4.79]m、短径4.61mの不整形である。

壁 北東壁と南西壁は残存していないが、他は壁高15cmほどで、緩やかに外傾して立ち上がる。

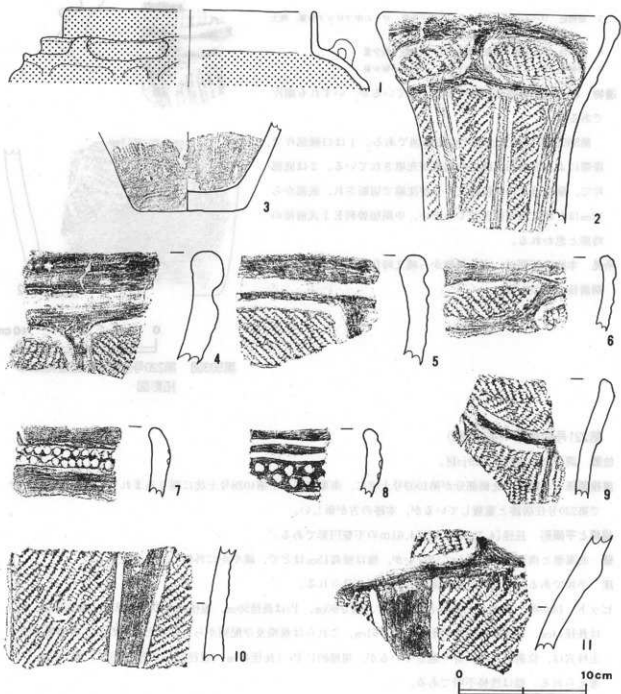
床 平坦である。炉周辺に踏み固められた面が見られる。

ピット 14か所。P₁は径41cmほどの円形で、深さ60cm、P₂は長径59cm、短径45cmの楕円形で、深さ65cm、P₁₄は長径44cm、短径38cmの楕円形で、深さ61cm、これらは規模及び配列から主柱穴と思われる。南西側部分の主柱穴は、位置的に壁に寄り過ぎているが、規模的にP₈(長径41cm、短径34cmの楕円形で、深さ52cm)が考えられる。他は性格不明である。

炉 南東側に付設されている。長軸100cm、短軸70cmの隅丸長方形で、北側に深鉢形土器を埋設し、埋設土器を囲むように東側、北側及び西側を土器片で囲んだ土器片囲い土器埋設炉で、床は21cmほど掘りくぼめてある。炉床は火熱で赤く焼け、硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 4 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 6 暗赤褐色 焼土中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 11 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量



第504図 第221号住居跡出土遺物実測・拓影図

覆土 14層からなる。ロームブロックを含み、人為的に埋め戻されていると思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 に近い暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量

- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、黄土粒子・炭化粒子極少量
 13 ぶい褐色 ローム粒子中量、黄土小ブロック・炭化粒子極少量
 14 明褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子極少量

遺物 炉内及び覆土中から遺物が出土している。1の有孔銅付土器は中央部やや北側の覆土下層から横位の状態で出土している。2の深鉢形土器は炉体土器で、炉北部に口縁部を上にして埋設され、さらに炉の北側から10の胴部片が、東側から7の口縁部片と11の胴部片が、西側から4、5の口縁部片がそれぞれ炉体土器を囲むように出土している。また、3の深鉢形土器の底部は炉の西部から、6、8、9の破片も炉から出土している。

第221号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・地成	備考
第504図 1	有孔銅付土器 縄文土器	A(19.5) B(6.2)	口縁部片。胴上部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部下に尖帯状の隆起線を2本横位に施し、要所で環状に上下の隆起線が連続されている。隆起線下には割り込みによる円形あるいは楕円形と思われる文様が見られるが、欠損しているため詳細不明である。内・外面赤色されている。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	F1 5% 中央部北側覆土下層 (加曾利EⅢ)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(18.5) B(17.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり、胴部で外反した後内彎気味に口縁部に至る。文様帯は口縁部と胴部に分離され、口縁部文様帯は沈線による楕円形区画文が描かれ、胴部文様帯は直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。地文に単節縄文見しが口縁部は斜め回転で、胴部は縦位回転で施文されている。	砂粒・炭石 褐色 普通	P2 炉内 (加曾利EⅢ)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(7.0) C 8.9	底部片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。外面に縦位の条線状の集合沈線が部分的に見られる。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	F3 炉内 (中層)

第504図4～11は縄文土器片の拓影図で、4～9は口縁部片、10、11は胴部片である。4～6は口縁部楕円区画文内に単節縄文が施文されている。区画文は沈線あるいは沈線を沿わせた隆線で構成されている。7、8は口縁部直下に2列の円形刺突文が巡らされている。9は単節縄文R Lを口縁部から2cmほどは横位回転で、それ以下の胴部には縦位回転で施文し、口縁部は磨り消しを沿わせた隆起線で区画文を施し、胴部は直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。10は胴部片で、縦位回転の単節縄文R Lが直線的な沈線区画の磨消帯に切られている。11は胴上部の破片で、口縁部文様帯の区画文以下に沈線区画の磨消帯が接続し、区画内及び磨消帯間には地文の単節縄文R Lが見られる。これらは、中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。

所見 本跡の時期は、炉体土器及び出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第222号住居跡 (第505図)

位置 調査区の西部、I19c2区。

規模と平面形 南西側部分が調査区域外に延びているため全体の形は不明だが、北西から南西にかけての径が4.67m、北東から南西にかけて現存する径が(3.32)mの半円形である。

壁 壁高9～26cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 やや起伏があり、ロームブロックで凸凹である。

ピット 4か所。P₁は北壁際に位置し、長径103cm、短径61cmの楕円形で、深さ30cm。P₂は北西壁を掘り込んでおり、長径138cm、短径77cmの楕円形で、深さ36cm。これら2本は性格不明である。P₃(長径60cm、短径35cmの楕円形で、深さ57cm)、P₄(長径39cm、短径31cmの楕円形で、深さ41cm)は炉の西側と北西側に位

置し、規模的にも主柱穴という見方もできるが、P₃が中央部に寄り過ぎており、また南東側部分に対応するピットが出ていないため、主柱穴の可能性は薄いと思われる。

炉 南東側に付設されている。長径121cm、短径69cmの不整楕円形で、ほとんど掘り込みのない地床炉である。

炉床は火熱で赤く焼け、硬化した焼土ブロックで凸凹である。炉床南部から遺物が出土している。

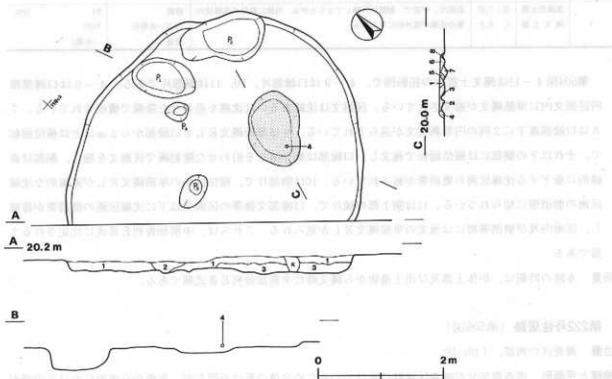
炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 3 黒褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子少量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子極少量

覆土 3層からなる。土層3はロームブロックを含んでいるが、ほぼ水平に堆積しており、自然堆積と思われる。土層2は後世の掘り込みと思われる。

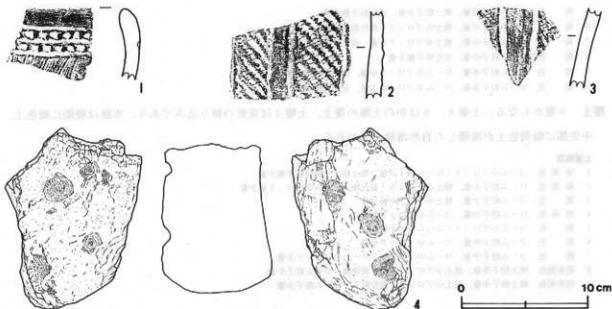
土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量



第505図 第222号住居跡実測図

遺物 覆土中及び炉内から遺物が出土している。炉の西部からは2, 3の胴布片が、南部から4の凹石が置いてあるように出土している。



第506図 第222号住居跡出土遺物実測・拓影図

第222号住居跡出土石製品観察表

図版番号	器種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第506図 4	凹 石	(14.4)	(10.8)	8.8	(1712.1)	花崗岩	Q1 石皿転用 欠損品 器内

第506図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、口唇部直下の3列横走沈線間に連続刺突文を2列施し、以下胴部には熱赤文が縦位に施文されている。2、3は胴部片で、縦位回転の単節縄文しR地文が沈線区画の唇消帯に分断されている。中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第223号住居跡 (第507図)

位置 調査区の西部, I19c区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1034号、1035号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.34m、短軸3.62mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-33°-E

壁 土坑との重複で、北壁が部分的に掘り込まれているが、他は壁高4～14cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦である。わずかに踏み固められた面が見られる。

炉 中央部やや北側に付設されている。長径131cm、短径87cmの楕円形で、南側に胴部下位を打ち欠いた深鉢形土器を斜位に埋め込んだ土器埋設炉である。炉は10cmほど掘り込まれ、土器内の焼土は少ないが、周囲は硬化したブロック状の焼土が見られる。

炉土層解説

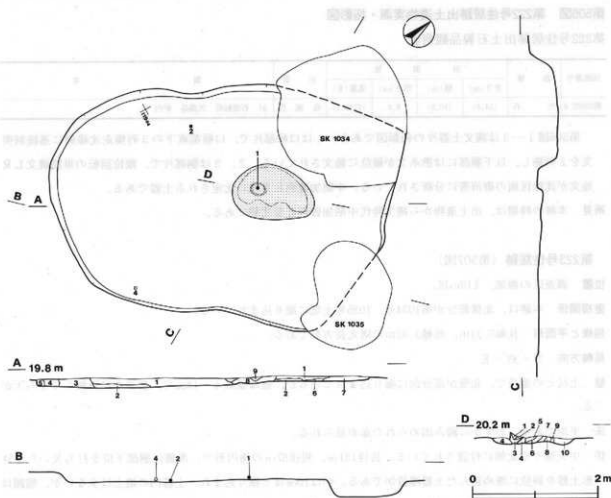
- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量

- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土中ブロック中量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 炭化物極少量

覆土 9層からなる。土層8, 9は炉の上層の覆土, 土層4は後世の掘り込みであり, 本跡は実際に褐色土, 中央部に暗褐色土が堆積した自然堆積と思われる。

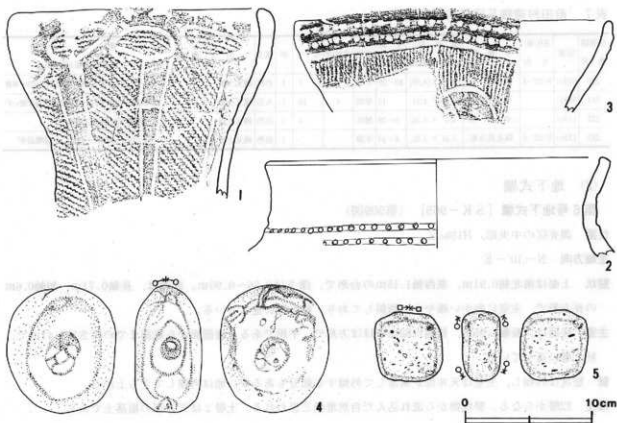
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量



第507図 第223号住居跡実測図

遺物 遺物が少量出土している。第508図1の深鉢形土器は炉体土器である。2の深鉢形土器の口縁部は西部床面からばらばらの状態で, 4の磨石は南東部床面から出土している。



第508図 第223号住居跡出土遺物実測・拓影図

第223号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第508図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [20.2] B (15.0)	胴部中位以下は意図的に打ち欠かれている。胴部は外傾して立ち上がった後内壁しながら口縁部に至る。沈積による楕円形区画文が口縁部文様帯に描かれ、区画内には細部縄文LRLが縦位回転で施文されている。胴部は縦位回転で施文された同縄文が、直線的に垂下する沈積区画の巻消帯に分離されている。	砂粒・長石・石英・スコリア 棕色 普通	F4 40% 伊内 (加曾利EⅢ)
2	深鉢形土器 縄文土器	A 27.3 B (8.8)	外反する口縁部片。口縁部は無文帯で、口縁部下に円形の連続刺突文が上下2段に横走されている。	砂粒・スコリア 棕色 普通	F5 10% 西部岸田 (加曾利EⅢ)
3	深鉢形土器 縄文土器	A [25.2] B (7.2)	口縁部片。胴上部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は円形刺突文が上下2段に施され、直下の沈積で明部文様帯が分離されている。胴部は地文に縦位の熟赤文が施され、弧状を描くと思われる沈積区画の巻消帯で文様が上下に分離されている。	砂粒・長石・スコリア 棕色 普通	F6 10% 覆上 (加曾利EⅢ)

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
第508図4	磨石	10.0	8.6	5.3	741.2	花崗岩 Q2	貴・義田にのみ 南東部岸田
5	磨石	5.6	5.5	3.0	162.3	安山岩 Q3	敷石兼用

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

表7 前田村遺跡E区住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	方位(南)	平面形状	規模(m) (長径×短径)	埋高 (cm)	断面	主柱穴	ピット	竈	覆土	出土遺物	備考
220	前91a	N-22°-E	楕円形	4.88×(4.09)	10~20	平垣	3	7	1	自然	縄文土器	S1-221, 第7号地下式墳, SK-1002-1023→本跡
221	前91b		不整形多角形	(4.79)×4.61	15	平垣	4	10	1	人工	縄文土器	SK-1003-1026→本跡→S1-220, 土器片・伊
222	119c		(平) 円形	4.67×(3.32)	9~26	起伏		4	1	自然	縄文土器	南西側部分調査区域外
223	119c	N-33°-E	隅丸長方形	5.34×3.62	4~14	平垣			1	自然	縄文土器	SK-1034・1035→本跡, 土器埋設跡

(2) 地下式墳

第6号地下式墳 [SK-965] (第509図)

位置 調査区の中央部, H19h区。

主軸方向 N-10°-E

竃坑 上面は南北軸0.91m, 東西軸1.15mの台形で, 深さは0.56~0.90m。底面は, 長軸0.71m, 短軸0.6mの長方形で, 主室に向かい緩やかに傾斜しており, 粘土層に達している。

主室 底面は, 長軸1.95m, 短軸1.82mのほぼ方形で, 平坦である。確認面から底面までの深さは1.41mで, 粘土層に達している。

壁 竃坑は外傾し, 主室は天井部が崩落して外傾する部分もあるが, 他は内傾して立ち上がる。

覆土 22層からなる。竃坑側から流れ込んだ自然堆積と思われる。土層2は天井部の崩落土である。

土層解説

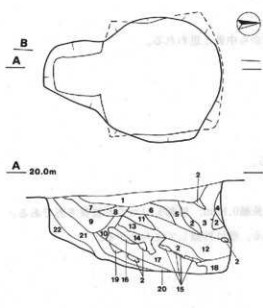
- 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 褐色 ロームブロック
- 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 粘土小ブロック少量
- 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック極少量
- 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 黒褐色 黒色土粒子多量, ローム粒子極少量
- 黒褐色 黒色土粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 明黄褐色 粘土多量, ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量
- 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 北壁際底面から煤の付着した石が出土している。他に縄文土器片が極少量出土しているが, 本跡に伴うものではない。

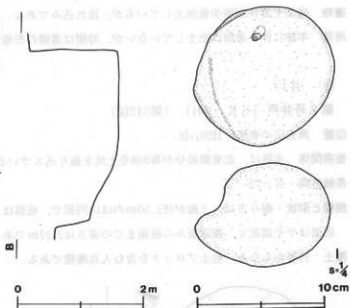
第6号地下式墳出土石観察表

図版番号	器種	計測値			石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
第510図1	不明	14.7	14.6	10.9	3230.8	安山岩 04 全体に煤付着 北壁際底面

所見 時期を判断する遺物は出土していないが, 遺構の形態から中世のものと思われる。



第509図 第6号地下式墳実測図



第510図 第6号地下式墳出土遺物実測図

第7号地下式墳 [SK-1010] (第511図)

位置 調査区の西部, H194区。

重複関係 本跡は, 第220号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

主軸方向 N-23°-E

竪坑 上面は長径0.85m, 短径0.66mの楕円形で, 深さは1.50~1.61m。底面は長軸1.26m, 短軸0.75mの長方形だが, 南側は丸みをもつ。上面から底面までは粘土が充填されている。竪坑から主室にかけては僅かに傾斜している。主室への入り口は天井部が残っており, 高さは0.90~0.96mである。

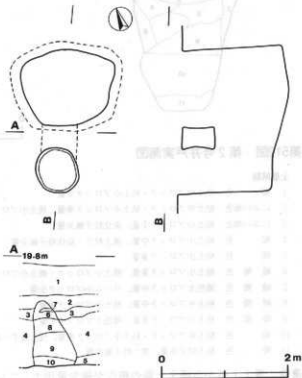
主室 上辺1.77m, 下辺1.25m, 南北軸1.39mの逆台形で, 確認面から底面までの深さは1.63~1.72mで, 僅かに中央部が低くなっており, 灰褐色の粘土層に達している。

壁 竪坑は垂直に, 主室は外傾して立ち上がる。

覆土 土層断面図は竪坑部分の東西の層で, 5層からなる。土層1~5は地山の層である。

土層解説

- | | | |
|----|--------|-----------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量 |
| 3 | 褐色 | ローム大ブロック多量, 焼土粒子極少量 |
| 4 | オリーブ黄色 | 粘土層 |
| 5 | 灰オリーブ色 | 粘土層 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土中ブロック少量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子極少量 |
| 8 | オリーブ黄色 | 粘土大ブロック多量, ローム粒子中量 |
| 9 | 黄色 | ローム粒子・粘土中ブロック多量, ローム小ブロック中量 |
| 10 | 黄色 | ローム中ブロック・粘土ブロック中量 |



第511図 第7号地下式墳実測図

遺物 縄文土器片が極少量出土しているが、流れ込みである。

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は遺構の形態から中世と思われる。

(3) 井戸

第2号井戸 [SK-901] (第512図)

位置 調査区の東部、H20j4区。

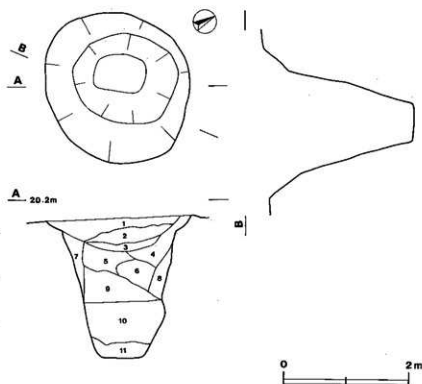
重複関係 本跡は、北東側部分が第908号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-73°-E

規模と形状 掘り方は、上面が径2.50mのほぼ円形で、底面は長軸0.82m、短軸0.61mの不整形である。

底面はやや皿状で、確認面から底面までの深さは2.27mである。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 11層からなる。粘土ブロックを含む人為堆積である。



第512図 第2号井戸実測図

土層解説

- 1 褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
- 2 にぶい褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子極少量
- 3 にぶい褐色 粘土小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 4 褐色 粘土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 褐色 粘土小ブロック多量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック多量、粘土小ブロック・焼土小ブロック少量
- 7 暗褐色 褐色土ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 粘土中ブロック中量、粘土小ブロック少量
- 9 暗褐色 粘土小ブロック多量、褐色土ブロック中量
- 10 褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 11 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子極少量

遺物 覆土上層から縄文土器の細片が極少量出土しているが、流れ込みである。

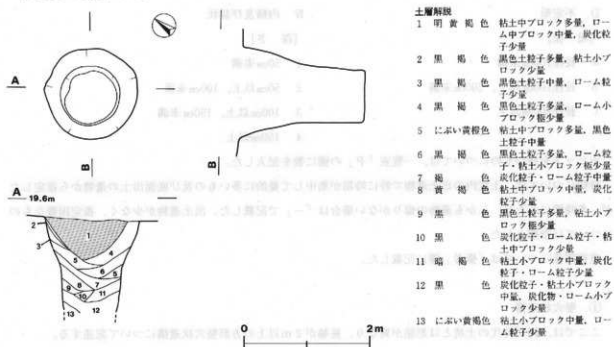
所見 時期を判断する遺物が出土していないので、時期は不明である。

第3号井戸 [SK-1037] (第513図)

位置 調査区の中央部南側, I19d区。

規模と形状 掘り方は, 上面が径1.45mの円形で, 確認面から0.80mほどまでの間は傾斜しているが, そこから下は円筒形である。底面は径0.85mの円形で, 確認面からの深さは2.00mあり, 粘土層に達している。

覆土 13層からなる。粘土ブロックを含む人為堆積である。土層1は粘土の充填層で, 埋め戻した後粘土で蓋をしたものと思われる。



第513図 第3号井戸実測図

遺物 覆土上層から混入したと思われる縄文土器の細片が極少量出土している。

所見 本跡の南東側が, 径70cmほどの範囲の焼土の広がりと接している。時期は, 判断する遺物が出土していないので, 不明である。

(4) 土坑

E区で調査した土坑は106基である。遺物から縄文時代と思われる土坑, 遺物の出土は極少量であるが遺構の形態から中・近世と思われる土坑に大別される。地下式墳については(2)で, 井戸については(3)で述べたが, ここでは次の観点から①~④に分類して記載した。

- ① 中・近世と思われる竅穴状遺構
- ② 方形あるいは長方形土坑
- ③ 縄文時代の土坑で, 円形もしくは楕円形で, 小ピットを持つ等形状に特徴のある土坑, あるいは出土遺物に特徴のある土坑
- ④ その他の土坑

①については遺構及び遺物の実測図とともに文章で記述するが, ②については時期を判断する遺物が出土していないため, 遺構の実測図の掲載にとどめ, 位置や規模等については一覧表に掲載する。③は遺構と遺物の実測図を掲載し, 特に遺構についての説明を必要とするものには「第〇号土坑」として記述する。また, 併せて遺物の観察表, 拓影図の解説を記述する。④については遺物の実測図, 拓影図及び遺物観察表, 拓影図の解

説にとどめる。③、④の位置や規模等については一覧表に一括して掲載する。

なお、土坑一覧表中の「土坑の分類」の欄は、以下を基準とした。

[平面形]	[壁面]
A 円形系統	I 緩斜
B 楕円形系統	II 外傾
C 方形(長方形, 隅丸, 不整合む)系統	III ほぼ垂直
D 不定形	IV 内傾及び袋状
[規模]	[深さ]
a 長径100cm未満	1 50cm未満
b 長径100cm以上, 200cm未満	2 50cm以上, 100cm未満
c 長径200cm以上	3 100cm以上, 150cm未満
	4 150cm以上

小ピットを持つものについては、一覧表「P」の欄に数を記入した。

時期については、土坑内の出土遺物で特に時期が集中して量的に多いもの及び底面出土の遺物から推定したが、多時期にわたり、しかも遺物の偏りがない場合は「-」で記載した。出土遺物が少なく、推定困難なものについては空欄とした。

重複関係については「備考」欄に記載した。

① 堅穴状遺構

ここでは、縄文時代の土坑とは形態が異なり、長軸が2m以上の方形堅穴状遺構について記述する。

第922号土坑(第514図)

位置 調査区の中央部北側, H19d区。

重複関係 本跡は、北側部分を第37号溝に、南側部分を第27号溝に掘り込まれている。

主軸方向 N-8°-E

規模と平面形 長軸3.17m, 短軸2.45mの長方形で、深さ119cmである。

出入口部 南壁西部の壁外に張り出している。上部は第27号溝に掘り込まれているが、底面は幅0.76mで、幅21~46cm, 長さ65cmほどの範囲で粘土が張られ、スロープ状を呈している。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

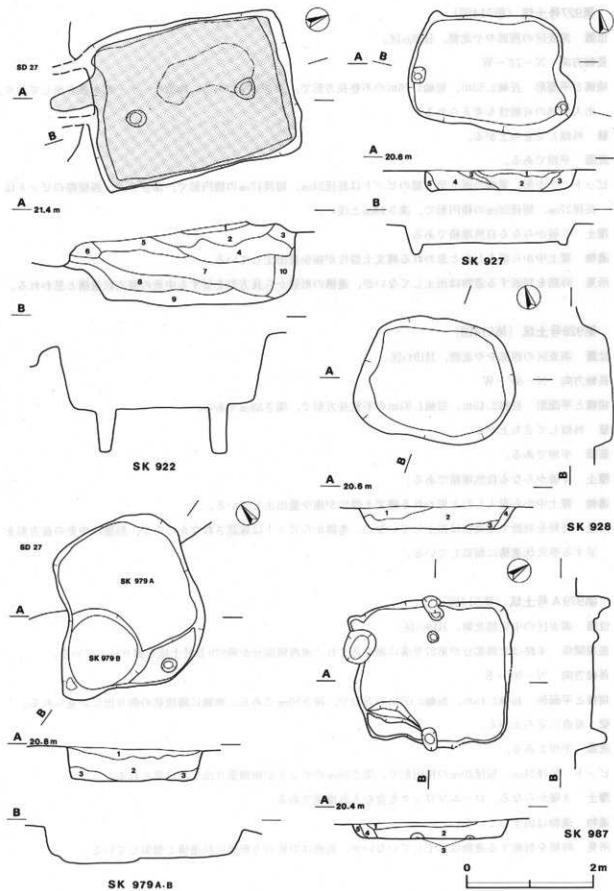
底面 平坦である。粘土層に達しており、全体に踏み固められている。中央部やや西側に、南北径161cm, 東西径55~80cmの不定形の範囲で炭化材の広がりが見られる。

ピット 2か所。南と北に位置しており、北側が長径34cm, 短径30cmの卵形で、深さ74cm, 南側が径30cmほどの円形で、深さ67cm。いずれも柱穴と思われる。

覆土 10層からなる。粘土ブロック, ロームブロックを含み、人為堆積と思われる。

遺物 遺物は出土していない。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが、遺構の形態から長方形を呈する中世の堅穴状遺構と思われる。



第514図 竪穴状遺構実測図

第927号土坑（第514図）

位置 調査区の西部やや北側，H19g区。

長軸方向 N-72°-W

規模と平面形 長軸2.53m，短軸1.76mの不整長方形で，深さ30cmである。南東コーナー部が張り出しており，出入口部の可能性も考えられる。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 2か所。東側の張り出し部のピットは長径24cm，短径17cmの楕円形で，深さ6cm，西壁際のピットは長径27cm，短径20cmの楕円形で，深さ14cmと浅い。

覆土 5層からなる自然堆積である。

遺物 覆土中から混入したと思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが，遺構の形態から長方形を呈する中世の竪穴状遺構と思われる。

第928号土坑（第514図）

位置 調査区の西部やや北側，H19f区。

長軸方向 N-60°-W

規模と平面形 長軸2.45m，短軸1.93mの不整長方形で，深さ33cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層からなる自然堆積である。

遺物 覆土中から混入したと思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していない。本跡からピットは確認されなかったが，形態は中世の長方形を呈する竪穴状遺構に類似している。

第979A号土坑（第514図）

位置 調査区の中央部北側，H19e区。

重複関係 本跡は北側部分が第27号溝に掘り込まれ，南西側部分が第979B号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-20°-E

規模と平面形 長軸2.15m，短軸2.05mの方形で，深さ50cmである。南側に階段状の張り出しが見られる。

壁 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 長径24cm，短径20cmの楕円形で，深さ39cmのピットが南側張り出し部に見られる。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

遺物 遺物は出土していない。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが，形態は中世の方形竪穴状遺構と類似している。

第987号土坑（第514図）

位置 調査区の西部やや北側，H19g区。

重複関係 本跡は，北西側部分が第988号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-31°-W

規模と平面形 長軸2.40m，短軸2.30mの方形で，深さ27cmである。

出入口部 南東コーナー部に出入口と思われる階段状の施設を有するが，壁外に張り出してはいない。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ビット 5か所。東壁際の長径37cm，短径24cmの楕円形で，深さ25cmのビットと，西壁際の長径30cm，短径24cmの楕円形で，深さ27cmのビットは柱穴と思われる。他は性格不明である。

覆土 5層からなる。自然堆積と思われる。

遺物 覆土中から混入したと思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の方形堅穴状遺構と思われる。

第922号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量，焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 粘土小ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量・粘土小ブロック中量，炭化粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量

第927号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

第928号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極少量

第979A号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック多量，ローム粒子中量

第967号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック極少量

② (長) 方形土坑 (第515・516図)

ここでは、長軸が2 m以下の方形あるいは長方形の土坑の実測図と第967号土坑の出土遺物の実測図を掲載し、文章による記述は割愛する。

E区では中世の地下式墳及び方形あるいは長方形の堅穴状遺構が確認されているが、これらとの関連を考慮すると、方形あるいは長方形の土坑のうち、中世の墓塚と思われる土坑もある。しかし、遺構に伴う遺物は第967号土坑の中央部床面から砥石が1点出土しているだけで、他の土坑からは混入したと思われる縄文土器の細片が極少量出土しているだけであり、また、墓塚の根拠としての骨片も出土しておらず、時期や性格等詳細は特定困難である。

なお、位置や規模等は一覧表に一括して掲載する。

第929号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック極少量

第961号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量

第967号土坑 土層解説

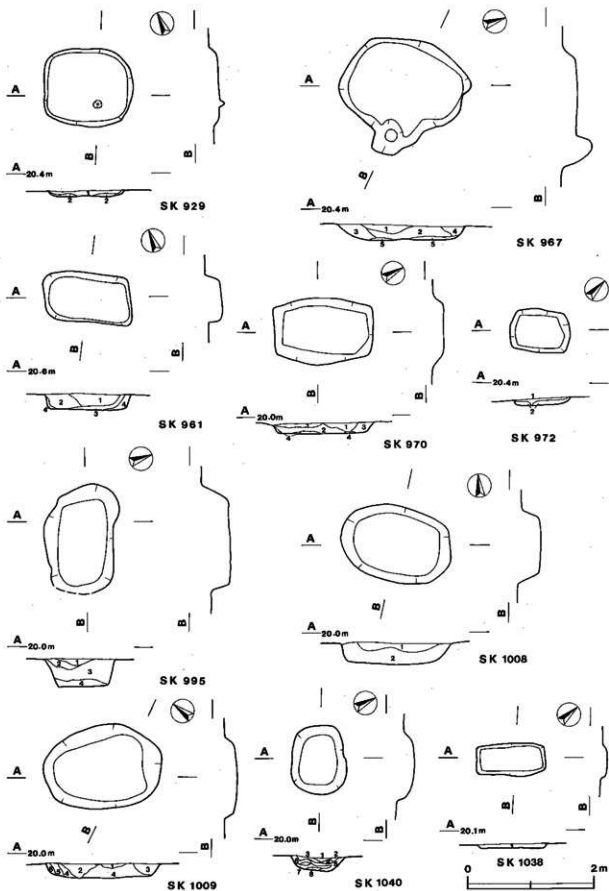
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、炭化物極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量

第970号土坑 土層解説

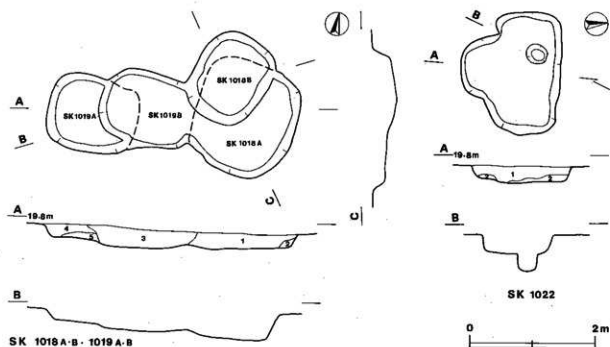
- 1 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量

第972号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量



第515図 (長) 方形土坑実測図(1)



SK 1018 A-B · 1019 A-B

第516図 (長) 方形土坑実測図(2)

第995号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック・黒色土中ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 黒色土粒中量, ローム中ブロック少量

第1008号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック極少量

第1009号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子極少量

第1018A号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

第1019A号土坑 土層解説

- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第1019号土坑 土層解説

- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量

第1022号土坑 土層解説

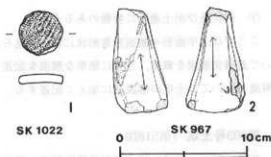
- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量。
黒色土小ブロック中量、ローム大ブロック少量
2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量

第1038号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量

第1040号土坑 土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化物極少量
2 灰褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化物中量
3 にぶい褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化物少量
4 にぶい褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
5 黒褐色 炭化物・炭化粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
6 灰褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
7 灰褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物極少量
8 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量



第517図 (長) 方形土坑出土遺物実測・拓影図

(長) 方形土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
第517図1	土製円板	3.5	3.4	0.8	10.8	100	表面に単線文R.L	NP1 SK-1022 覆土

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第517図2	瓦 石	(8.3)	4.2	4.6	(161.4)	凝 灰 岩	G5 欠損品 SK-967 覆土下層

表8 前田村遺跡E区(長)方形土坑一覧表

土 坑 番 号	位 置 (区)	長 幅 方 向	平 面 形	長軸×短軸 (m)	深 さ (cm)	壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新→旧)
929	H19a	N-60°-E	隅丸長方形	2.53 × 1.76	8	外傾	平坦	不明	縄文土器	ビッド1
961	H19e	N-62°-W	長 方 形	1.39 × 0.76	27	外傾	平坦	人為		
967	H19f	N-50°-W	不整長方形	1.90 × 1.55	24	外傾	平坦	人為	紙石	ビッド1
970	H19a	N-50°-E	長 方 形	1.57 × 1.06	17	外傾	平坦	人為		
972	H19f	N-44°-E	長 方 形	0.96 × 0.69	14	外傾	平坦	不明		
995	H19a	N-72°-W	不整長方形	(1.59 × 1.00)	46	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1008	H19a	N-64°-W	隅丸長方形	1.78 × 1.20	35	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1009	H19a	N-32°-W	隅丸長方形	1.86 × 1.32	21	傾斜	平坦	人為		
1018A	H19c	N-4°-E	[隅丸長方形]	1.81 × 1.70	22	傾斜	平坦	人為	縄文土器	SK-1019B→本跡→SK-1018B
1018B	H19c	N-22°-E	[隅丸長方形]	1.46 × 1.19	39	外傾	皿状	不明		SK-1018A・1019B→本跡
1019A	H19c	N-85°-E	[隅丸長方形]	(1.43) × 1.20	15	傾斜	平坦	人為		SK-1019B→本跡
1019B	H19c	N-88°-W	[隅丸長方形]	(1.32) × 1.17	33	傾斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK-1018A・1018B・1019A
1022	H19a	N-77°-W	長 方 形	2.00 × 1.35	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1038	H18f	N-15°-E	長 方 形	1.10 × 0.52	9	外傾	平坦	不明		
1040	H20j	N-68°-E	隅丸長方形	1.12 × 0.86	22	傾斜	皿状	人為		

③ 形状及び出土遺物に特徴のある土坑

ここでは、平面形や断面形等形状に特徴の見られる土坑と土器や骨片等出土遺物に特徴のある土坑13基について遺構実測図を載せ、さらに簡単な解説を記述する。土坑出土の遺物の観察表は一括して掲載し、拓影図の解説については土坑の解説文に加えて記述する。

第903号土坑（第518図）

長径1.76m、短径1.45mの不整楕円形で、深さは36cmである。底面から馬の骨が出土している（付章参照）が、他に出土遺物はない。覆土は人為堆積の痕跡が見られ、馬を埋葬したものと思われる。時期を判断する遺物は出土していないが、古代以降のものと思われる。

第909号土坑（第518図）

円形の土坑で、底面に小ピットを4か所有する。いずれも壁際に位置しているが、東壁際と北西壁際のピットは大形で、東壁際のピットは長径83cm、短径74cmの楕円形で、深さ43cm、北西壁際のピットは径55cmほどの円形で、深さ58cm。これらは本跡に伴うと思われる。南壁際のピットは長径31cm、短径25cmの楕円形で、深さ34cmとやや小形であるが、東壁及び北西壁のピットとほぼ等間隔で壁際に位置しており、他のピットとセットになる可能性もある。西壁際のピットは深さ18cmで、配列的にも他のピットとセットという可能性は少ないと思われる。遺物は、覆土中から縄文時代中期加曾利E式期の土器片が極少量出土しているだけである。

第912号土坑（第518図）

楕円形の土坑で、底面に南北で対になるピットを有する。北側のピットが長径60cm、短径50cmの楕円形で、深さ55cm、南側のピットが長径82cm、短径67cmの楕円形で、深さ42cm。これらはセットで本跡に伴うものと思われる。遺物は、覆土中から縄文時代中期加曾利E式期の土器片が少量出土しているだけである。

第914号土坑（第518図）

楕円形の土坑で、底面に小ピットを6か所有する。中央部の楕円形ピットは重複しており、長径が28cmほどで、深さは北側が26cm、南側が44cmである。他は壁際に位置し、長径28～44cmの円形あるいは楕円形で、深さ14～28cmである。覆土中から中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期の土器片が出土しており、第521図1の深鉢形土器は中央部北側のピット内から、2の口縁部片は東壁際のピット内から出土している。時期は、縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものが大半であり、本跡の時期もその前後と思われる。

第521図1、2は縄文土器口縁部片の拓影図である。1は口縁部に隆起線で渦巻文と区画文が施され、胴部には沈線区画の磨消帯が直線的に垂下されている。縦位回転の単前縄文LRが地文として施されている。2は口縁部に2列の連続刺突文を交互に施し、胴部は縦位に施された地文の擦糸文が内部磨り消しの連貫文に分解されている。中期加曾利EⅢ式の範疇と思われる。

第916号土坑（第519図）

楕円形の土坑で、底面中央部に2か所、北壁際に1か所、南西壁際に1か所の小ピットを有する。長径は34～49cmであるが、深さは中央部のピットが47cmと68cm、北壁際のピットが26cm、南西壁際のピットが13cmとやや差がある。覆土中から遺物が出土しており、第521図3の縄文土器底部片は北東部覆土中層から出土している。時期は、主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期と思われる。

第521図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、縦位回転の単節縄文RLを地文とし、沈線に沿った隆線で横長の区画文が口縁部に、胴部には沈線区画の磨消帯が縦位に施されている。2は胴部片で、地文の単節縄文RLが沈線区画の磨消帯に分断されている。3は底部片で、地文の単節縄文が沈線区画の磨消帯に分断され、底部から3cmほどは無文である。

第989号土坑（第519図）

楕円形の土坑で、底面中央部に長径30cm、短径25cmの卵形で、深さ74cmのピットを有する。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅢ式期を主体とする土器片が少量出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。

第521図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は波状を呈する口縁部片で、波頂部に楕円形の孔を有し、波頂部から沈線が「八」の字状に胴部に垂下し、内部は磨り消されている。地文は単節縄文RLが縦位回転で施されている。2は胴上部から口縁部付近にかけての破片で、口縁部下に円形の連続刺突文、以下胴部に縦位の沈線が充填されており、曾利Ⅱ式の手法が見られる。3も胴部片で、縦位回転の単節縄文RLが沈線区画の磨消帯に切られている。

第990号土坑（第518図）

不整楕円形の土坑で、底面中央部に径30cmほどの円形で、深さ62cmの小ピットと、東部に径73cmほどの円形で、深さ62cmのピットを有する。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅢ式期前後の土器片が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第521図1～5は縄文土器片の拓影図で、1～3は口縁部片、4、5は胴部片である。1は口縁部に2列の連続刺突文、胴部に縦位の捩糸文を切る3列の波状沈線が見られ、沈線間は磨り消されている。2は「冂」状の区画が沈線で施されている。3は内彎する口縁部片で、太く偏平な沈線が縦位に施され、曾利Ⅱ式の影響が見られる。4は地文の単節縄文RLが曲線的な隆線に切られている。5は縦位回転の単節縄文RLが直線的な沈線区画の磨消帯に切られている。

第1013号土坑（第519図）

楕円形の土坑で、底面中央部に径26cmほどの円形で、深さ39cm、東壁際に径47cmほどの円形で、深さ12cm、南壁際に長径56cm、短径49cmの楕円形で、深さ26cmの小ピットを有する。覆土中から中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期前後の土器片が少量出土しており、本跡の時期と思われる。

第522図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、口縁部に2列の連続刺突文が廻らされ、胴部には縦位回転の単節縄文RLが地文で施され、横走する3列の波状沈線に文様が切断されている。沈線間は磨り消しが施されている。2は底部片で、外面に施された縦位回転の単節縄文RLが、直線的に垂下する沈線区画の磨消帯に分断されている。中期加曾利EⅡ～Ⅲ式にかけての時期の土器と思われる。

第1017号土坑（第520図）

楕円形の土坑で、覆土中から遺物が出土している。第522図1の深鉢形土器の底部片は北西部覆土上層、2の深鉢形土器の底部片は南西部覆土上層から出土している。3の口縁部片は中央部覆土中層、4の口縁部片は西部覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代加曾利EⅢ式期と思われる。

第522図3～6は縄文土器片の拓影図である。3は口縁部片で、太い隆起線による区画文内に単節縄文R Lが施されている。4も僅かに波状を呈する口縁部片で、口縁部文様帯に隆起線による形の崩れた渦巻文と長方形区画文が描かれ、区画内には単節縄文が見られる。5も波状口縁部片で、口縁部下に2列の連続刺突文、以下「 \cap 」状の区画が胴部に施され、区画内に縄文施文、区画外は磨り消しが施されている。6は胴部片で、縦位回転の単節縄文R Lが、直線的に垂下する沈線区画の磨消帯に分断されている。

第1027号土坑（第520図）

楕円形の土坑で、3本の小ピットを底面に有する。東側のピットは径50cmほどの円形で、深さ68cm、中央部のピットは長径26cm、短径22cmの楕円形で、深さ39cm、西側のピットは長径47cm、短径33cmの楕円形で、深さ25cm。これらは東西にはほぼ一直線に並ぶ。覆土中から中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期にかけての土器片が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第522図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、沈線で渦巻文や方形の区画が施され、区画内には縦位の沈線が充填されている。2も口縁部片で、口縁部下に偏平な沈線が横走され、以下胴部には単節縄文R Lが施文されている。3は胴部片で、縦位回転の単節縄文R Lが、直線的に垂下する3列の平行沈線に分断されている。沈線間は磨り消されている。これらは中期加曾利EⅡ～Ⅲ式の範疇と思われる。

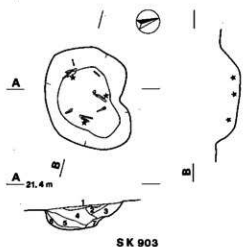
第1032号土坑（第520図）

楕円形の土坑で、底面中央部に長径26cm、短径22cmの楕円形で、深さ28cmの小ピットを有する。このピットを囲むように、北、東、西の3方の壁際に、長径80cmほど、短径64～70cmの楕円形で、深さ29～34cmのピットが等間隔に位置している。西壁際の際ピット底面からは焼土と炭化材も確認されている。また上面東側と南西側にも深さ50cmほどの小ピットを有する。遺物は覆土上層から中層にかけて出土しており、第522図1の深鉢形土器は北部覆土中層から、第523図3の深鉢形土器は中央部覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅡ式期と思われる。

第1036号土坑（第520図）

円形の土坑で、底面中央部に長径35cm、短径25cmの楕円形で、深さ42cmの小ピットと、北部に長径150cm、短径84cmの不定形で、深さ42cmの大形のピットを有する。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅢ式期を主体とする遺物が出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。

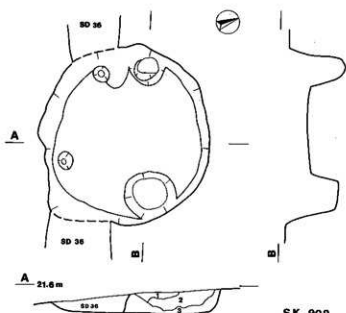
第523図1は縄文土器口縁部片の拓影図である。隆線で区画文が描かれ、内部には縦位回転の単節縄文R Lが見られる。



SK 903

第903号土坑 土層解説

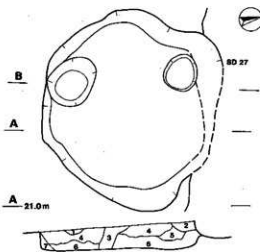
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム中ブロック、ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック、ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック多量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量



SK 909

第909号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック、ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量



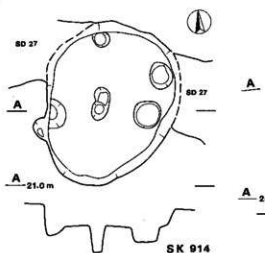
SK 912

第912号土坑 土層解説

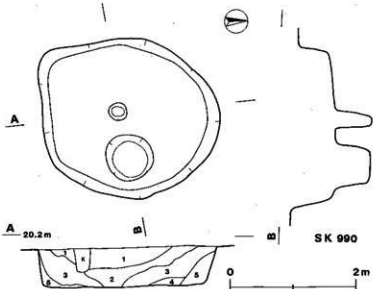
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量、機土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック、ローム粒子少量、機土粒子・炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、機土粒子、炭化物、機土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子、機土粒子、ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子、機土粒子少量

第914号土坑 土層解説

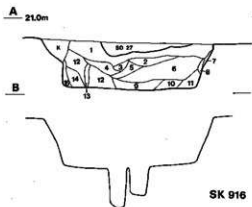
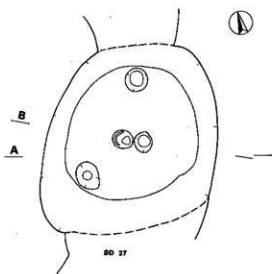
- 1 暗褐色 炭化物中量、機土小ブロック、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 機土小ブロック、炭化物、ローム小ブロック、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、機土小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量



SK 914



SK 990



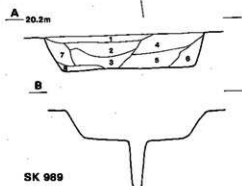
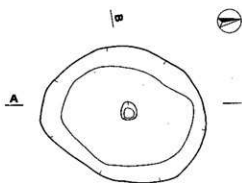
SK 916

前916号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土中ブロック極少量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 暗褐色 炭化物中量, ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 炭化物中量, ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 12 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物少量
- 14 暗褐色 粘土小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第1013号土坑 土層解説

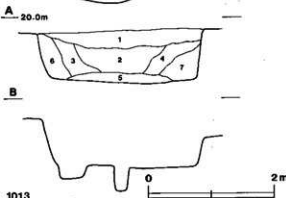
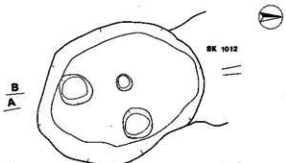
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 5 暗褐色 粘土大ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム大ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック極少量



SK 989

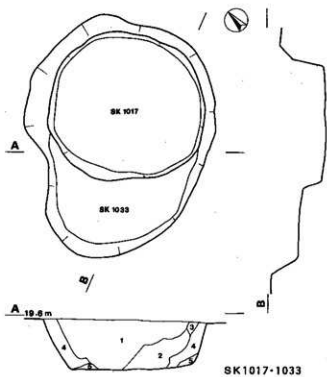
第989号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量



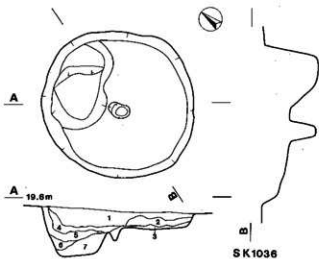
SK 1012

第519図 第916・989・1013号土坑実測図



第1017号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 4 濃い褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量

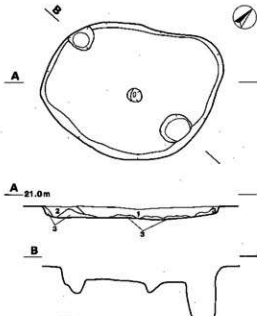


第1036号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土中ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック少量

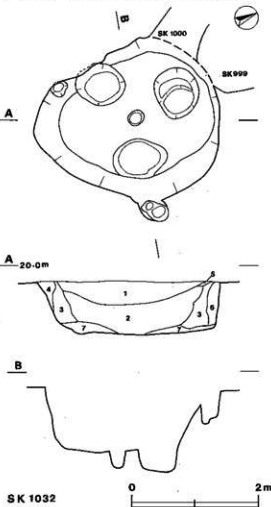
第1032号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量

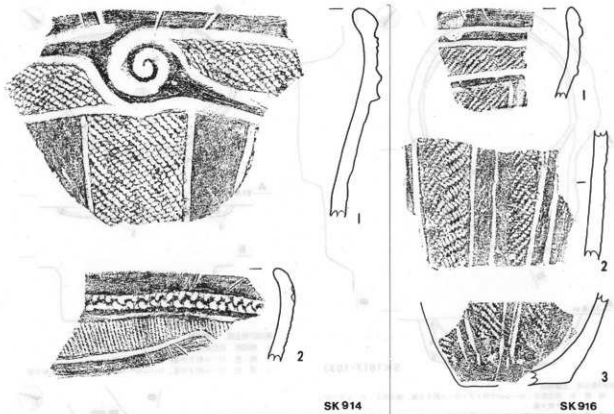


第1027号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量

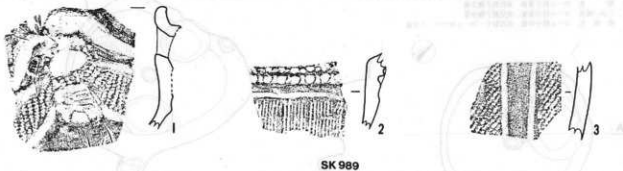


第520図 第1017・1027・1032・1033・1036号土坑実測図

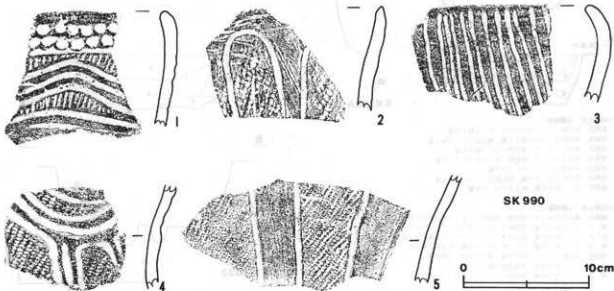


SK 914

SK 916



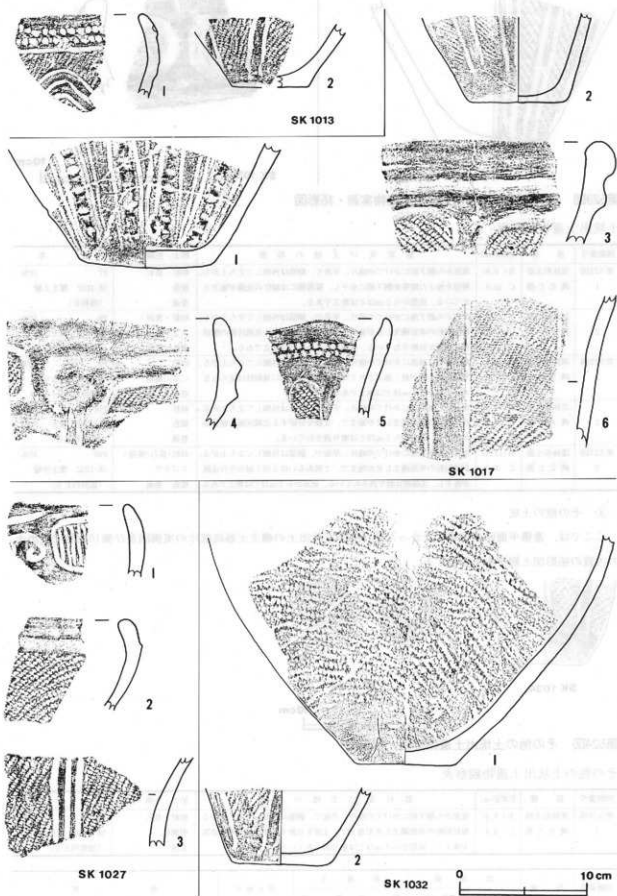
SK 989



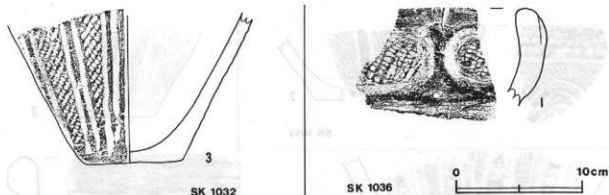
SK 990

0 5 10cm

第521图 第914·916·989·990号土坑出土遗物实测·拓影图



第522图 第1013·1017·1027·1032(1)号土坑出土文物实测·拓影图



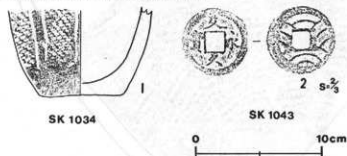
第523図 第1032(2)・1036号土坑出土遺物実測・拓影図

土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第522図 1	深鉢形土器	B (9.0)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。押捺を加えた隆帯が胴下部に垂下し、隆帯間には縦位の沈線が施文されている。底部から2cmほどは無文である。	砂粒・長石 褐色	P7 SK-1017 覆土上層 (加曾利EⅡ)
	縄文土器	C 10.8			
2	深鉢形土器	B (7.1)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。縦位回転の半筋縄文しRが施文で、直線的に垂下する沈線区画の帯消帯に文様が分断されている。底部から2cmほどは無文である。	砂粒・長石・スコリア 普通	P8 SK-1017 覆土上層 (加曾利EⅡ)
	縄文土器	C 7.5			
第522図 1	深鉢形土器	B (18.3)	底部から口縁部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。半筋縄文しRが粗く施文されているが、施文方向に規則性は見られない。底部から6cmほどは無文である。	砂粒 にぶい褐色 普通	P9 SK-1032 覆土中層 (加曾利EⅡ)
	縄文土器	C 7.3			
2	深鉢形土器	B (6.3)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。斜め回転の半筋縄文しRが施文で、文様を分断する沈線区画の帯消帯が垂下し、底部から1cmほどは磨り消されている。	砂粒 褐色 普通	P11 SK-1032 覆土 (加曾利EⅡ)
	縄文土器	C 7.3			
第523図 3	深鉢形土器	B (11.3)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。斜め回転の半筋縄文しRが施文で、2列あるいは3列1組の平行沈線が垂下し、沈線間は磨り消されている。底部から2cmほどは無文である。	砂粒・長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P10 SK-1032 覆土中層 (加曾利EⅡ)
	縄文土器	C 8.0			

④ その他の土坑

ここでは、遺構平面図を掲載しなかった第1034号土坑出土の縄文土器底部片の実測図及び第1043号土坑出土の古銭の拓影図と観察表を掲載する。



第524図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第524図 1	深鉢形土器	B (6.8)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。縦位回転の半筋縄文しRが施文で、文様を分断する沈線区画の帯消帯が垂下し、底部から2cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石 明褐色 普通	P12 SK-1034 覆土上層 (加曾利EⅡ)
縄文土器	C 6.4				

図版番号	器種	計測値		初 始 年		出土地点	備 考
		直径 (cm)	重量 (g)	時 代	年 号		
第524図 2	文久永寶	2.8	3.9	江 戸	1863	SK-1043 覆土 MI	

表9 前田村遺跡E区土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径(南) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	P	分類	時期	出土遺物	備 考 ※重複関係(新-旧)
902	E20a	N-61'-W	楕円形	1.00×0.85	31	緩斜	平直	自然		B I b1			
903	E20a	N-74'-W	不整形円形	1.76×1.45	36	外傾	平直	人為		B II b1		鉄管(馬)	
904	E19f	N-74'-W	楕円形	1.30×1.01	54	外傾	平直	自然		B II b2			
905	E19f	N-66'-W	楕円形	2.15×1.92	53	外傾	平直	自然		B II b2			
906	E19f	N-4'-W	円形	0.96×0.95	20	外傾	平直	自然		A II a1			
907A	E20f	N-2'-W	不整形円形	0.80×0.79	22	外傾	屈状	自然		A II a1			SK-907B不明
907B	E20f	N-60'-W	楕円形	0.79×0.55	10	外傾	平直	自然		B II a1			SK-907A不明
908	E20f	N-72'-W	不整形円形	1.93×1.86	20	外傾	平直			A II b1			SD-2→本跡
909	E19e	N-48'-W	円形	2.32×2.74	38	外傾	平直	自然	4	A II c1	加賀利 E	縄文土器	SD-35→本跡
910	E20e	N-88'-W	楕円形	3.43×2.73	30	外傾	屈状	自然		B II c1	加賀利 E I-II	縄文土器	
911	E19e	N-36'-W	楕円形	2.48×2.15	24	外傾	平直	自然	1	B II c1	加賀利 E	縄文土器	SD-36→本跡
912	E19e	N-85'-W	不整形円形	3.29×2.96	26	外傾	平直	人為	2	B II c1	加賀利 E	縄文土器	
913	E19d	N-57'-E	不整形円形	2.25×1.82	53	外傾	平直	人為	1	B II c2	加賀利 E	縄文土器	SD-37→本跡
914	E19f	N-26'-E	楕円形	2.60×2.05	51	外傾	平直	自然	6	B II c2	加賀利 E II	縄文土器	SD-27→本跡
915	E19d	N-85'-W	楕円形	3.63×2.74	15	緩斜	平直	自然	3	B I c1	加賀利 E II-III	縄文土器	
916	E19e	N-47'-E	不整形円形	3.54×2.76	78	外傾	平直	人為	4	B II c2	加賀利 E II	縄文土器	SD-27→本跡
917	E19e	N-56'-W	円形	2.75×2.52	32	外傾	平直	自然		A II c1			
919	E20f	N-30'-E	円形	0.75×0.71	18	緩斜	平直			A I a1			
920	E19e	N-19'-W	不整形円形	1.72×1.32	22	外傾	平直	自然	1	B II b1			
921	E20f	N-56'-W	楕円形	2.60×2.36	26	外傾	平直	自然	1	B II c1			SD-35→本跡
923	E19b	N-53'-W	楕円形	2.05×1.75	31	外傾	凸凹	自然		B II c1	中期		
925	E19c	N-27'-E	楕円形	1.22×1.04	72	外傾	平直	人為		B II b2			SD-38→本跡
930	E19g	N-17'-W	楕円形	0.91×0.78	28	外傾	平直	自然		B II a1			
962	E19e	N-46'-W	円形	1.06×0.97	16	緩斜	凸凹	自然	1	A I b1			
963	E18e	N-64'-W	不整形	2.76×1.23	21	緩斜	凸凹	自然		B I c1	中期	縄文土器	
964	E19g	N-44'-W	【楕円形】	(1.81)×1.19	19	緩斜	凸凹	自然	1	B I b1	加賀利 E	縄文土器	SK-973不明
966	E19g	N-50'-W	円形	0.80×0.74	43	外傾	屈状	自然		A II a1			
968	E18c	N-69'-W	楕円形	1.46×1.11	12	外傾	平直	自然		B II b1	加賀利 E	縄文土器	
971	E19d	N-73'-W	不整形円形	2.05×1.45	27	外傾	平直		1	B II c1			
973	E19g	38°0'	【不整形方形】	(2.61)×1.72	27	緩斜	平直	自然	1	C I c1	加賀利 E I-III	縄文土器	SD-39→本跡, SK-964不明
974	E18f	N-75'-W	【楕円形】	(1.87)×(1.27)	42	緩斜	平直	自然		B I b1			SK-996不明
975	E19f	N-25'-E	円形	1.70×1.55	22	緩斜	屈状	自然	1	A I b1	加賀利 E III	縄文土器	SD-40不明
976	E19f	N-19'-W	円形	1.52×1.40	38	外傾	平直	自然		A II b1	中期	縄文土器	
977	E19g	N-30'-E	【脚形】	(1.15)×1.12	50	外傾	屈状	人為	1	B II b2	中期	縄文土器	SK-1006不明
978	E19h	N-76'-W	【楕円形】	(1.75)×1.38	25	外傾	平直	自然		B II b1	加賀利 E	縄文土器	SK-1007不明
979E	E19e	N-81'-W	卵形	1.50×1.46	57	外傾	平直			B II b2			SK-979A→本跡
980	E19f	N-6'-W	不整形	0.83×0.74	15	外傾	凸凹		3	B II a1			
981	E19f	N-16'-W	楕円形	0.78×0.65	27	外傾	屈状			B II a1			
982	E19e	N-35'-E	不整形方形	1.32×0.65	15	外傾	平直	自然	2	C II b1	中期	縄文土器	
983	E19f	N-63'-E	楕円形	1.52×1.42	44	外傾	平直	自然		B II b1	加賀利 E III	縄文土器	本跡→SK-986, SK-1029不明
984	E18c	N-47'-W	【長方形】	(1.99)×0.90	82	垂直	平直	人為		C II c2			SD-38→本跡
985	E18f	N-46'-W	楕円形	2.54×1.03	20	外傾	平直	自然	3	C II c1			
986	E19f	N-42'-E	楕円形	(3.46)×2.92	12	外傾	平直	自然	5	B II c1	加賀利 E	縄文土器	SK-983→本跡
988	E19f	N-56'-W	不整形	2.21×(1.60)	21	外傾	平直	自然		B II c1	中期	縄文土器	SK-987→本跡
989	E19h	N-15'-E	楕円形	2.64×2.13	52	外傾	平直	人為	1	B II c1	加賀利 E III	縄文土器	

土坑 番号	位置	長×幅 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ	壁面	底面	覆土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※重複関係(新-旧)
990	H18a	N-30'-E	不整形円形	3.06×2.95	65	垂直	平坦	自然	2	BⅡc2	加群利EⅢ	縄文土器	
991	H18a	N-25'-W	楕円形	1.84×1.69	69	外傾	平坦	自然	3	BⅡb2	加群利EⅡ-Ⅲ	縄文土器	
992	H18a	S-52'-W	(楕円形)	3.05×1.93	38	緩斜	凸凹	自然	5	BⅡc1	加群利EⅡ	縄文土器	
993	H19j	N-74'-E	(楕円形)	2.42×1.96	31	外傾	屈状	自然	1	BⅡc1	中期	縄文土器	本跡→SK-994
994	H19j	N-10'-E	(楕円形)	2.06×1.84	35	外傾	屈状	自然	1	BⅡc1	加群利E	縄文土器	SK-993→本跡, SK-1029不明
996	H18a	N-74'-W	楕円形	2.01×1.36	65	外傾	平坦	自然	2	BⅡc2	加群利EⅢ	縄文土器	SK-974不明
998	H18i	N-14'-W	楕円形	2.05×1.72	52	外傾	平坦	自然	3	BⅡc2			
999	H18a	N-66'-W	(扇形)	1.43×1.30	31	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1			本跡→SK-1000
1000	H18a	N-3'-E	(楕円形)	1.85×1.46	30	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1	加群利E	縄文土器	SK-995・999→本跡
1001	H19j	N-71'-E	楕丸長方形	1.82×1.23	73	外傾	凸凹	人為	1	CⅡb2	加群利E	縄文土器	
1002	H19j	N-60'-W	不定形	2.86×1.56	67	外傾	平坦	人為	3	DⅡc2	加群利E	縄文土器	本跡→SI-220, SK-1024不明
1003	H19j	N-85'-W	不整形円形	2.26×1.67	36	外傾	平坦	自然	3	BⅡc1	加群利E	縄文土器	本跡→SI-221
1004	H19a	N-62'-W	楕円形	2.45×2.17	37	緩斜	凸凹	自然	1	BⅡc1	加群利E	縄文土器	
1005	H19a	N-25'-W	扇形	1.94×1.82	37	外傾	平坦	自然	2	BⅡb1	加群利E	縄文土器	
1006	H19a	N-67'-W	(楕円形)	1.38×(1.11)	33	外傾	屈状	自然	3	BⅡb1			SK-977不明
1007	H19a	N-64'-W	円形	1.68×1.62	81	外傾	平坦	自然	1	AⅡb2	中期	縄文土器	SK-978不明
1011	H19a	N-64'-W	(楕円形)	1.60×1.09	23	緩斜	平坦	自然	1	BⅡb1	中期	縄文土器	SK-1015不明
1012	H19a	S-16'-W	(円形)	1.50×1.80	36	緩斜	屈状	自然	1	AⅡb1	加群利EⅡ-Ⅲ	縄文土器	SK-1013→本跡
1013	H19a	N-20'-W	楕円形	2.75×2.15	75	外傾	平坦	人為	3	BⅡc2	加群利EⅡ-Ⅲ	縄文土器	本跡→SK-1012
1014	H18j	N-18'-W	楕円形	1.74×1.41	124	外傾	平坦	人為	3	BⅡb2			
1015	H19a	N-22'-E	楕円形	3.06×2.11	105	外傾	平坦	自然	3	BⅡc5	加群利E	縄文土器	SK-1016→本跡, SK-1011不明
1016	H19a	N-85'-E	楕円形	1.30×1.02	25	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1		縄文土器	本跡→SK-1015
1017	H19a	N-26'-W	楕円形	3.06×2.33	75	外傾	平坦	自然	3	BⅡc5	加群利EⅢ	縄文土器	本跡→SK-1033
1020	H19a	N-36'-W	扇形	1.75×1.35	46	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1	加群利EⅡ	縄文土器	
1021	H18i	O-84'-E	(円形)	1.78×1.65	88	外傾	平坦	人為	3	AⅡb2	加群利EⅢ	縄文土器	SK-1026不明
1023	H19a	N-2'-W	(楕円形)	1.96×1.68	23	外傾	平坦	自然	2	BⅡb1	中期	縄文土器	本跡→SI-220
1024	H19j	N-26'-W	不整形円形	3.02×2.26	34	緩斜	段差	自然	3	BⅡc1	中期	縄文土器	SK-1002不明
1025	H18a	N-21'-W	不整形方形	1.36×0.82	11	緩斜	凸凹	自然	5	CⅡb1			
1026	H18i	N-30'-W	楕円形	1.30×1.16	23	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1	加群利E	縄文土器	SK-1021不明
1027	H18i	N-67'-E	不整形円形	2.63×2.13	25	外傾	平坦	自然	3	BⅡc1	加群利EⅡ-Ⅲ	縄文土器	
1028	H19j	N-87'-E	(楕円形)	1.86×1.16	15	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1			本跡→SI-221
1029	H19j	N-78'-W	(楕円形)	2.54×(1.50)	48	外傾	平坦	自然	3	BⅡc1	加群利EⅡ-Ⅲ	縄文土器	SK-983・994不明
1030	H19a	N-28'-W	(楕円形)	1.74×1.34	22	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1			本跡→SK-1015
1032	H19a	N-14'-W	楕円形	2.97×2.55	102	外傾	平坦	自然	5	BⅡc5	加群利EⅡ	縄文土器	
1033	H19a			2.23×(1.25)	40	外傾	平坦	自然	3	BⅡc1	加群利EⅡ-Ⅲ	縄文土器	SK-1017→本跡
1034	H19c	N-70'-W	不定形	2.69×2.39	45	外傾	平坦	自然	3	BⅡc1	加群利EⅡ	縄文土器	SI-223不明
1035	H19c	N-68'-W	不整形円形	1.74×1.21	27	外傾	平坦	自然	3	BⅡb1	加群利EⅡ	縄文土器	SI-223不明
1036	H19c	N-14'-E	円形	2.53×2.42	45	外傾	屈状	自然	1	AⅡc1	加群利EⅢ	縄文土器	北部に不定形のピット状の落ち込み
1039	H19a	N-55'-W	不定形	1.91×0.95	27	外傾	平坦	自然	1	AⅡa1			
1042	H18f	N-65'-W	(楕円形)	(1.30)×0.74	35	緩斜	平坦	自然	3	CⅡb1			
1043	H20j	N-3'-W	楕円形	1.66×1.32	33	緩斜	平坦	自然	3	BⅡb1		縄文土器, 内鉄	

(5) 溝

E区では15条の溝を検出した。ほとんどの溝が掘り込みが浅く、遺物が極少量で、時期や性格等は不明である。ここでは形状に特徴が見られる1条についてのみ記述し、その他は一覧表に記載する。

なお、各溝の断面図はここで掲載するが、配置や全体の形状については付図を参照されたい。

第38号溝 (付図・第525図)

位置 調査区の北西部, H19bs~H18co区。

重複関係 本跡は、第925号、969号及び984号土坑を掘り込んでいる。第27号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅1.6~2.3m, 下幅0.1~0.4mで、深さ50~77cm, 全長(35.3)mである。薬研掘りで、断面は「V」字状をしている。北東部(H15cs区付近)は中央が高まりがあり、断面形は「W」字状を呈する。方向 H15bs区から南(N-168°-W)へ直線的に延び、H19e区ではほぼ直角に曲がって西方向に延び、H19d区でクランク状に曲がった後、さらに西方向に延びている。

覆土 5層からなる。2層にロームブロックを多量含む。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭七粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量、炭化物・ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量、ローム中ブロック少量

遺物 覆土中から極少量の縄文土器片と第526図1の磁器、2の須恵器及び3の磨製石斧が出土している。

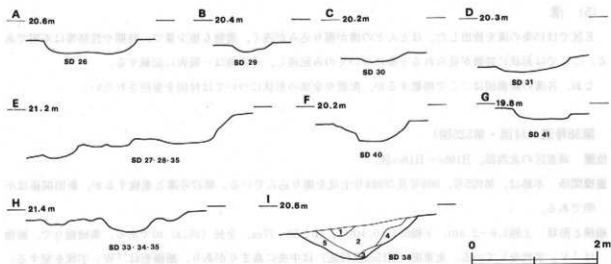
第526図2は須恵器片の拓影図である。器面に細かな平行敷きが見られる。

第38号溝出土遺物観察表

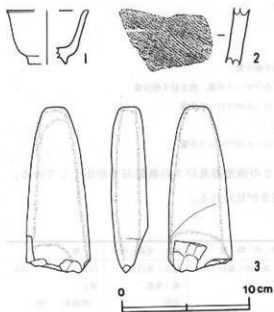
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第526図 1	磁器	A(6.4) B 4.3 D(3.0) E 0.7	底縁から口縁部にかけての破片。 高台は直立し、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	ロクロ成形。刮り出し高台。	粘土:灰白色 輪:青緑 良好	F13 25% 覆土 (肥前系) 18c

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第526図3	磨製石斧	(13.0)	5.1	2.9	(291.1)	砂 形	06 刃部欠損 覆土

所見 遺物は流れ込みと思われるものが極少量出土しているだけで、時期や性格は不明である。本跡は、E区に見られる他の溝と異なり、薬研掘りの深い溝でクランク状を呈している。本跡の西部はさらにF区に延びている。



第525図 溝土層・断面実測図



第526図 溝出土遺物実測・拓影図

表10 前田村遺跡E区溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 ※重要関係(前→后)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	敷設(m)					
26	H20a ₁ ~120c ₁	北→南	直線状	25.0	1.3~2.5	0.8~2.1	22	外傾	平坦	自然		
27	H19d ₁ ~120c ₁	西→東→南	クランク状	70.9	0.6~1.5	0.2~0.8	38	緩斜	平坦	自然		本跡→D-25-32→E-32-912-914-916-922-931-959, S2-284等, 部分的に直線状
28	H20i ₁ ~120c ₁	西→東→南	L字状	28.3	0.6~1.1	0.2~0.5	16	緩斜	平坦	自然		S2-27→本跡, S2-33と連続か
29	I20a ₁ ~120c ₁	北→南	直線状	8.2	0.4~0.9	0.3~0.6	10	緩斜	平坦	自然		SK-902不明
30	I20b ₁ ~120c ₁	北→南	直線状	6.6	0.5~0.8	0.3~0.5	10	緩斜	平坦	自然		
31	I20a ₁ ~120c ₁	西→東→南	L字状	12.1	0.5~1.2	0.3~0.9	11	緩斜	平坦	自然		
33	H20e ₁ ~H20b ₁	北→南	直線状	12.9	0.8~1.1	0.2~0.3	25	緩斜	緩状	自然		S2-27→本跡, S2-28と連続か
34	H20e ₁ ~H20b ₁	北→南	直線状	12.7	0.3~0.6	0.1~0.2	16	緩斜	緩状	自然		S2-27・33→本跡
35	H20f ₁ ~H20i ₁	北→南→東	L字状	23.2	0.4~1.0	0.2~0.7	10	緩斜	平坦	自然		S2-27→本跡→SK-921
36	H19f ₁ ~H20e ₁	西→東	直線状	16.4	1.0~3.0	0.8~2.2	27	外傾	平坦	自然		S2-37→本跡→SK-909・911
37	H19e ₁ ~H19a ₁	西→東→南	L字状	10.2	1.0~2.9	0.8~2.2	24	外傾	平坦	自然		本跡→SK-35, SK-913・920・922
39	H19g ₁ ~H19b ₁	西→東	直線状	9.1	0.9~2.9	0.5~2.6	10	外傾	平坦	自然		本跡→SK-973, SK-985不明
40	H19a ₁ ~H18j ₁	北→南	直線状	8.7	0.6~1.3	0.4~0.9	31	緩斜	平坦	自然		SK-974・975不明
41	I19a ₁ ~I19d ₁	西→東	僅かに蛇行	11.1	0.6~1.3	0.4~0.8	15	外傾	平坦	自然		

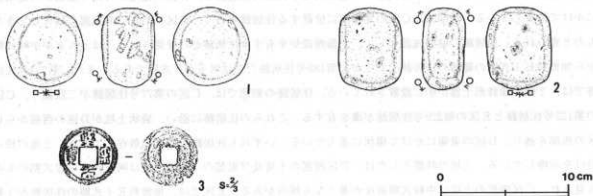
(6) 遺構外出土遺物

E区からも、直接遺構に伴わない土器片、石製品及び古銭が出土している。しかし、土器片は極少量でいずれも細片であり、ここでは石器2点の実測図と古銭1点の拓影図及びその観察表を掲載する。

遺構外出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値				材質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第527図1	磨石	6.2	6.0	4.1	233.5	安山岩	07 磨石兼用 表押
	磨石	6.5	5.2	3.5	180.4	安山岩	08 磨石兼用 表押

図取番号	器種	計測値		初鑄年		出土地点	備考
		直径(cm)	重量(g)	時代	年号		
第527図3	磨卒元寶	2.4	3.2	北宋	1068	表 表 裏	



第527図 遺構外出土遺物実測・拓影図

第4節 まとめ

当遺跡の調査により明らかになった遺構は、竪穴住居跡170軒（C区-84, D区-82, E区-4）、地下式溝7基（C区-4, D区-1, E区-2）、井戸3基（D区-1, E区-2）、土坑873基（C区-437, D区-330, E区-106）、溝23条（C区-8, E区-15）である。これらの遺構は、縄文時代中期から晩期にかけてのものと、中・近世のものがほとんどであるが、ここでは該当する時代の概要を述べ、まとめたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構及び遺物集中地点は確認されなかったが、D区東部の第1146号土坑から黒曜石製のナイフ形石器、第1098号土坑から頁岩製の彫器と見られる石器が出土している。いずれも覆土上層から出土しており、流れ込みと思われる。

縄文時代

当遺跡の中心となる時期で、遺物は縄文時代前期から晩期にかけて、遺構は縄文時代中期から晩期にかけて検出されている。前期の遺物はC区で黒浜式の土器片が、D区で浮島式の土器片が各1点出土しているだけで、この時期に該当する遺構は見られない。集落が営まれたのは中期中葉以降で、大きく6期に区分することができる。

I期 中期中葉前後 26軒（C区-18, D区-7, E区-1）

II期 中期後葉前後 69軒（C区-30, D区-36, E区-3）

III期 後期前葉前後 22軒（C区-13, D区-9）

IV期 後期中葉前後 3軒（D区-3）

V期 後期後葉前後 13軒（D区-13）

VI期 晩期前葉前後 6軒（D区-6）

※ 時期特定困難なものは除く。

I期（阿玉台式期-加曾利E I式期）

該期の住居跡は26軒である。阿玉台式期はII式期1軒、III式期2軒、IV式期2軒の5軒だけであり、圧倒的に中幹式期以降の住居跡が多い。C区の北西部から中央部にかけてまとまりが1か所みられ、D区では西部に6軒、東部に2軒当該期の住居跡が散在しているが、中央部には見られない。阿玉台式期の住居跡の配列に位置的な規則性は見られないが、中幹式期から加曾利E I式期の住居跡は、D区の窪地から見て北側から北東側にかけて位置している。時間的にC区の北西部に位置する住居跡が古く、D区に向かい南東部に移行してきたものと思われる。住居跡の屋内施設として、土器埋設炉を有する住居跡が1軒見られる。ほとんどが中幹式期から加曾利E I式期の範疇の住居跡であるが、第188号住居跡だけは阿玉台IV式期である。また、第231号住居跡では、2個の深鉢形土器が炉に設置されている。住居跡の形態では、C区の第77号住居跡が二段掘り、C区の第122号住居跡とE区の第220号住居跡が溝を有する。これらの住居跡に沿い、袋状土坑がD区の西部からC区の西部を通り、D区の東側にかけて環状に並んでいる。いずれも住居跡の西側に散在しており、土地の使い分けを示唆している。土坑の時期としては、D区西部の土坑及び東部の一部の土坑は阿玉台III-IV式期のものも見られ、C区西部の土坑は中幹式期前後が多くなる傾向がある。E区では、加曾利E I式期の住居跡が1軒検出されたが、D区の東部から未調査区を弧状に南下し、E区に伸びる可能性をうかがわせている。

Ⅱ期（加曾利EⅡ～Ⅳ式期）

該期の住居跡は69軒で、最も数が多い。C、D、E区に散在しており、D区の中央部の窪地を囲むように環状に住居跡が配列し、未調査区を挟んでE区まで達していると思われる。時期的には加曾利EⅢ式期の住居跡が最も多く、31軒である。次に加曾利EⅡ式期11軒、加曾利EⅣ式期8軒となっている。このほか、加曾利EⅠ～Ⅱ式期が5軒、加曾利EⅡ～Ⅲ式期が2軒、加曾利EⅢ～Ⅵ式期が4軒、時期の特定できない中期後半が8軒含まれている。加曾利EⅡ式期前後の住居跡は、D区の未調査部分を挟んでD区の中央部から東部にかけての北側とC区の中央部南側に点在しており、D区の窪地からは北東側に広がっている。加曾利EⅢ式期前後の住居跡は、D区の未調査部分が不明であるが、D区の窪地を囲んで環状に点在していると思われる。加曾利EⅢ式期の住居跡は、平成4年度調査のA区からも検出されており、A、C、D区にこの時代の集落が継続的に存在したと思われる。加曾利EⅣ式期の住居跡はC区の中央部やや西側にまとも検出されているが、軒数的には加曾利EⅢ式期ほどの隆盛は見られない。住居跡の形態で特徴が見られるのは、C区の第76号住居跡、D区の第208号住居跡が壁溝を有していることである。また、炉の形態としては石囲い炉が2軒、土器片囲い炉が3軒、土器埋設炉が8軒、土器片囲い土器埋設炉が1軒、土器片石囲い炉が1軒、石囲い土器埋設炉が1軒見られる。土坑はこの時期になると袋状の形態が見られなくなり、円筒状に掘り込んで小ピットを有するものが多くなる。また、D区中央部からは加曾利EⅡ式期頃の人骨が出土していることから、この周辺に形態の似た土坑や人骨片を伴う土坑があることを考えると、墓域を形成していた可能性がある。位置的にはD区の窪地の北側で、加曾利EⅡ～Ⅲ式期の住居跡の南側にあたり、窪地に傾斜する境にまともに見られる。

Ⅲ期（称名寺式期～堀之内式期）

該期の住居跡は22軒である。C区中央部やや西側のD区寄りに13軒、D区北西部に9軒まともっている。D区の住居跡は称名寺式期から堀之内式期にかけてのものが多く、C区はすべて堀之内式期である。D区の住居跡が先行し、北東部に移行していったと思われる。C区の第62号、74B号、75号住居跡は柄鏡形住居である。また、C区の第75号住居跡とD区の第100号住居跡に土器埋設炉、同じくD区の第99号、187号住居跡に埋設土器が見られる。この時期のC区の住居跡の炉は、ほとんどがローム面と同レベルで確認されている。住居を構築する際、ローム面から下にはあまり掘り込まず、床をロームの上面付近の高さに作っていたと思われる。そのため壁の立ち上がりがとらえにくく、平面形のはっきりしないものが見られる。

Ⅳ期（加曾利B式期）

この時期の住居跡は、窪地を囲むように3軒が点在しているだけである。遺物も他の時期に比較して希薄であり、当遺跡での人々の活動がやや沈静化した時期と思われる。

Ⅴ期（曾谷式期～安行Ⅱ式期）

該期の住居跡は13軒である。再び集落が営まれるが、中期ほど拡散しない。窪地を囲むように、D区の北東部から北西部にコンパクトにまともっている。第108号住居跡がこの時期の住居跡としては残りが良く、炉はローム面に構築されており、壁の立ち上がりもとらえることができた。しかし、他の住居跡は掘り込みが浅く、黒色土で止められているものが多い。遺物は異形土製品や土偶など祭祀に用いられたと思われるものも多く、108号住居跡からは異形台付土器がほぼ完全な形で出土している。土坑は、この時期から規模が径1m前後、深さ150cmほどの円筒状のものが目立つようになる。これらの土坑は、廃絶されたあと、廃棄物の投棄場所的な性格をもちながら埋没していったと思われ、覆土からは土器片に混じって獣骨片や貝、灰等が出土している。

Ⅵ期（安行Ⅲa～Ⅲb）

該期の住居跡は6軒である。これらは、D区の窪地の北側から北西部にかけてままとまっている。掘り込みはさらに浅く、壁の立ち上がりをとらえられないものがほとんどである。この時期の土坑の中でも、Ⅴ期に出現した円筒状の土坑はさらに深くなり、200cmを越えるものも数基見られる。これらの土坑も窪地を囲むように弧状に位置しているが、配列や間隔に規則性は見られない。また、この時期の第767号土坑からは、埋葬された胎児の遺体1個体分が出土している。このⅥ期をもって、C、D、E区における人々の活動の痕跡は見られなくなり、中世まで空白の期間となる。

最後に若干の付け加えをして縄文時代をまとめたい。D区の中央部からはおびただしい数の獣骨片と貝、魚骨片が出土している。これらの獣骨、貝、魚骨等は、前田村遺跡に集落跡が構成されたすべての時期に見られ、土坑等に廃棄されたものが多く、灰混じりの覆土から出土している。獣骨は、イノシシ、シカのほか、タヌキ、キツネ、ウサギ等の小型獣も見られる。出土した骨片には鳥類も含まれており、前田村遺跡の縄文時代に、これらの動物が食用とされていたことがうかがわれる。しかし、獣骨の出土が著しいのはD区に限られ、C区からは貝が少量、E区からは古代以降の馬骨が出土しているだけである。

中世

中世の遺物はほとんど出土していないが、形態から中世と思われる遺構が検出されている。C区の西端部及びD区の北西端部からは地下式墳が検出されている。また、C区の地下式墳の付近からは方形竈穴状遺構が検出されており、地下式墳とセットと考えられる。

E区からも地下式墳と方形竈穴状遺構のほかに、中世の墓塚に形態が類似している長方形の土坑が西部から検出されている。人骨が出土していないため根拠には欠けるが、中世の墓塚がE区西部から、西側に隣接する平成6年度調査のF区にかけて形成されていた可能性を示唆していると思われる。また、E区北西部からは、F区に延びている薬研掘りのクランク状の溝も検出されている。これらE区の地下式墳と関連すると思われる他の遺構の性格については、F区の調査成果が報告されることによりさらに明らかになることと思われる。

近世

近世の遺構と思われるのはC区で検出された粘土張り遺構群である。C区の東端部と中央部やや東側に集中しており、これらは平成4年度調査のA区に点在した粘土張り遺構と形状や確認状況が酷似しており、同性格のものと思われる。

これらの粘土張り遺構は全部で18基検出されている。そのうち第362号、363号、364号土坑は1グループとして、第639号と666号土坑、第675号と685号土坑、第657号と658号土坑、第653号と654号土坑、第603号と605号土坑、第688号と689号土坑はそれぞれ対になって検出されていることから、これらは家族または親族単位の墓であった可能性が考えられる。この対になった第639号、666号、675号、685号、657号、658号、653号、654号土坑の8基は近接しており、大きなグループとしてとらえることもできる。また、第603号、605号、688号、689号土坑の4基も近接しており、同様の見方ができる。遺物は第654号、657号、675号、688号、689号土坑から陶磁器や土師質土器、煙管、砥石等が出土しており、副葬品と考えられる。

また、第369号、574号土坑は単独で検出されたが、副葬品と思われる染付の椀が第369号土坑から、染付の皿が第574号土坑から出土しており、墓塚と判断した。

このほか単独で検出され、副葬品と思われる遺物がなく、規模的にも小形のものは墓塚とは区別し「流し溜」

と判断した。

参考文献

- ・茨城県教育財団 『伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 西ノ脇遺跡 前田村遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第87集」 1994年3月
- ・茨城県教育財団 『茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 高崎貝塚』 「茨城県教育財団調査報告第88集」 1994年3月
- ・茨城県教育財団 『水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3 大谷津A遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第28集」 1985年3月
- ・茨城県教育財団 『水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 大谷津B遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第18集」 1983年3月
- ・茨城県教育財団 『水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 筒戸A・B遺跡』 「茨城県教育財団調査報告第24集」 1984年3月
- ・茨城県教育財団 『一般県道西小湫真岡線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 裏山遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第73集」 1992年3月
- ・茨城県教育財団 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書16 南三島遺跡3・4区(1)』 「茨城県教育財団調査報告第44集」 1987年3月
- ・茨城県教育財団 『（仮称）北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡』 「茨城県教育財団文化財調査報告第102集」 1995年12月
- ・縄文時代研究班 『関東地方における縄文時代中期の「有段式堅穴遺構」について』 「研究ノート5号」 茨城県教育財団 1996年6月
- ・吉原作平 『粘土張り遺構についての一考察—前田村遺跡の粘土張り遺構を取り上げて—』 「研究ノート3号」 茨城県教育財団 1994年6月
- ・新宿区内藤町遺跡調査会 『内藤町遺跡—放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—』 1992年3月
- ・東北大学文学部考古学研究会 『縄文時代晩期貝塚の研究2 中沢目貝塚Ⅱ』 1995年7月
- ・財団法人市原市文化財センター 『市原市能満上小貝塚』 「財団法人 市原市文化財センター調査報告書第55集」 1995年3月
- ・取手市教育委員会 『取手市史 原始古代（考古）資料編』 1991年3月
- ・市立市川考古博物館 『堀之内貝塚資料図譜』 「市立市川考古博物館研究調査報告 第5冊」 1992年10月



作業風景（遺構確認）



作業風景（掘り込み・実測）

付 章

前田村遺跡出土の動物遺体について

国立歴史民俗博物館考古研究部助教授 西本豊弘

貯蔵穴や住居跡覆土から貝殻や魚骨・獣骨が少量ずつ出土した。それらの中には人骨も混じっていた。これらの資料の大部分は縄文時代のものであるが、古代以降の資料も少量含まれている。これまでに判明した種は、表に示したとおりである。

1 貝類

貝類では、ヤマトシジミがもっとも多く出土した。特に、467号土坑では左右の貝殻を合わせて1690個がまとまって出土した。殻長20-35mmのものが含まれており、そのうち25mm前後のものが多い。イシガイ・マツカサガイ・オオタニシなどの淡水産の貝類の他、アワビ類やハマグリ・シオフキ・サルボウなどの鹹水産貝類が含まれていることが注目される。

2 魚類

ウナギ・フナ・ボラ・タイ類の4種が見られた。ウナギは、関東地方の川沿いの遺跡ではよく出土する種である。この遺跡での出土量は少ないが、実際には多く利用されていたであろう。フナは、811号土坑の注口土器内から出土したもので、体長数センチメートル程度の小さいフナの骨が1匹分であった。このような小さなフナは、岩井市高崎貝塚でも大量に出土しており、用途が分からない資料であった(注1)。この遺跡で、注口土器の中から出土したことが偶然の結果でないとしたら、フナの用途を示唆するものかもしれない。もう少し類例がほしいものである。タイ類の椎骨は体長40cm程度の大きなタイの椎骨であった。出土層位が①層であり、新しいものの混入の可能性もあるが、保存状態は縄文時代のものとして不自然ではない。ボラとタイ類は、ヤマトシジミの採取時に捕獲したものが、または交易で手に入れたのであろう。

3 哺乳類

シカ・イノシシ・ノウサギ・タヌキ・イヌ・ウマ・ヒトが出土している。この中でシカとイノシシが主体であるが、大部分が断片的な出土である。しかし、イノシシは1056号土坑で頭蓋骨を含む若いメスの1個体分の骨が出土した。その中で、上腕骨は骨髄を食べるために割られていたが、その破片が接合した。イノシシを捕獲して解体し、食べた後の骨をまとめて捨てたのであろう。捕獲時の解体とその後の骨の処理を示す興味深い例である。ウマは古代以降のものである。

4 人骨

人骨が土坑から少量出土した。その内、841号土坑は墓塚であり、屈葬人骨が出土した(第1図参照)。この人骨は保存状態が悪く、頭蓋骨・大腿骨・脛骨などの一部が残っていただけである。上・下顎骨と歯は比較的よく残っていたが、触れると壊れる状態であった。成人であり、大腿骨が太くたくましいことから男性の可能性が高い。右側第2切歯が左右の歯よりも少し長いことから、右側上顎第2切歯が抜歯されていたかもしれない。

761号と785号・953号土坑でも人骨が出土しており、それらの土坑も墓塚であったかもしれない。なお、953号土坑は中世以降のものである。また、102号・190号住居跡の覆土でも人骨が出土しているが、なぜ人骨が含まれているのか分からない。1066号土坑からは子供の上腕骨が1点出土している。現存長は66mmであり、その大きさから胎児と判断した。

注1 西本豊弘・鶴見貞雄「高崎貝塚57号土坑出土の魚骨・獣骨の問題点」

研究ノート4号 茨城県教育財団 1995年

表 前田村遺跡出土動物遺存体種名表

- a 貝類
- 巻貝類
- 1 アワビ類 *Haliotis* sp.
 - 2 オオタニシ *Cipangopaludina japonica*
 - 3 ヒタチチリメンカワニナ *Semisulcospira libertina trachea*
 - 4 カワアイガイ *Cerithioidesapilla djadjariensis*
- 二枚貝類
- 5 サルボウガイ *Scapharca subcrenata*
 - 6 マツサカガイ *Inversidens japonensis*
 - 7 イシガイ *Unio douglasiae*
 - 8 ヤマトシジミ *Corbicula japonica*
 - 9 ハマグリ *Meretrix lusoria*
 - 10 シオフキガイ *Nectra veneriformis*
- b 魚骨
- 1 ウナギ *Anguilla japonica*
 - 2 フナ *Carassius auratus*
 - 3 ボラ *Mugil Cephalus Cephalus*
 - 4 タイ類 *Sparidae* gen
- c 鳥類
- 1 ガン類 *Anser* sp.
 - 2 カモ類 *Anas* sp.
- d 哺乳類
- 1 ノウサギ *Lepus brachyurus*
 - 2 タヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus*
 - 3 イヌ *Canis familiaris*
 - 4 イノシシ *Sus scrofa leucomystax*
 - 5 シカ *Cervus nippon*
 - 6 ウマ *Equus caballus*
 - 7 ヒト *Homo sapiens sapiens*

骨角器

獣骨に混じって、5点の骨角器が出土した(第1図参照)。1は、鹿角製の鎌である。基部が長いことから、本来の先端部はもっと長かったのであろう。現存長は54.2mmである。もし実用品であったとすると、鳥用の鎌であろうか。2も同様の鎌であり、先端は尖っていない。鹿角製で、現存長は54.7mmである。3は、断面が丸いことから、針の中間部分であろう。現存長70.5mmで、材質は鹿角と思われる。4は、シカの中手骨または中足骨製のヘラである。切断面はよく研磨されている。基部は少し破損し、先端部は折れている。現存長は100.4mmである。5は、サメの歯に1孔を開けた垂れ飾りである。側縁に鋸歯があり、三角形であることから、ホホジロザメの歯で作ったものであろう。現存長は26.1mmである。

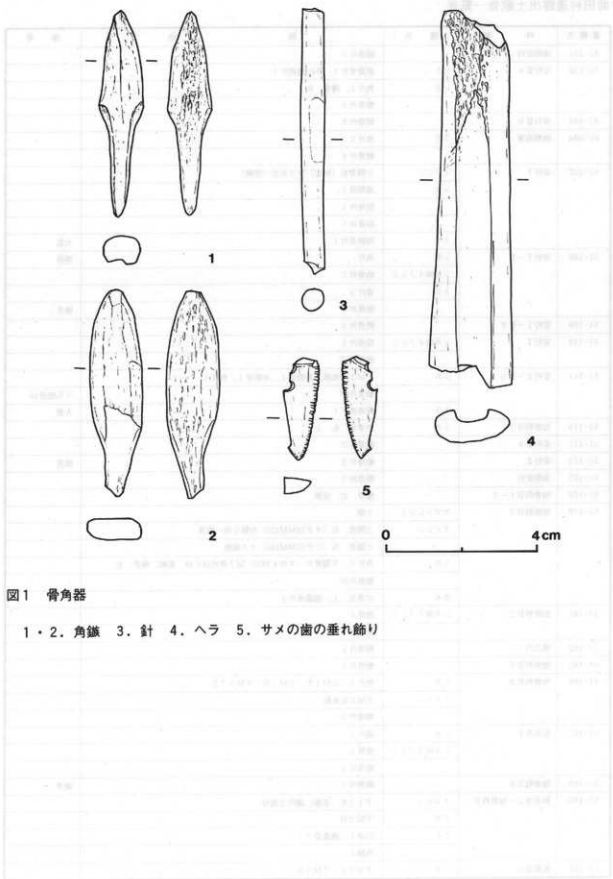


図1 骨角器

1・2、角鉤 3、針 4、ヘラ 5、サメの歯の垂れ飾り

前田村遺跡出土獣骨一覧表

遺 骨 名	時 期	種 名	部 位	備 考
S1-101	後期安行		獣骨片7	
S1-102	安行Ⅲ a	ヒト	頭蓋骨片1, 小臼歯破片1	
		シカ	角片1, 踵骨, 右	
S1-103	安行Ⅲ b		獣骨片5	
S1-104	晩期前葉	シカ	角片2	
S1-107	安行Ⅰ	イノシシ	上顎骨右 (M12) M3未出 (若獣)	
		シカ	基節骨1	
			肋骨片1	
			獣骨片6	
		トリ	四肢骨片1	大型
S1-108	安行Ⅰ～Ⅱ	シカ	角片	焼骨
		シカorイノシシ	肋骨片1	
		トリ	骨片1	
			獣骨片9	焼骨
S1-109	安行Ⅰ～Ⅲ a		獣骨片3	
S1-110	安行Ⅰ	シカorイノシシ	肋骨片1	
			獣骨片17	
S1-111	安行Ⅱ～Ⅲ b	シカ	TM3左成獣, 基節骨1, 末趾骨1, 角片1	
			獣骨片68	うち焼骨18
		トリ	腿骨右下1	大型
S1-115	加曾利Ⅱ2	シカ	中手骨, 右, 上	
S1-117	安行Ⅲ a		獣骨片7	
S1-172	安行Ⅱ		獣骨片3	焼骨
S1-175	後期安行		獣骨片3	
S1-176	加曾利Ⅱ1-2		踵骨, 右, 成獣	
S1-179	加曾利Ⅱ3	ヤマトシジミ	2個	
		イノシシ	上顎骨, 左 (xP1234M123) 右側と同一個体	
		*	上顎骨, 右 (CP1234M123) メス成獣	
		シカ	角片3, 下顎骨右 (x m 4 M12) M2萌出はじめ, 若獣, 踵骨, 右	
		カモ	尺骨左, 上, 頭蓋骨片1	
S1-181	加曾利Ⅱ2	シカorイノシシ	肋骨1	
			獣骨片1	
S1-182	彌之内1		獣骨片1	
S1-183	加曾利ⅡⅠ		獣骨片3	
S1-186	加曾利ⅡⅢ	シカ	角片1, 上M1左, 上M3右, 下M3?左	
		イノシシ	上M3左成獣	
S1-187	称名寺1	シカ	歯片1	
		シカorイノシシ	椎骨1	
			獣骨片2	
S1-189	加曾利ⅡⅡ		獣骨片1	焼骨
S1-190	称名寺2～加曾利Ⅱ	イノシシ	下I1左 (若獣), 歯片2個分	
		シカ	TM2右	
		ヒト	臼歯1, 頰歯骨?1	
			角歯1	
S1-191	後期安行	シカ	TM2左, 下M3左	

建群名	時期	種名	部	位	備考
SI-197		フナ	鱗破片1		
		サカナ	椎骨3 (小型)		小笠原内
SI-202	加群利E III		獣骨片2		
SI-204	加群利E 3		獣骨片9		
SI-205	加群利E II		獣骨片1		
SI-206	加群利E III		獣骨片3		
SI-207	加群利E II	シカ	角片1 (切斷痕)		
SI-213	加群利B-安行 I	イノシシ	下M3左成獣		
			獣骨片3		
SI-218	加群利E III		粉状骨片1		
SE-209	加群利E-安行	ウナギ	椎骨2 (大)		台付録内
			魚骨小片約50		
SE-291	安行Ⅲ a-Ⅲ b	アワビ	破片1		
		インガイ	12個		
		イノシシ	下, M2, 右, 成獣		
		イノシシ	下頷骨, 右, (m54M1)		
		イノシシ	尺骨, 右, 若獣?		
		イノシシ	尺骨, 左, 下, 成獣		
		イノシシ	脛骨, 右, 上, 成獣		
		イノシシ	腓骨, 破片		
		イノシシ	踵骨, 右, 成獣		
		イノシシ	踵骨, 左, 若獣?		
		サカナ	破片1		
		シカ	角? 製品 (破損品, 2条の溝を有する)		
		シカ	高節骨1		
		シカ	末節骨1		
		ケニシ類	4個		
		ハマグリ	左殻1		
		マツカサガイ	4個		
		ヤマトシジミ	104個		
			獣骨片44		
SE-325	安行I-Ⅱ	イノシシ	中手・中足骨片1		
			獣骨片約150片		焼骨
SE-467	中期		獣骨片1		
		ヤマトシジミ	1690個		
		カワアイガイ	5個		
SE-496	後期前葉	イヌ	頭蓋骨1個分, 下頷骨左 (P1-P3部分で, P4-M1のみ歯根残る)		
			寛骨左破片1, 椎骨片1, 歯破片3個分, 腓骨4, 肋骨片10		
SE-546	加群利E IV-堀之内1		粉状骨		
SE-613	中期		獣骨片1		
SE-662	堀之内	オオタニシ	24個		
SE-717	阿玉台Ⅲ-IV		獣骨片1		
SE-734A	阿玉台Ⅲ		小骨片約100		台付録内
SE-736		シカ	大腸骨, 左, 下, 破片1		
		シカ	中足骨破片1		
SE-738	加群利E II-B 2	大型巻貝	破片		アカニシ?
		シカ	角片1, 距骨右1, 末節骨1		
		イノシシ	中手・中足骨片1		
		トリ	尺骨片1		
		ガン	脛骨, 左, 下		ヒシタイと同大
			獣骨片20		

遺構名	時期	種名	部位	備考
SK-740	加曽利E I	イノシシ	踵骨, 左, 下, 成獣	
SK-761	加曽利E IV	イノシシ	下, I 1, 右, 成獣	
		イノシシ	下, I 1 (未出), 右, 若獣	
		イノシシ	下, I 2, 左	
		イノシシ	左, 第4中趾骨	
		イノシシ	上, M 2, 右, 成獣	
		イノシシ	下顎杖左・成獣	
		シカ	基節骨	
		シカ	基節骨1, 中節骨1	
		シカ	尺骨, 右	渡骨
		シカ	後頭部, 成獣 (左側頭部から頭頂部にかけて人為的に壊されている)	
		タニシ	3個	オオタニシ?
		ヒト	大腸骨, 巾開	
		ヒト	中手OR中趾骨	
		ヤマトシジミ	15個	
		中趾蹄獣	脛骨片1	
	獣骨片30	うち鹿骨2		
	陸獣肋骨破片1			
イノシシ	上, I12 (未出), 切歯骨, 右, 若獣			
SK-762	加曽利E IV	イノシシ	下顎骨, 右 (I12)	同一個体
		イノシシ	下顎骨, 左 (I12) 成獣, オス	同一個体
		イノシシ	大腸骨, 右, 下, 成獣	同一個体
		イノシシ	大腸骨, 左, 下, 成獣	同一個体
		イノシシ	踵骨1	
イノシシ	下顎右側大歯1, メス, ほげ成獣			
SK-763	中期	シカ	尺骨右1, 下顎関節突起右, 獣骨片18	
SK-766	加曽利E IV	イノシシ	中手OR中趾骨	
		シカ	角破片4	
		シカ	基節骨1	
		シカ	上, P 3, 左	
		シカ	中節骨1	
		シカ	橈骨, 右, 上, 成獣	
		シカ	脛骨, 左, 下, 成獣	骨端焼
		シカ?	上腕骨, 右, 破片	
			獣骨片12	うち鹿骨2
			陸獣肋骨破片1	
SK-767	安行Ⅱb	オオタニシ	3個	
		ヤマトシジミ	2個	
		シカ	角片1	
		イノシシ	上I1左, 上M3左 (摩滅小)	
			獣骨片11	
		ヒト	粘土一拵, 下顎骨 (歯なし), 肩甲骨左・右, 上腕骨左・右 (左側の長さ62.0mm), 橈骨1 (左・右不明), 尺骨右, 大腸骨左・右 (右側の長さ74.7mm), 脛骨1 (左・右不明), 肋骨片13	
SK-769	堀之内	イノシシ	橈骨下右破片1 (若獣)	
SK-773	中期	イノシシ	中手OR中趾骨	
		シカ	角破片1	
			獣骨片4	
			陸獣肋骨骨1	
SK-776	加曽利E IV	イノシシ	上腕骨右 (x x P 34M123) メス成獣	

遺構名	時期	種名	部	位	備考
SK-781	安行Ⅲa	イノシシ	上脛骨、左。(P1m234)m4不完全		
		イノシシ	中手骨		
		イノシシ	末趾骨1		
		ウサギ	大脛骨、左、下、成獣		
		サカナ	鱗片1		
		シカ	角破片6		うち焼骨1
		シカ	大脛骨、左、上、成獣		
		タニシ	4個		
		トリ	鱗片1		
	ヤマトシジミ	5個			
		獣骨片12		うち焼骨2	
SK-785	中期	ヒト	頭蓋骨片(側頭部)		
SK-786	加賀朝EⅠ-Ⅱ	シカ	角破片1		
		ヒト	臼歯片2個分(成人)、ヒト?四肢骨片1		
		イノシシ	上脛左端大端、ほぼ成獣		
		イノシシ	臼歯片1		
SK-790	加賀朝EⅢ-Ⅳ		焼骨小片約30		
SK-791	加賀朝EⅢ	シカ	中手骨片1		
SK-793	加賀朝EⅢ-安行		獣骨片3		
SK-795	加賀朝EⅢ-Ⅳ	イノシシ	上脛骨、右(P1234M123)M3ほぼ出		
		イノシシ	上脛骨、左(P34M123)		
		イノシシ	頭蓋骨1個体分		頭蓋
		シカ	下、M1、右		
SK-796	堀之内	シカ	角片2、下顎関節突起右		
		イノシシ	上腕骨、右、下、中手OR中足骨		
		カモ	尺骨右(ほぼ完全)		中型マガモと同大
			獣骨片7		
SK-797	中期-後期	シカ	歯片1個分		
SK-801	阿玉台Ⅲ-Ⅳ	タヌキ	下脛骨左・右、頭蓋骨破片1		
		シカ	基趾骨1		
		トリ	骨片1		
		トリ	上腕骨左・右		中型 カモ?
			獣骨片1		
SK-807	加賀朝EⅠ-Ⅱ	イノシシ	下M3左		未出揃?
SK-810	加賀朝EⅡ	イノシシ	上脛骨(xP1x)メス成獣		
		シカ	角座部分(切頭品)		
			獣骨片1		
SK-811	安行Ⅰ	フナ	頭蓋骨、左、小、稚骨15、咽頭歯1、前頭蓋骨		
					獣骨片2
SK-814	加賀朝EⅢ		獣骨片2		
SK-825	堀之内1	イヌ	下脛骨、右、成獣		
		イノシシ	歯		
			獣骨片3		
			脛骨、右		
SK-837	加賀朝EⅡ		指状骨		
SK-841	中期	ヒト			墓
		イノシシ	下M3右成獣		
SK-842	中期		獣骨片10		
SK-845	安行Ⅰ		獣骨片1		
SK-847			獣骨片7		

遺骸名	時期	種名	部位	備考
SK-850		イノシシ	歯1	
			獣骨片15	焼骨15
SK-854	加曽利B1-安行Ⅲa	シカ	歯破片1	
			獣骨片1	
SK-865	後期中葉-後葉	イノシシ	肩甲骨, 左	焼骨
SK-866	加曽利BⅡ	シカ	椎骨, 右, 下, 成獣	
SK-867	加曽利BⅡ-Ⅲ	?	骨粉	
		イノシシ	下, M3	
SK-871	加曽利E		獣骨片1	
SK-881	後期		乳歯? 椎状骨	
SK-886	中期末-後期	イノシシ	上顎骨, ? (P1m234M12) M2不完全メス	
		シカ	基節骨1	
			獣骨片1	
SK-903		ウマ	下, 歯1, 老獣	
		ウマ	下顎骨, 右 (P234M123) 老獣	
		ウマ	上, 歯2, 老獣	
		ウマ	大腿骨?, 脛骨, 中手0R中足骨	
SK-944		シカ	中手骨上左, 獣骨片1	
SK-947	後期中葉	イノシシ	歯片1, 中手・中足骨片1	
SK-949	安行Ⅲa	イノシシ	上顎骨, 右 (P4M123) M3不完全メス	
		イノシシ	上顎骨, 左 (CP234M123) M3不完全メス	
		イノシシ	下顎骨, 関節突起1, 右, 老獣	
		イノシシ	下顎骨, 関節突起1, 右, 若獣	
		イノシシ	中手0R中足骨2個	
		イノシシ	頸蓋骨1個体分	
			獣骨片40	
		シカ	上腕骨下右成獣	
SK-950	安行Ⅱ		獣骨片1	
SK-951	阿玉台IV~加曽利EⅠ	タニシ	1個	オオタニシ
		ヒタナリノシノリキ	1個	
		ヤマトシジミ	8個	
		ボラ	主経蓋骨右中型1	
		シカ	角片1, 獣骨片6	
		カモ	中手骨, 右	中小タイプ
SK-953	加曽利E	ヒト	頸蓋骨 (結合すべて明確, 青年?)	
SK-1044	加曽利B・安行Ⅰ	シカ	角, 右	
			獣骨片3	焼け1
SK-1049	[中期]	シカ	角片1	
			獣骨片1	
SK-1056	安行Ⅲa		椎骨破片1	
		イノシシ	下顎骨, 右 (I123CP1234M123) M3不完全メス	同一個体
		イノシシ	下顎骨, 左 (I12CP234M123) M3不完全メス	同一個体
		イノシシ	寛骨1, 右, 成獣	
		イノシシ	寛骨1, 左, 成, 小	
		イノシシ	胸椎4	
		イノシシ	肩甲骨1, 右, 成	
		イノシシ	腰椎3	
		イノシシ	尺骨, 右, 若獣	同一個体
		イノシシ	上腕骨, 右, 上, 若獣	同一個体
		イノシシ	上腕骨, 左, 若獣	同一個体
		イノシシ	仙椎1	

遺標名	時期	種名	部位	備考
SK-1066	安行Ⅲ a	イノシシ	大腸骨 1, 若獣	
		イノシシ	大腸骨, 左, 上, 若獣	
		イノシシ	中手Ⅱ中足骨 2個	
		イノシシ	膝蓋骨, 左?	
		イノシシ	脛骨, 右, 下, 老獣?	
		イノシシ	脛骨, 右, 若獣	同一個体
		イノシシ	脛骨, 右, 上	
		イノシシ	脛骨 1, 左, 下, 成獣	
		イノシシ	腓骨, 老獣?	
		サカナ	骨片 1	
		シカ	角, 左, 成獣	
		シカ	基節骨 1, 若獣	
		シカⅡイノシシ	趾骨 1	
			趾骨輪骨 2	
	趾骨片 5			
	趾骨動骨片 6			
SK-1065	安行Ⅰ	サカナ	3個	
SK-1066	安行Ⅲ a	ヤマトシジミ	4個	
		ハマグリ	1個	
		シオフキ	1個	
		サルボウ	1個	
		オオタニシ	1個	
		キツネ	上腕骨左成獣	
		ヒト	上腕骨左	(胎児?)
		カモ	中手骨右	中小
		イノシシ	桡平骨左若獣, 中手骨または中足骨 1	
	趾骨片 3			
	趾蓋? 趾片 1			
SK-1067A	(中期)	ヤマトシジミ	1 (長345mm, 大型)	
	オオタニシ	2個		
SK-1090	阿玉台Ⅲ-IV	シカ	下顎関節突起右若獣, 中手骨または中足骨下 1	
		イノシシ	尺骨左・右	
		イノシシ	第3後臼歯右	未出歯
			趾骨輪骨 1, 趾骨片 15	
SK-1091	安行Ⅱ	イノシシ	歯片 1	
SK-1104	中期中葉		趾骨片 1	
SK-1111	後期		趾骨片 4	
SK-1124	阿玉台Ⅳ	イノシシ	肩甲骨, 右, 若獣	
SK-1139	中期中葉		趾骨片 1	
SK-1153	加賀利 E I	イノシシ	上M 3 左	

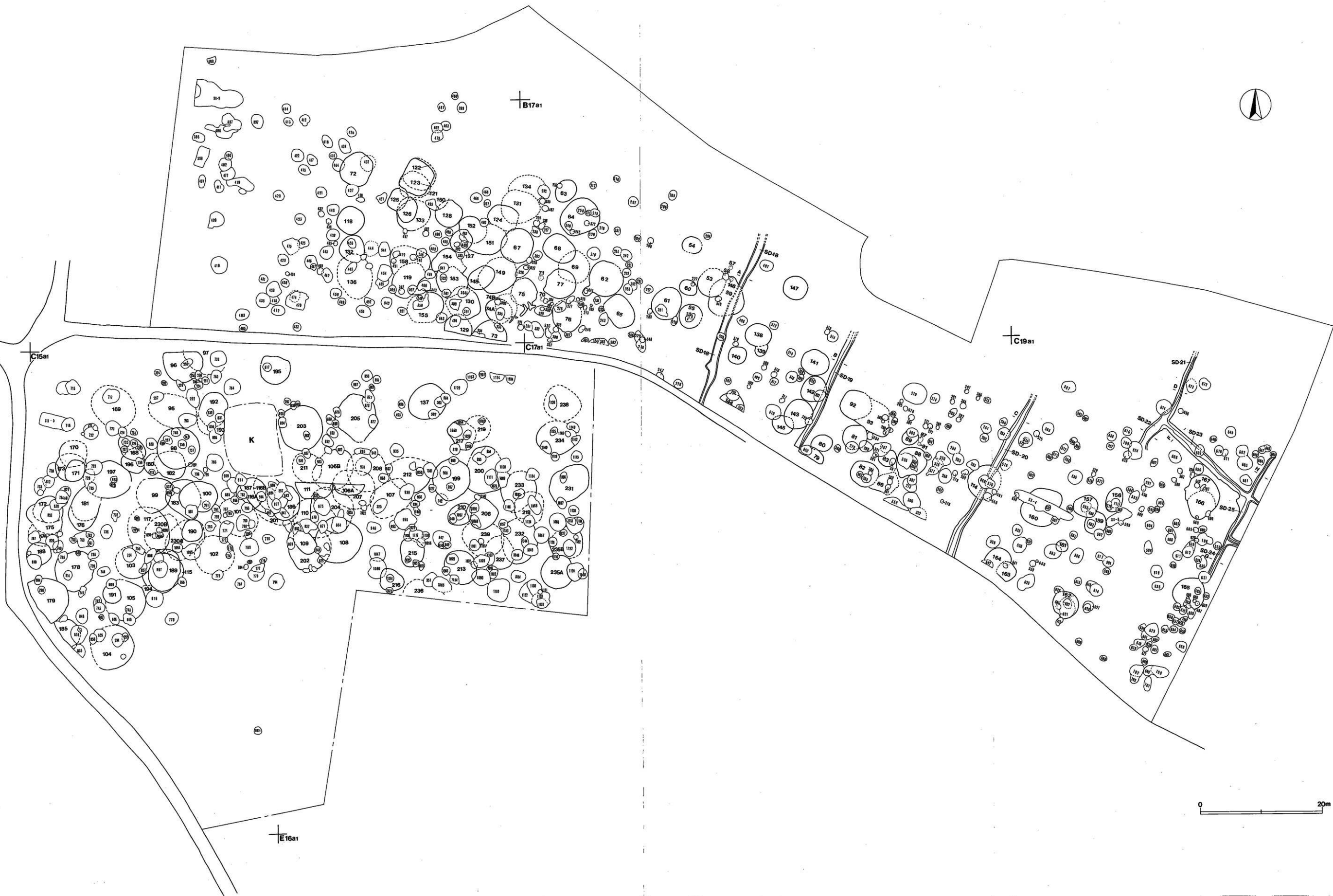
茨城県教育財団文化財調査報告第116集
伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2

前田村遺跡C・D・E区
(中 巻)

平成9 (1997) 年3月19日印刷
平成9 (1997) 年3月25日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310 水戸市見和1丁目356番地の2
TEL 029-225-6587
印刷 株式会社高野高速印刷
〒310 水戸市東原2-8-1
TEL 029-231-0989

前田村遺跡C・D区遺構配置図



前田村遺跡 E 区遺構配置図

